

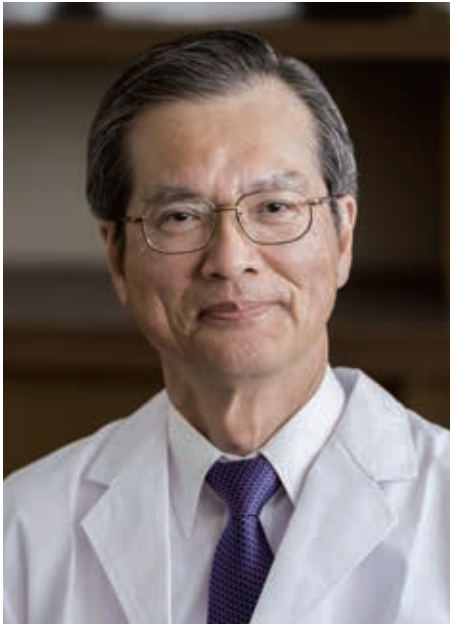
大阪府済生会千里病院年報

平成29年度(2017 年) vol.15



社会福祉法人^{恩賜財団}大阪府済生会千里病院

平成 29 年度年報発刊にあたって



院長 木内 利明

平成 29 年度年報をお届けします。この 1 年間、我々の病院でどのような活動が行われたのかを、少しでも知っていただければ幸いです。平成 27 年度からの 3 年中期計画では、病院経営が大きく傾いたので、病院全体の掲げるコンセプトは、「生き残りをかけた急性期病院改革」として、平成 29 年度に終了しました。病病連携、病診連携を強化して、特にアライアンス連携の 6 施設との綿密な連携強化に努めて、長期入院患者の転院、在宅復帰を目指しました。患者支援センターの体制変更で地域連携強化、病院内部構造改変で救命救急入院料算定率 100% を目指す、外来構造転換を積極的に行い、徹底した逆紹介を推進、緊急紹介患者の受け入れの強化で、長期入院患者数減少、平均在院日数 10 日を切る、1 日平均入院単価の上昇、紹介初診患者数増加など、臨床指標は、改善してきました。しかし、残念ながら、病院経営目標の 1 つである、安定した病院経営においては、まだ、不十分な結果となりました。

東海、東南海、南海大規模地震災害に対する大掛かりな訓練がこの 2 年間行われ、また、豊能 2 次医療圏では、阪大と当院が連携して、災害拠点病院として、2 次救急告示病院と連携訓練を行いました。地震に対する、各病院、各保健所、各医師会、また、各市行政担当者の日頃の訓練に対する意識の高まりを強く感じています。

地域包括ケアシステムのなかで、地域医療支援病院は、重要な役割を担う責任があります。各医療機関との連携、病院認定看護師の院外での教育活動、一般市民の健康に対する意識を高める、さらに済生会病院として、医療を受けやすくするための無料低額診療事業など、地域が求める医療を提供しなければなりません。

第 1 期 3 年中期計画で、積み残した課題、また、地域が、何を求めているのか、全職員が考え、第 2 期 3 年中期計画のなかで、病院全体目標、各部署の目標を掲げる作業が楽しみです。

病院の理念である「心のこもった医療」を行うには、患者さんおよびご家族の方々は、職員が笑顔で接すると、大きな元気をもらえます。医師からわかりやすく説明を聞くと、安心して安全な医療を受けられることを理解されます。退院されるときには、この病院で、治療を受けたことに大きな満足感を感じるようになります。これが、病院のめざす理念です。理念なき組織は最低である、利益なき組織が最悪である。また、no margin、no mission とも言われます。経営的に安定することが、必須です。

今年度の年報は、QR コードでのアクセスとさせていただきました。今後とも、よろしくお願いいたします。

済 生 会 小 史

明治 44 年 2 月 11 日、明治天皇は、時の総理大臣桂太郎を召されて「恵まれない人々のために施薬救療し、済生の道を弘めるように」との済生勅語に添えてお手元金 150 万円を下賜された。桂総理はこの御下賜金を基金として全国の官民から寄付金を募って同年 5 月 30 日^{恩賜}済生会を創立した。

以来今日まで 104 年、社会経済情勢の変化に伴い、存廃の窮地を乗り越えるなど幾多の変遷を経ながらも、本会は創立の精神を引き継いで保健・医療・福祉の充実・発展に必要な諸事業に取り組んできた。

戦後、昭和 26 年に公的医療機関の指定、同 27 年に社会福祉法人の認可を受け、現在、社会福祉法人^{恩賜}済生会となっている。

総 裁 秋篠宮殿下
会 長 有馬 朗人
理事長 炭谷 茂
本部＝東京
支部＝ 40 都道府県

病院	80	障害者福祉施設	8
診療所	17	看護師養成施設	8
介護老人保健施設	30	訪問看護ステーション	57
救護施設	1	地域包括支援センター	26
児童福祉施設	24	地域生活定着支援センター	4
老人福祉施設	124	その他	8
		計	387

職員数は全国で約 5 万 9 千人。

(平成 29 年 4 月 1 日現在)

済生会千里病院の理念

「心のこもった医療」

基本方針

1. 窮境にある人々の医療を積極的に支援します。
2. 安全で良質な医療を心をこめて提供します。
3. 医療の透明性とアカウンタビリティ（説明責任）に忠実である病院を実現します。
4. 地域の中核病院として、また救急医療を含む急性期医療の実践により地域医療に貢献できる病院を実現します。
5. 常に研鑽を積み、最高、最適の医療を追求します。

患者さんの権利と責務

（患者さん－医療者のパートナーシップの強化）

1. どなたにでも常に人格を尊重し、良質で安全な医療を公平に提供します。
2. あなたの病気やその診療について、わかりやすい言葉で詳しく説明をするよう努めています。もし、わからないところがあれば、質問してください。
3. あなたが気になること、疑問に思うこと、希望することなど、遠慮なくご相談ください。
4. 他の医師の意見（セカンド・オピニオン）や他の医療機関に転院を希望される場合は、おっしゃってください。
5. 治療方法などをご自分の意思で決めていただけるよう、十分な説明と情報提供を行います。
6. 診療の過程で得られた個人情報の秘密を守ります。また、病院内での私的な生活が、可能な限り他人にさらされず、乱されないように努めます。
7. 良質な医療を提供するため、あなたの健康に関する情報をできるだけ正確に伝えていただくようお願いします。
8. すべての患者さんが適切な医療を受けられるように、他の患者さんの診療に支障をきたさないよう、ご配慮をお願いします。
9. お互いに理解を深め、ともに治療を進めていきましょう。

目 次

まえがき

『済生会小史』『済生会千里病院の理念』

I. 沿革と平成 29 年度行事

- 1. 沿革..... 1
- 2. 平成 29 年度行事 2

II. 病院の現況

- 1. 病院の概要..... 3
- 2. 施設の概要..... 6
- 3. 設備の概要..... 9
- 4. 光熱水使用状況.....11

III. 病院の機構

- 1. 組織図.....12
- 2. 役職員名簿.....13
- 3. 会議・委員会組織図.....15

IV. 患者状況

- 1. 患者数の推移.....16
- 2. 年度別 1 日平均患者数.....16
- 3. 診療圏.....17
- 4. 年度別診療科別患者数.....18
- 5. 平成 29 年度入院患者数20
- 6. 平成 29 年度外来患者数21
- 7. 疾病統計.....23

V. 診療科の状況

- 1. 消化器内科.....30
- 2. 循環器内科.....31
- 3. 呼吸器・免疫内科.....32
- 4. 糖尿病内科.....33
- 5. 外科.....34
- 6. 小児科.....35
- 7. 整形外科.....36
- 8. 産婦人科.....37
- 9. 泌尿器科.....38
- 10. 歯科口腔外科.....39
- 11. 救命救急センター.....40
- 12. 麻酔科.....41

Ⅵ. 部門別活動状況

1. 薬剤部	42
2. 中央検査部	44
3. 放射線部	45
4. 臨床工学科	46
5. リハビリテーション部	48
6. 心大血管疾患リハビリテーション科	51
7. 栄養科	52

Ⅶ. 医療社会事業状況

1. 患者相談実績	53
2. 退院支援関係	53
3. 無料低額診療事業関係	54

Ⅷ. 初期臨床研修

1. ローテーションスケジュール	55
2. 研修管理委員会・研修管理運営委員会 開催状況	56

Ⅸ. 業績

1. 学会発表	57
2. 講演会等	62

X. 看護部研修

1. 院内研修 平成 29 年度	66
2. 認定看護師による教育プログラム	71
3. 看護助手会研修	73
4. 看護部クランク会研修	73

XI. 委員会・医療チーム活動

1. 委員会活動	74
2. 医療チーム活動	105

I. 沿革と平成 29 年度行事

1. 沿革

年 月 日	内 容
昭和42年 2月15日	大阪府と大阪府三師会（医師会・歯科医師会・薬剤師会）が出資し千里保健医療センター（現在の大阪府保健医療財団）を設置し、新千里病院（200 床）を開設
昭和46年12月15日	300 床に増改築竣工
昭和54年 8月31日	千里保健医療会館竣工（外来増設）
平成 4年 3月31日	MRI 棟竣工
平成 9年 3月25日	災害拠点病院に指定
平成14年 7月 1日	林 亨 院長就任
平成14年12月 2日	外来午後診療実施
平成15年 1月 4日	外来土曜日診療実施
平成15年 4月 1日	大阪府済生会千里病院 開設
平成15年 5月 1日	院外処方箋の全面実施
平成15年 7月 1日	シャトルバス運行開始
平成15年10月30日	臨床研修病院（管理型）の指定
平成15年12月16日	二次救急病院の告示（内科・外科大阪府告示第 91 号）
平成16年 4月 1日	大阪府立千里救命救急センターの管理運営事業の受託開始
平成16年 6月 1日	泌尿器科 常設
平成16年 9月 4日	セカンドオピニオン外来を開始
平成17年 2月 2日	新病院建設 安全祈願祭・起工式
平成18年 4月 1日	済生会千里病院千里救命救急センターとして併設
平成18年 7月 1日	新病院移転オープン、オーダーリングシステム稼働
平成19年 7月 1日	総合診療部 常設
平成20年 6月11日	（財）日本医療機能評価機構による病院機能評価（Ver.5.0）認定
平成21年 4月 1日	DPC 対象病院認可、電子カルテ導入
平成22年 4月 1日	大阪府がん診療拠点病院の認定取得
平成23年 4月 1日	げんき保育園 開園
平成23年 5月30日	済生会創立百周年記念式典（明治神宮記念会館）
平成23年11月25日	地域医療支援病院の承認
平成24年 2月 1日	心大血管疾患リハビリテーション室開設
平成24年 4月 1日	心臓血管センター開設
平成24年 7月18日	NPO 法人卒後臨床研修評価機構 卒後臨床研修病院認定
平成24年 8月 1日	電子カルテ更新
平成24年10月 9日	血管造影装置更新
平成25年 5月 1日	木内利明院長就任
平成25年 9月 9日	公益財団法人日本医療機能評価機構 病院機能評価審査：機能種別版 3rdG : Ver1.0 を認定
平成25年11月 9日	10 周年記念式典
平成26年 2月28日	災害管理棟建設 安全祈願祭・起工式
平成26年 3月28日	80 列マルチスライス CT 導入、乳房 X 線撮影装置更新
平成27年 4月 1日	脳神経外科 常設
	大阪府がん診療拠点病院の認定更新
平成27年 5月 7日	災害管理棟へ移転
平成28年 4月 1日	訪問看護ステーション開所
	初期臨床研修センター設置
	専攻医研修センター設置
	がん総合診療センター設置
平成28年 7月 1日	麻酔科外来開始
平成28年 9月 1日	NPO 法人卒後臨床研修評価機構 卒後臨床研修病院認定更新
平成29年 6月 1日	千里救命救急センター 救命救急士室開設

2. 平成 29 年度行事

月 日	内 容
4月 15日	第 49 回登録医総会
5月 13日	南千里地区公民館主催 市民健康講座
14日	第 40 回大阪府済生会親善ソフトボール大会
21日	第 6 回大阪千里子どもメディカルラリー
6月 3日	第 21 回開業医と勤務医との研修会
10日	北千里地区公民館主催 市民健康講座
22日	第 7 回千里・在宅医療 緩和を考える会
7月 1日	千里地区薬業連携研修会
8日	アロマハンドマッサージ
13日	第 12 回千里診療連携セミナー
8月 19日	第 8 回千里 RA 治療連携会
26日	ラストサマーフェスティバル（南公園）
9月	
11日～14日	釜ヶ崎地区健診事業
30日	第 50 回登録医総会
10月 19日	第 13 回千里診療連携セミナー
21日	第 16 回大阪千里メディカルラリー
26日	日本医師会生涯教育講座病院実習
11月 2日	第 1 回千里循環器研究会
5日	第 5 回大阪千里学生メディカルラリー
18日	北千里地区公民館主催 市民健康講座
12月 9日	南千里地区公民館主催 市民健康講座 クリスマスコンサート
10日	北大阪成人病公開講座
16日	ハンドトリートメントクリスマスイベント
21日	第 14 回千里診療連携セミナー
2月 3日	第 4 回千里骨粗鬆症を学ぶ会
15日	第 15 回千里診療連携セミナー
17日	第 10 回千里地区薬業連携研修会
22日	第 43 回整形臨床カンファレンス
3月 8日	第 2 回千里循環器病研究会
22日	第 8 回千里在宅医療・緩和を考える会

Ⅱ. 病院の現況

1. 病院の概要

- 名 称 社会福祉法人^{財団}済生会支部大阪府済生会千里病院
- 所 在 地 大阪府吹田市津雲台1丁目1番6号
- 開 設 者 社会福祉法人^{財団}済生会支部大阪府済生会
- 管 理 者 院長 木内 利明
- 敷 地 面 積 15,408.78㎡
- 延 床 面 積 29,205.86㎡
- 構 造 鉄骨鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造、一部鉄筋コンクリート造
- 床 数 343床（一般病床343床・うち開放病床10床、救命救急センターICU12床、救急病棟31床）
- 診 療 科 目 (1) 診療科目
診療科目
内科、心療内科、精神科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、糖尿病内科、免疫内科（リウマチ・アレルギー科）、小児科、外科、消化器外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、泌尿器科、産科、婦人科、放射線科、耳鼻いんこう科、救急科、リハビリテーション科、歯科、歯科口腔外科、麻酔科、病理診断科
(2) 専門・特殊外来
内 科：ペースメーカー外来、膠原病・ピロリ菌専門外来
外 科：乳腺外来、大腸・肛門外来、肝臓・胆のう・膵臓外来、胃・食道外来、ストーマ外来、ヘルニア外来
整形外科：スポーツ・関節外科外来、脊椎椎外科外来、手の外科外来、骨粗鬆症外来
小 児 科：低身長・喘息外来、発達外来
- 診 療 指 定 地域医療支援病院、災害拠点病院、臨床研修病院、大阪府がん診療拠点病院
大阪府肝炎専門医療機関、保険医療機関、生活保護法指定医療機関、労災指定、医療機関、被爆者一般疾病指定医療機関、結核予防法指定医療機関、公害医療、特定疾患、小児慢性特定疾患、母体保護法指定医療機関、指定自立支援医療機関
- 救 急 医 療 三次救急医療機関（救命救急センター）
二次救急医療機関
産婦人科診療相互援助システム基幹病院
- 教育指定・学会認定
 - ・厚生労働省指定臨床研修病院
 - ・日本内科学会認定医制度教育病院
 - ・日本消化器病学会認定施設
 - ・日本消化器内視鏡学会指導施設
 - ・日本肝臓学会認定施設

- ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- ・日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設
- ・日本核医学会専門医教育病院
- ・日本心血管インターベンション治療学会研修施設
- ・日本脈管学会認定研修指定施設
- ・日本高血圧学会専門医認定施設
- ・日本呼吸器学会認定施設
- ・日本糖尿病学会認定教育施設
- ・日本小児科学会小児科専門医研修施設
- ・日本外科学会外科専門医制度修練施設
- ・日本消化器外科学会専門医修練施設
- ・日本病態栄養学会認定栄養管理・NST 実施施設
- ・日本静脈経腸栄養学会・NST 稼働施設
- ・日本栄養療法推進協議会認定 NST 稼働施設
- ・日本大腸肛門病学会認定施設
- ・日本乳癌学会認定施設
- ・日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会エキスパンダー実施施設
- ・日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会インプラント実施施設
- ・日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会ストーマ認定施設
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設
- ・日本整形外科学会専門医制度研修施設
- ・日本泌尿器科学会基幹教育施設
- ・日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
- ・日本産婦人科学会専門研修連携施設
- ・日本口腔外科学会認定研修施設
- ・日本麻酔科学会麻酔科認定病院
- ・日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
- ・日本臨床細胞学会認定施設
- ・日本病理学会研修登録施設
- ・日本救急医学会指導医指定施設
- ・日本救急医学会救急科専門医指定施設
- ・日本集中治療医学会専門医研修施設
- ・日本外傷学会外傷専門医研修施設
- ・日本急性血液浄化学会認定指定施設

● 基準の届出

ア. 基本診療料等の施設基準等

歯科外来診療環境体制加算 2、急性期一般入院基本料 1、総合入院体制加算 3、臨床研修病院入院診療加算、救急医療管理加算、超急性期脳卒中加算、妊産婦緊急搬送入院加算、診療録管理体制加算 1、医師事務作業補助体制加算 2〔20 対 1〕、急性期看護補助体制加算〔25 対 1〕〔夜間 100 対 1〕〔看護体制加算〕、看護職員夜間 12 対 1 配置加算 1、療養環境加算、栄養サポートチーム加算、医療安全対策加算 1〔医療安全対策地域連携加算〕、感染防止対策加算 1〔感染防止対策地域連携加算〕〔抗菌薬適正使用支援チーム加算〕、患者サポート体制充実加算、褥瘡ハイリスク患者ケア加算、ハイリスク妊婦管理加算、ハイリスク分娩管理加算、病棟薬剤業務実施加算 1・2、データ提出加算 1〔提出データ評価加算〕、入退院支援加算 1〔地域連携診療計画加算〕〔入院時支援加算〕、認知症ケア加算 2、精神疾患診療体制加算、後発医薬品使用体制加算 1、救命救急入院料 1・4、小児入院医療管理料 4

イ. 特掲診療料等の施設基準等

糖尿病合併症管理料、がん性疼痛緩和指導管理料、がん患者指導管理料 1・2、糖尿病透析予防指

導管理料、院内トリアージ実施料、外来リハビリテーション診療料、開放型病院共同指導料、がん治療連携計画策定料、肝炎インターフェロン治療計画料、薬剤管理指導料、医療機器安全管理料 1、歯科治療総合医療管理料、在宅療養後方支援病院、HPV 核酸検出、検体検査管理加算（Ⅰ）（Ⅳ）、心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算、植込型心電図検査、時間内歩行試験、ヘッドアップティルト試験、センチネルリンパ節生検（乳がんに係るものに限る。）、CT 撮影及び MRI 撮影、抗悪性腫瘍剤処方管理加算、外来化学療法加算 1、無菌製剤処理料、心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）、脳血管等リハビリテーション料（Ⅱ）、運動器リハビリテーション料（Ⅰ）、呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）、がん患者リハビリテーション料、組織拡張器による再建手術（一連につき）（乳房（再建手術）の場合に限る。）（二次再建）、乳がんセンチネルリンパ節加算 1・2、ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）（一次一期的再建）、経皮的冠動脈形成術、経皮的冠動脈ステント留置術、経皮的中隔心筋焼灼術、ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術、リードレスペースメーカー、植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術、大動脈バルーンパンピング法（IABP 法）、経皮的大動脈遮断術、ダメージコントロール手術、体外衝撃波胆石破碎術、体外衝撃波膀胱石破碎術、早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術、体外衝撃波腎・尿管結石破碎術、腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術、腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術、医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6（歯科点数表第 2 章第 9 部の通則 4 を含む。）に掲げる手術、胃瘻造設術（内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。）、輸血管理料Ⅰ、輸血適正使用加算、人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算、胃瘻造設時嚥下機能評価加算、麻酔管理料（Ⅰ）（Ⅱ）、病理診断管理加算 1、クラウン・ブリッジ維持管理料、悪性腫瘍病理組織標本加算、乳腺炎重症化予防ケア・指導料

ウ. 先進医療

急性心筋梗塞に対するエポエチンベータ投与療法 急性心筋梗塞（再灌流療法の成功したものに限る。）

エ. 入院時食事療養費

入院時食事療養（Ⅰ）、特別食加算、食堂加算

● 交通アクセス

阪急電鉄千里線「南千里駅」下車 3 分

病院周辺地域には無料シャトルバスを運行（休診日は運休）

北コース（吹田市古江台・豊中市新千里北町方面）

東コース（吹田市山田方面）

西コース（吹田市桃山台方面）

● 外 来 診 療

ア. 診療時間

月曜日～金曜日 9：00～17：00

土曜日 9：00～12：00

イ. 受付時間

月曜日～土曜日 8：30～11：30（午前診察）

ウ. 休診日

日曜日、国民の祝日、12 月 31 日～1 月 3 日

エ. 急患については、救急外来にて 365 日、24 時間対応

● 面 会 時 間

一般病棟 平日：12：00～20：00 土・日祝日：10：00～20：00

救急病棟 全日：12：00～20：00

I C U 全日：12：00～13：00 18：00～20：00

2. 施設の概要

(1) 建物の概要及び用途

病 院 棟

	R 階	機械置場
	8 階	8 階病棟
	7 階	7 階病棟
	6 階	6 階病棟
屋上	5 階	5 階病棟
理学療法室 心大血管疾患リハビリ テーション室 管理部門	4 階	4 階病棟
管理部門 検体検査室	3 階	分娩室 新生児室 3 階病棟
手術室 中央材料室	2 階	救急病棟 集中治療室
外来	1 階	医事課 医療秘書室 患者支援センター
放射線科 内視鏡室	B 1 階	救急部 生理機能検査室
RI 室 管理部門	B 2 階	薬局 栄養科

災害管理棟

管理部門、講堂
管理部門、職員食堂
管理部門
管理部門、院内保育園
管理部門

救急管理棟

車庫、災害用倉庫

(病院棟各階主用途)

8階	8階病棟 (50床) 内科
7階	7階病棟 (50床) 内科
6階	6階病棟 (50床) 小児科、内科
5階	5階病棟 (50床) 外科 屋上
4階	4階病棟 (50床) 整形外科、歯科口腔外科 理学療法室、心大血管疾患リハビリテーション室、当直室
3階	3階病棟 (50床) 産婦人科、内科、分娩室、陣痛室、新生児室 検体検査室 (一般、血液、病理、生化学、細菌)、電機室、機械室
2階	救急病棟 (31床) 集中治療室 (12床) 中央手術室 (7室)、中央材料室
1階	外来 (内科、外科、整形外科、泌尿器科、小児科、眼科、産婦人科、歯科口腔外科)、 総合診療部、化学療法室、中央点滴室、医事課、医療秘書室、患者支援センター、売店
B1階	救急部 (初療室1・2、隔離初療室、点滴・処置室) 放射線科 (一般撮影1～3、泌尿器撮影、CT、TV1・2、アンギオ1・2、乳房撮影1・2、 歯科撮影、骨密度測定、MRI)、内視鏡室、生理機能検査室 (エコー、脳波、心エコー、 エルゴ、心電図)、防災センター
B2階	薬局、放射線科 (RI室)、栄養科 (厨房)、解剖室、霊安室、機械室、備蓄倉庫、 サービスヤード

(災害管理棟各階主用途)

4階	院長室、副院長室 (3室)、看護部長室、事務部長室、名誉院長室 (1室)、 顧問室 (2室)、応接室、秘書室、講堂
3階	事務室 (総務課、人事課、情報システム課、経営戦略課、品質管理室)、会議室5、 職員食堂他
2階	災害対策室、各科部長室 (15室)、副部長室、副看護部長室、看護部室、医療安全管理室、 感染管理室、治験管理室、臨床心理室、研修室、応接室他
1階	医局、用度・施設課、会議室1～4、院内保育園、更衣室、外来喫茶他
B1階	臨床工学科、当直室、洗濯室他

(救急管理棟主用途)

B1階	車庫 (4台)、救急救命災害会議室、待機室 (2室)、災害用倉庫 (2室)
-----	---------------------------------------

(2) 建物面積

・建築面積

病院棟建築面積 (㎡)	災害管理棟建築面積 (㎡)	救急管理棟建築面積 (㎡)
3,485.19	2,292.02	313.16

・各階別床面積

階	病院棟床面積 (㎡)	災害管理棟床面積 (㎡)	救急管理棟床面積 (㎡)	合 計 (㎡)
PH1 階	87.89	90.69	—	178.58
8 階	1,327.94	—	—	1,327.94
7 階	1,327.94	—	—	1,327.94
6 階	1,327.94	—	—	1,327.94
5 階	1,338.35	—	—	1,338.35
4 階	2,074.09	1,131.14	—	3,205.23
3 階	2,698.41	1,533.54	—	4,231.95
2 階	2,850.71	1,843.22	—	4,693.93
1 階	2,991.92	2,167.17	—	5,159.09
B 1 階	3,180.39	757.52	307.73	4,245.64
B 2 階	2,169.27	—	—	2,169.27
合 計	21,374.85	7,523.28	307.73	29,205.86

	面積 (㎡)
駐車場	2,800.89
駐輪場	283.50

3. 設備の概要

(1) 電気設備

ア. 受変電設備 6.6KVA 2回線受電 トランス×17台 総容量 5,500KVA

イ. コージェネレーション設備 常用発電機×1台 6.6KV 610KW

ウ. 非常用電源設備

(ア) 自家発電設備 (病院棟) ディーゼル発電機×1台 (A重油) 6.6KVA 1,000KVA
主負荷 保安回路用 (電灯、コンセント、動力、消防関係等)

(イ) 自家発電設備 (管理棟) ディーゼル発電機×1台 (A重油) 220V 225KVA
主負荷 保安回路用 (電灯、コンセント)

(ウ) 直流電源装置 (予備電源) シール型ペースト式鉛蓄電池
DC108V 500Ah/10HR
主負荷 発電機電圧確定までの予備電源
(非常照明、遮断器操作)

(エ) 無停電電源装置 UPS装置×1台 制御式鉛蓄電池
DC200V 150KVA 279Ah/10HR 180セル

エ. その他の設備 幹線動力設備/電灯設備/電話設備/防災設備/中央監視設備/避雷設備/放送設備/空調設備/患者呼出設備/ナースコール/ITV設備/誘導鈴設備

(2) 空気調和設備

ア. 熱源設備

(ア) 廃熱投入型冷温水器ジェネリンク×2台 冷却能力 633KW 加熱能力 530KW

(イ) 水冷ブラインチラー×2台 冷却能力 351KW (製氷時) 492KW (冷房追掛時)

(ウ) 氷蓄熱槽 ブライン流量 2,240ℓ～4,110ℓ/min ブライン保留量 6,600ℓ

(エ) 熱交換器 氷蓄熱槽系統 (プレート型)×1台 熱交換能力 984KW
暖房用 CGS 排温水系統 (シェルアンドチューブ型)×1台
熱交換能力 984KW
暖房用蒸気系統×1台 熱交換能力 480KW
井水予熱系統×1台 熱交換能力 209KW

イ. 空調方式について

(ア) 空気調和機 ヒートポンプパッケージ型/空冷式パッケージ型/ユニット型/コンパクト型

(イ) ファンコイルユニット

(ウ) ビルマルチエアコン

(エ) ガスエンジン式ヒートポンプエアコン

ウ. 換気方法 排気口 各階
第1種換気 機械室 電気室

エ. クリーンルーム

(ア) 手術室5・6 クラス 1000×2室 (バイオフィリーン)

(イ) 手術室1～3・7・8 クラス 10000×5室

(3) 給排水衛生設備

ア. 給水設備

(ア) 引込 吹田市本管より引込 (80 φ)

(イ) 井水設備 膜ろ過処理 計画水量 161m³

(ウ) 受水槽 FRP 製複合板 2 槽式 有効容量 96m³

(エ) 加圧給水ポンプ (システム型) 1,450 ℓ /min 22kw × 2 台 × 2 組

イ. ボイラー設備 貫流式ボイラー × 3 台 ガス焼き 実際蒸発量 1,690kg/h、伝熱面積 7.44m²

ウ. 給湯設備

(ア) ストレージタンク × 2 台 容量 5,500 ℓ 最高使用圧力 0.59Mpa

(イ) ガス湯沸器 瞬間湯沸器 300 号 × 1 台 50 号 × 6 台

エ. ガス設備 都市ガス 13A 45 MJ/m³ 中圧引込

用途 中圧 ボイラー用、コージェネ用、冷温水機用

低圧 一般用 (厨房、検体検査室、瞬間湯沸器)

安全対策 ガス遮断弁、ガス漏れ検知器設備

オ. その他の設備 給排水設備 / 衛生器具設備 / 医療ガス設備 / 厨房器具設備 / 排水中和処理設備

(4) 昇降機設備

ア. エレベーター・ダムウェーター

	No.	用途	定員 (人)	荷重 (Kg)	速度 (m/分)	台数	停止階	備 考
病院棟	1, 2	乗 用	15	1,000	105	2	B 2 ~ R F	地震時管制運転装置
	3, 4	寝台用	15	1,000	105	2	B 2 ~ 8 F	//
	5	人荷用	20	2,000	90	1	B 2 ~ 2 F	//
	6	乗 用	6	450	60	1	B 2 ~ 8 F	//
	7	人荷用	26	1,700	90	1	B 2 ~ 8 F	//
	8	小荷物		50	30	1	1 ~ 3 F	
	No.	用途	定員 (人)	荷重 (Kg)	速度 (m/分)	台数	停止階	備 考
管理棟	9	乗 用	15	1,000	60	1	B 1 ~ R F	地震時管制運転装置
	10	寝台用	15	1,000	60	1	B 1 ~ R F	//

※本館No.1 ~ 5、管理棟No.9 ▶ 10 車椅子対策仕様

※停電時使用可能 (病院棟 No.2, 4, 5 管理棟 No.10 ELV)

イ. エスカレーター × 2 台 輸送能力 4,500 人/h 速度 30m/min

4. 光熱水使用状況

平成 26 年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計
電気使用量 (kwh)	278,384	320,198	417,720	519,772	525,206	429,453	343,968	290,763	339,013	329,681	298,692	322,047	4,414,897
水道使用量 (m)	4,147	—	5,370	—	8,444	—	8,057	—	4,903	—	5,350	—	36,271
ガス使用量 (m)	88,545	82,672	88,870	101,538	105,301	87,634	82,320	91,941	119,863	123,946	114,284	111,675	1,198,589

平成 27 年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計
電気使用量 (kwh)	304,288	333,325	340,402	458,638	472,721	391,648	303,939	268,173	281,609	282,750	204,634	276,192	3,916,667
水道使用量 (m)	5,404	—	5,566	—	8,840	—	7,337	—	4,859	—	4,615	—	36,621
ガス使用量 (m)	82,111	81,968	83,660	95,700	102,461	81,463	79,216	83,399	114,088	113,912	116,810	100,801	1,135,595

平成 28 年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計
電気使用量 (kwh)	263,807	317,106	359,600	440,229	452,431	398,969	326,499	261,431	278,167	284,980	253,176	252,839	3,889,234
水道使用量 (m)	4,507	—	3,960	—	6,528	—	6,857	—	5,209	—	4,773	—	31,834
ガス使用量 (m)	74,179	88,609	88,422	100,375	114,081	95,417	88,422	83,171	88,909	116,696	106,727	104,231	1,149,239

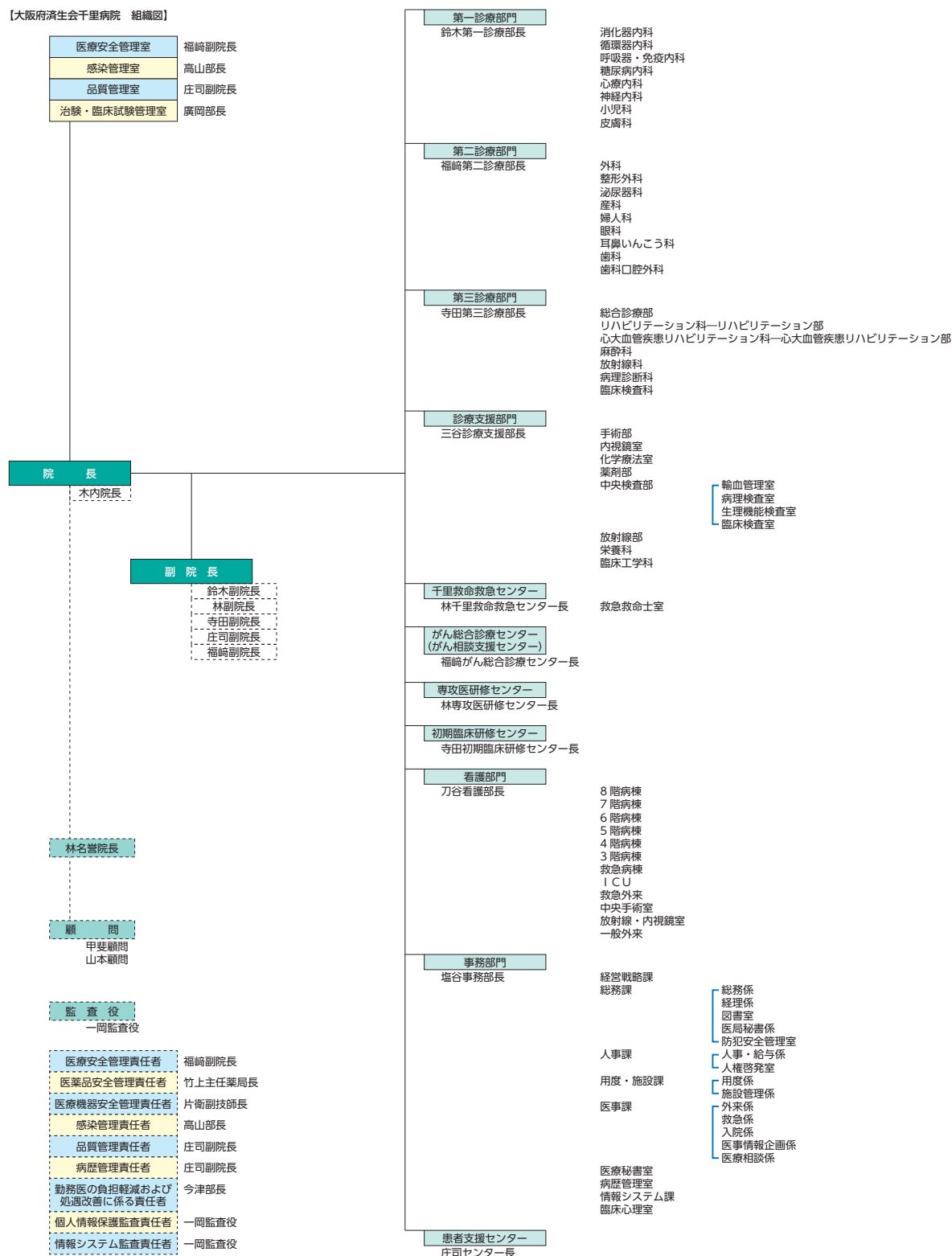
平成 29 年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計
電気使用量 (kwh)	257,203	319,811	345,861	465,087	452,837	360,970	299,317	271,857	297,947	297,483	265,642	283,560	3,917,575
水道使用量 (m)	5,275	—	8,431	—	9,903	—	10,086	—	6,860	—	5,483	—	46,038
ガス使用量 (m)	78,394	87,840	86,133	107,747	111,993	85,802	85,754	88,870	104,718	123,057	109,809	93,161	1,163,278

Ⅲ. 病院の機構

1. 組織図

【大阪府済生会千里病院 組織図】



【大阪府済生会千里病院訪問看護ステーション 組織図】



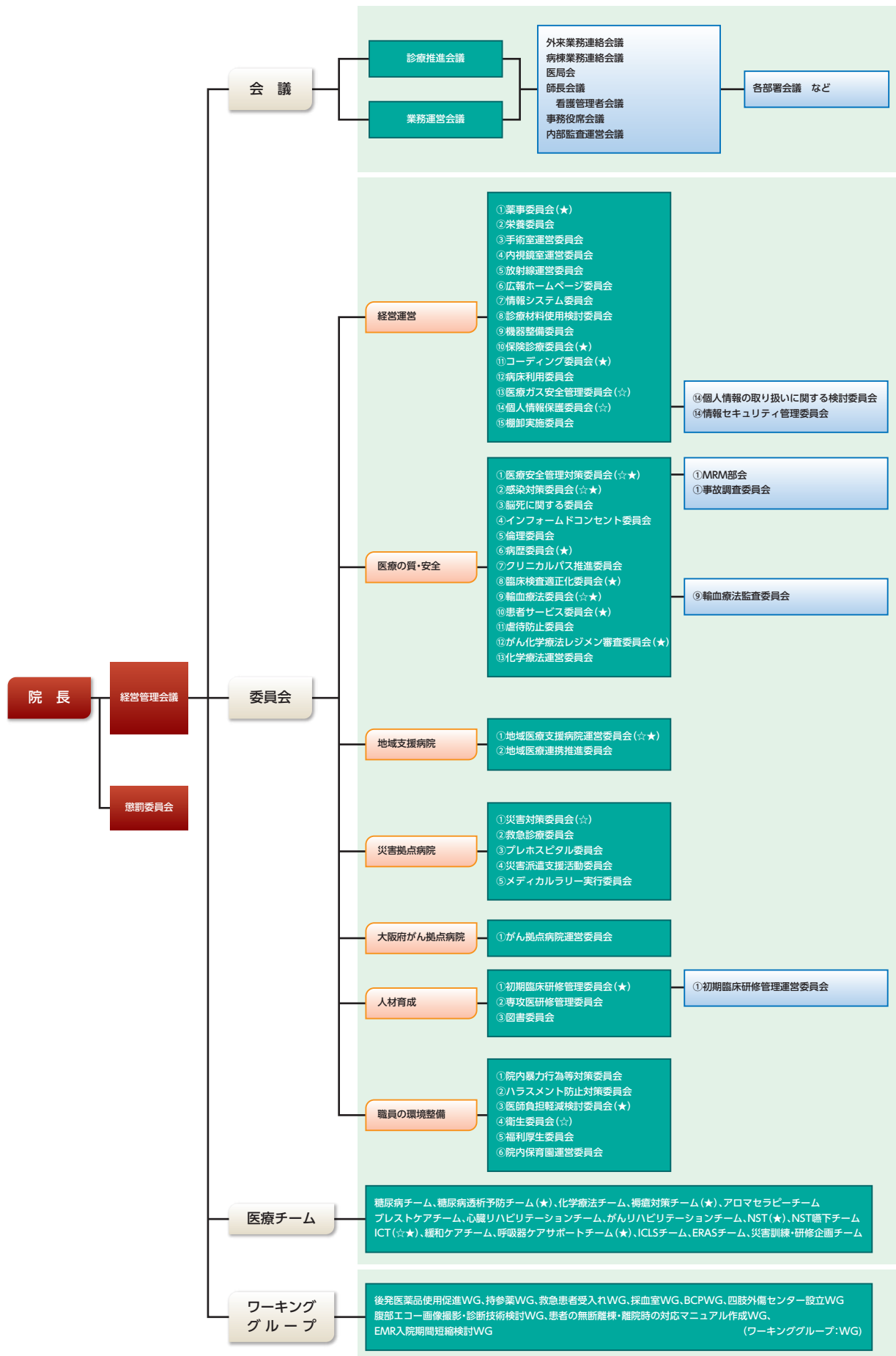
2. 役職員名簿

平成 30 年 3 月 31 日現在

役 職	氏 名
名誉院長	林 亨
院長 兼 千里病院会計会計責任者・予算管理責任者 兼 千里病院訪問看護ステーション会計責任者・予算管理責任者 兼 千里医療福祉センター会計 会計責任者・予算管理責任者 兼 副法令遵守責任者	木 内 利 明
副院長 兼 第一診療部長 兼 初期臨床研修プログラム責任者	鈴 木 都 男
副院長 兼 千里救命救急センターセンター長 兼 専攻医研修センターセンター長	林 靖 之
副院長 兼 第三診療部長 兼 総合初期研修科部長 兼 初期臨床研修センターセンター長	寺 田 浩 明
副院長 兼 患者支援センターセンター長 兼 電子保存システム監査責任者 兼 病歴管理責任者 兼 品質管理責任者	庄 司 恭 之
副院長 兼 第二診療部長 兼 がん総合診療センターセンター長 兼 医療安全管理責任者	福 崎 孝 幸
顧問	甲 斐 達 朗
顧問 兼 特定個人情報保護監査責任者	山 本 哲 夫
監査役 兼 個人情報保護監査責任者 兼 情報システム監査責任者	一 岡 重 男
医療安全管理室室長	井 上 千 代
品質管理室室長	浜 畑 利 美 江
消化器内科部長 兼 内視鏡室部長	堀 本 雅 祥
消化器内科副部長	奥 田 偉 秀
循環器内科部長 兼 生理機能検査室部長 兼 治験管理室室長	廣 岡 慶 治
循環器内科副部長	西 尾 ま ゆ
循環器内科副部長	久 米 清 士
循環器内科副部長 兼 心大血管疾患リハビリテーション科科长	奥 田 啓 二
呼吸器内科部長	山 根 宏 之
呼吸器内科副部長	古 川 貢
糖尿病内科部長	鈴 木 正 昭
糖尿病内科副部長	星 步
小児科主任部長	瀬 戸 眞 澄
小児科部長	森 本 恭 子
小児科副部長	吉 田 敏 子
外科部長 兼 化学療法室部長	吉 岡 節 子
外科部長 兼 乳腺内分泌外科部長	北 條 茂 幸
外科部長 兼 感染管理室室長 兼 感染管理責任者	高 山 治
外科副部長	豊 田 泰 弘
外科副部長	真 貝 竜 史
外科副部長	西 田 久 史
外科副部長	宮 垣 博 道
整形外科主任部長	安 原 良 典
整形外科部長 兼 リハビリテーション科科长	長 山 隆 一
整形外科副部長	坂 口 公 一
泌尿器科部長 兼 勤務医の負担軽減・処遇改善責任者	今 津 哲 央
泌尿器科副部長	花 房 隆 範
産科・婦人科部長	武 曾 博
歯科・歯科口腔外科部長	金 崎 朋 彦
歯科・歯科口腔外科副部長	山 本 直 典
総合診療部副部長	植 森 貞 為
麻酔科主任部長 兼 手術部部長	遠 藤 健
千里救命救急センター副センター長 兼 集中治療室（ICU）室長	澤 野 宏 隆
千里救命救急センター部長	大 津 谷 耕 一

役 職	氏 名
千里救命救急センター副部長 兼 輸血管理室室長	伊 藤 裕 介
千里救命救急センター副部長	小 濱 圭 祐
千里救命救急センター副部長	大 場 次 郎
千里救命救急センター副部長	夏 川 知 輝
千里救命救急センター副部長	大 谷 尚 之
放射線科部長 兼 診療支援部長	三 谷 尚
病理診断科部長	辻 求
リハビリテーション部副技士長	吉 田 美 由 紀
放射線部技師長	橋 岳 志
薬剤部主任薬局長 兼 医薬品安全管理責任者	竹 上 学
中央検査部技師長	今 井 清 隆
栄養科科長	吉 田 尚 子
臨床工学科副技士長 兼 医療機器安全管理責任者	片 衛 裕 司
看護部長	刀 谷 峰 子
副看護部長	田 原 祐 子
副看護部長 兼 ICU 看護師長	岩 崎 好 子
副看護部長	斉 藤 律 子
副看護部長	片 岡 節 子
看護部長室看護師長	京 極 多 歌 子
看護部長室看護師長	芦 田 有 理 枝
8 階病棟看護師長	木 村 愛 美
7 階病棟看護師長	瀬 古 理 香
6 階病棟看護師長	福 田 裕 美
5 階病棟看護師長	富 田 和 代
4 階病棟看護師長	森 本 美 鶴
3 階病棟看護師長	上 辻 真 寿 美
救急病棟看護師長	堀 三 枝 子
救急外来看護師長	安 本 友 子
中央手術室看護師長	山 田 真 理
放射線・内視鏡室看護師長	濱 口 寿 美 子
一般外来看護師長	村 田 君 代
事務部長 兼 特定個人情報取扱責任者 兼 千里病院固定資産管理責任者 兼 千里病院現金保管責任者 兼 千里医療福祉センター現金保管責任者	塩 谷 吉 宏
事務次長	高 元 信 二 郎
事務次長	田 中 憲 幸
経営戦略課課長代理	小 山 卓 也
総務課課長	樋 口 幸 二
人事課課長代理 兼 人権啓発室室長	土 井 明
用度・施設課課長代理	松 山 功
医事課課長	村 田 吉 江
医療秘書室室長	竹 中 大
病歴管理室室長	大 田 美 知 子
情報システム課課長 兼 病院情報システム管理者 兼 電子保存システム管理者 兼 ソフトウェア管理責任者 兼 電子保存システム運用責任者	上 島 康 裕
大阪府済生会千里病院訪問看護ステーション所長 兼 千里病院訪問看護ステーション固定資産管理責任者 兼 千里病院訪問看護ステーション会計現金保管責任者 兼 副法令遵守責任者	小 山 や よ い

3. 会議・委員会組織図



Ⅳ. 患者状況

1. 患者数の推移

(人)

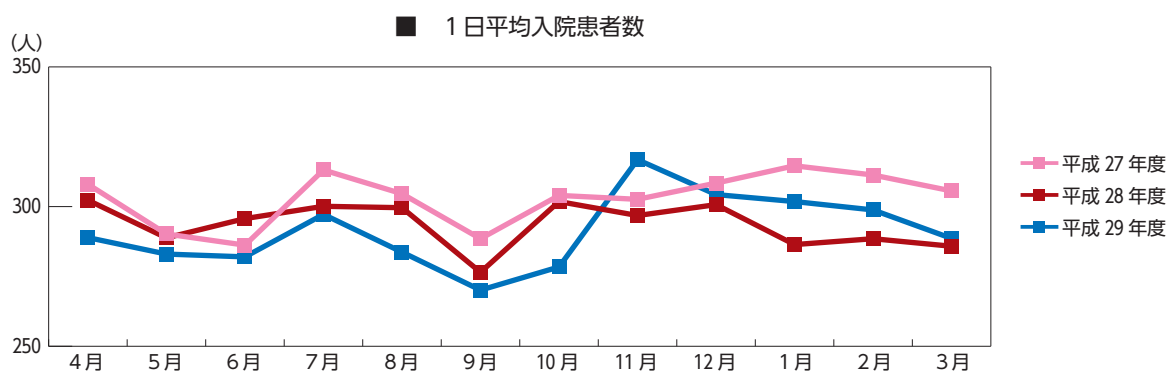
年 度	入 院	外 来
平成 27 年度	110,946	158,852
平成 28 年度	107,174	153,239
平成 29 年度	106,248	148,825

2. 年度別 1 日平均患者数

(1) 入院

(人)

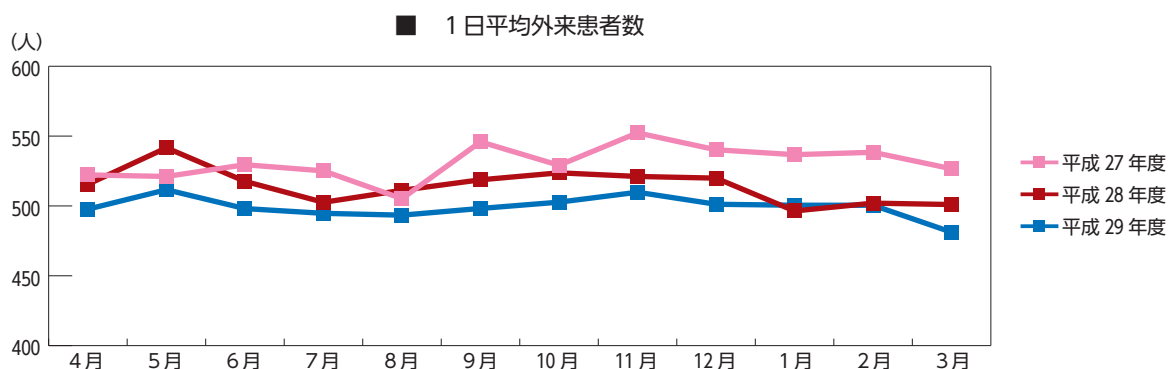
年度 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
平成 27 年度	308.0	290.2	286.2	313.1	304.6	288.5	304.0	302.6	308.4	314.6	311.3	305.6	303.2
平成 28 年度	302.3	288.8	295.7	300.1	299.6	276.5	301.8	296.8	300.7	286.4	288.5	285.8	293.6
平成 29 年度	288.9	283.0	282.0	297.2	283.7	270.1	278.4	316.8	304.3	301.8	298.8	288.6	291.1



(2) 外来

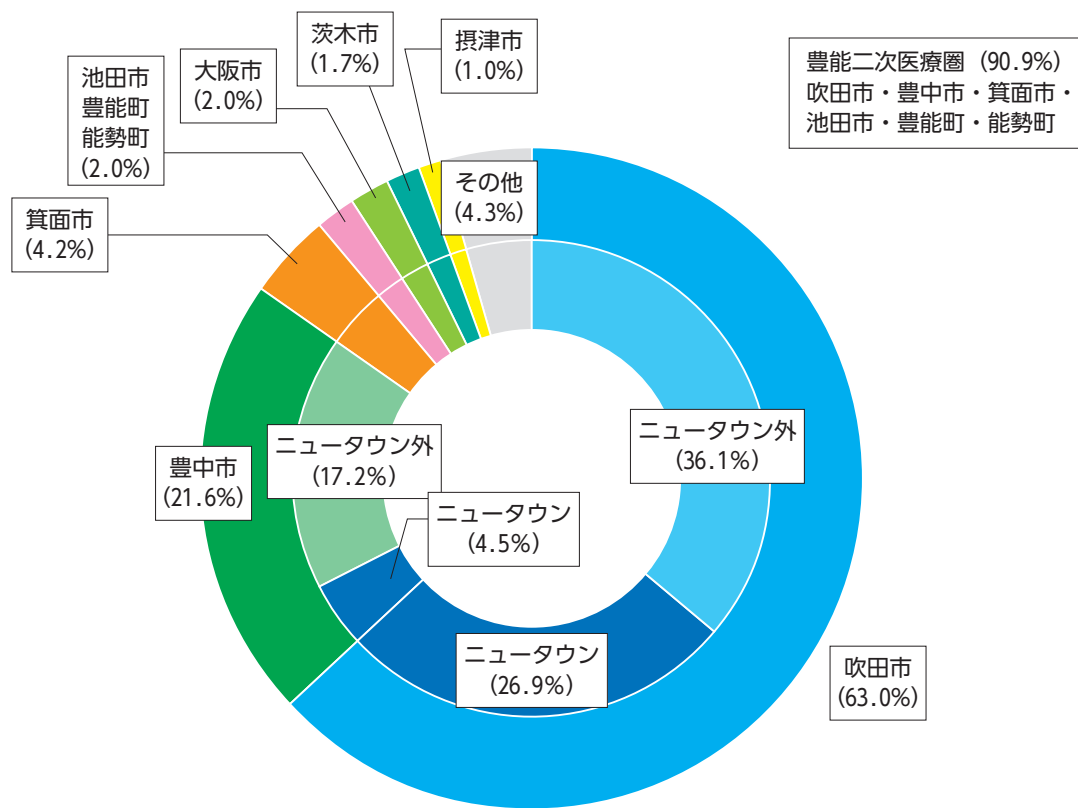
(人)

年度 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
平成 27 年度	522.2	521.1	529.5	525.1	505.2	545.9	529.1	552.3	540.2	536.7	538.4	526.6	530.5
平成 28 年度	515.5	541.6	517.6	502.6	511.2	518.7	523.7	521.1	519.9	496.4	502.0	501.0	514.3
平成 29 年度	497.7	511.6	498.1	494.7	493.4	498.2	502.7	509.8	501.2	500.5	500.5	481.2	499.0

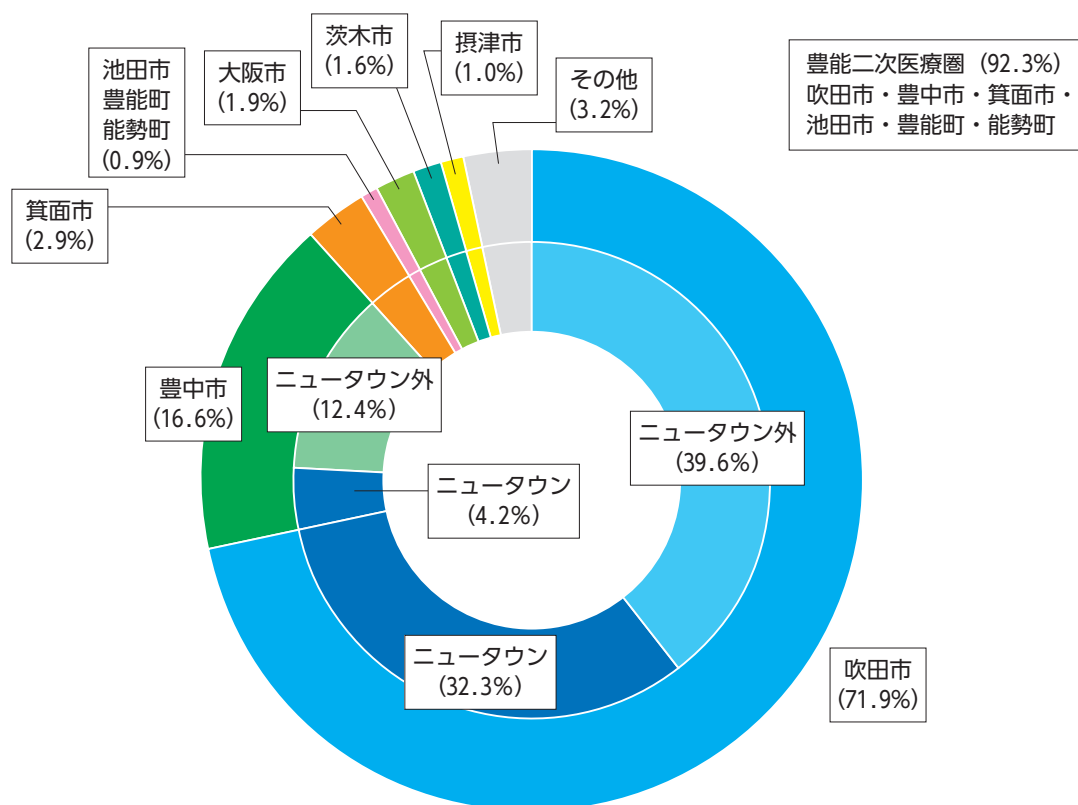


3. 診療圏

(1) 入院



(2) 外来



4. 年度別診療科別患者数

(1) 入院

(人、日)

科	年度	平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度	
		延数	1 日平均	延数	1 日平均	延数	1 日平均	延数	1 日平均	延数	1 日平均
循環器内科		9,257	25.4	8,324	22.8	10,188	27.8	10,560	28.9	12,024	32.9
消化器内科		20,109	55.1	18,347	50.3	16,360	44.7	13,333	36.5	11,778	32.3
呼吸器内科		9,299	25.5	6,026	16.5	6,583	18.0	6,962	19.1	8,965	24.6
糖尿病内科		1,371	3.8	1,726	4.7	1,851	5.1	2,107	5.8	1,836	5.0
外科		16,133	44.2	16,137	44.2	16,843	46.0	13,870	38.0	14,763	40.4
整形外科		13,700	37.5	13,219	36.2	13,252	36.2	13,112	35.9	12,112	33.2
脳神経外科		—	—	—	—	205	0.6	192	0.5	0	0.0
小児科		3,551	9.7	3,787	10.4	4,525	12.4	4,175	11.4	4,161	11.4
産婦人科		8,629	23.6	8,947	24.5	9,220	25.2	8,812	24.1	7,860	21.5
泌尿器科		5,389	14.8	5,615	15.4	4,885	13.3	5,828	16.0	4,702	12.9
歯科・口腔外科		1,753	4.8	1,514	4.1	1,345	3.7	1,425	3.9	1,376	3.8
総合診療部		2,552	7.0	3,432	9.4	2,802	7.7	3,578	9.8	3,439	9.4
救命救急センター		22,214	60.9	22,930	62.8	22,887	62.5	23,220	63.6	23,232	63.6
合 計		113,957	312.2	110,004	301.4	110,946	303.2	107,174	293.5	106,248	291.1

(2) 平均在院日数（従来法）

(人、日)

科	年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
		12.0	14.5	11.8	10.0	10.2
循環器内科		12.0	14.5	11.8	10.0	10.2
消化器内科		9.4	8.6	7.8	7.6	7.1
呼吸器内科		15.9	15.2	16.0	16.5	16.4
糖尿病内科		16.8	20.4	18.5	17.0	15.8
外科		11.2	11.1	11.4	10.1	9.6
整形外科		15.2	14.8	14.8	13.6	13.5
脳神経外科		—	—	18.5	12.2	—
小児科		6.3	5.9	6.0	5.7	5.7
産婦人科		7.6	7.1	7.5	15.1	14.9
泌尿器科		8.6	9.4	8.5	9.6	7.7
歯科・口腔外科		12.2	5.6	3.9	3.9	3.7
総合診療部		13.8	17.0	12.0	11.8	12.5
救命救急センター		10.9	11.9	11.7	11.9	11.3
合 計		10.8	10.6	10.2	10.0	9.7

平均在院日数の算式＝入院患者延数÷1/2（新入院患者数＋退院患者数）

(3) 外来

(人、日)

科	年度	平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度	
		延数	1 日平均	延数	1 日平均	延数	1 日平均	延数	1 日平均	延数	1 日平均
循環器内科		19,027	64.5	16,859	57.1	16,906	57.1	16,254	55.1	15,771	53.5
消化器内科		21,145	71.7	20,530	69.6	20,236	68.4	18,931	64.2	18,353	62.2
呼吸器内科		7,568	25.7	7,889	26.7	7,462	25.2	7,696	26.1	8,245	27.9
糖尿病内科		5,850	19.8	6,114	20.7	6,460	21.8	6,834	23.2	6,534	22.1
外科		22,006	74.6	21,698	73.6	21,747	73.5	21,067	71.4	21,575	73.1
整形外科		18,441	62.5	17,648	59.8	16,806	56.8	18,165	61.6	17,578	59.6
脳神経外科		—	—	—	—	644	2.2	574	1.9	16	0.1
小児科		4,781	16.2	4,938	16.7	5,217	17.6	5,132	17.4	4,363	14.8
産科		3,668	12.4	3,302	11.2	3,765	12.7	3,352	11.4	2,782	9.4
婦人科		11,950	40.5	13,814	46.8	14,800	50.0	13,446	45.6	12,163	41.2
眼科		10	0.0	11	0.0	29	0.1	94	0.3	135	0.5
耳鼻咽喉科		452	1.5	438	1.5	471	1.6	536	1.8	442	1.5
泌尿器科		10,775	36.5	10,792	36.6	10,305	34.8	10,606	36.0	10,650	36.1
皮膚科		32	0.1	33	0.1	73	0.2	191	0.6	215	0.7
神経内科		1,045	3.5	1,315	4.5	1,332	4.5	1,425	4.8	1,110	3.8
膠原病リウマチ内科		507	1.7	619	2.1	715	2.4	844	2.9	873	3.0
心療内科		2,577	8.7	2,520	8.5	1,679	5.7	2,169	7.4	2,364	8.0
リハビリ科		2,434	8.3	2,196	7.4	2,036	6.9	21	0.1	0	0.0
心リハ		2,852	9.7	1,488	5.0	1,416	4.8	1,304	4.4	1,031	3.5
歯科・口腔外科		5,992	20.3	6,671	22.6	6,581	22.2	7,064	23.9	8,238	27.9
委託検査		4,013	13.6	4,092	13.9	4,360	14.7	4,409	14.9	4,653	15.8
総合診療部		7,378	25.0	6,487	22.0	6,425	21.7	5,138	17.4	3,367	11.4
救命救急センター		9,243	25.3	9,086	24.9	9,387	25.6	7,987	21.9	8,367	22.9
合 計		161,746	542.3	158,540	531.5	158,852	530.5	153,239	514.3	148,825	499.0

5. 平成 29 年度入院患者数

(1) 延数

(人)

科	病床	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	28年度	差引	増減率
循環器内科	31	1,102	962	913	1,080	1,029	793	894	1,179	1,163	996	937	976	12,024	10,560	1,464	113.9%
消化器内科	35	888	1,096	1,022	1,034	1,136	985	927	1,012	903	878	906	991	11,778	13,333	-1,555	88.3%
呼吸器内科	24	800	702	634	736	629	671	760	694	836	906	822	775	8,965	6,962	2,003	128.8%
糖尿病内科	6	91	151	141	156	158	145	194	154	219	126	135	166	1,836	2,107	-271	87.1%
外科	39	1,113	1,043	1,015	1,153	1,337	1,356	1,245	1,351	1,396	1,386	1,066	1,302	14,763	13,870	893	106.4%
整形外科	38	1,022	1,030	1,216	1,036	950	817	838	1,062	953	907	1,135	1,146	12,112	13,112	-1,000	92.4%
脳神経外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	192	-192	0.0%
小児科	11	248	398	320	402	371	307	331	340	280	378	347	439	4,161	4,175	-14	99.7%
産婦人科	24	684	582	543	766	538	541	709	676	797	708	600	716	7,860	8,812	-952	89.2%
泌尿器科	17	382	424	371	369	371	432	528	479	326	323	320	377	4,702	5,828	-1,126	80.7%
歯科・口腔外科	5	93	97	104	157	102	119	96	125	104	137	104	138	1,376	1,425	-49	96.6%
総合診療部	7	345	400	330	351	433	348	251	300	204	233	176	68	3,439	3,578	-139	96.1%
救命救急センター	70	1,898	1,887	1,851	1,972	1,740	1,590	1,856	2,133	2,253	2,379	1,819	1,854	23,232	23,220	12	100.1%
合 計	307	8,666	8,772	8,460	9,212	8,794	8,104	8,629	9,505	9,434	9,357	8,367	8,948	106,248	107,174	-926	99.1%

(2) 1日平均患者数

(人)

科	病床	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	28年度	差引	増減率
循環器内科	31	36.7	31.0	30.4	34.8	33.2	26.4	28.8	39.3	37.5	32.1	33.5	31.5	32.9	28.9	4.0	113.8%
消化器内科	35	29.6	35.4	34.1	33.4	36.6	32.8	29.9	33.7	29.1	28.3	32.4	32.0	32.3	36.5	-4.2	88.5%
呼吸器内科	24	26.7	22.6	21.1	23.7	20.3	22.4	24.5	23.1	27.0	29.2	29.4	25.0	24.6	19.1	5.5	128.8%
糖尿病内科	6	3.0	4.9	4.7	5.0	5.1	4.8	6.3	5.1	7.1	4.1	4.8	5.4	5.0	5.8	-0.8	86.2%
外科	39	37.1	33.6	33.8	37.2	43.1	45.2	40.2	45.0	45.0	44.7	38.1	42.0	40.4	38.0	2.4	106.3%
整形外科	38	34.1	33.2	40.5	33.4	30.6	27.2	27.0	35.4	30.7	29.3	40.5	37.0	33.2	35.9	-2.7	92.5%
脳神経外科	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	-0.5	0.0%
小児科	11	8.3	12.8	10.7	13.0	12.0	10.2	10.7	11.3	9.0	12.2	12.4	14.2	11.4	11.4	0.0	100.0%
産婦人科	24	22.8	18.8	18.1	24.7	17.4	18.0	22.9	22.5	25.7	22.8	21.5	23.1	21.5	24.1	-2.6	89.2%
泌尿器科	17	12.7	13.7	12.4	11.9	12.0	14.4	17.0	16.0	10.5	10.4	11.4	12.2	12.9	16.0	-3.1	80.6%
歯科・口腔外科	5	3.1	3.1	3.5	5.1	3.3	4.0	3.1	4.2	3.4	4.4	3.7	4.5	3.8	3.9	-0.1	97.4%
総合診療部	7	11.5	12.9	11.0	11.3	14.0	11.6	8.1	10.0	6.6	7.5	6.3	2.2	9.4	9.8	-0.4	95.9%
救命救急センター	70	63.3	60.9	61.7	63.6	56.1	53.0	59.9	71.1	72.7	76.7	65.0	59.8	63.6	63.6	0.0	100.0%
合 計	307	288.9	282.9	282.0	297.1	286.7	270.0	278.4	316.7	304.3	301.7	299.0	288.9	291.1	293.5	-2.4	99.2%

(3) 病床利用率

病棟	病床	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	28年度	差引	増減率
3階	50	86.2%	86.2%	76.2%	89.2%	75.4%	80.4%	78.4%	93.6%	89.0%	82.4%	84.2%	85.2%	83.8%	85.6%	-1.8%	97.9%
4階	50	95.0%	89.0%	95.8%	96.6%	87.4%	85.0%	88.2%	101.4%	100.0%	97.0%	98.6%	93.6%	94.0%	94.2%	-0.2%	99.8%
5階	50	89.4%	84.4%	84.8%	91.4%	89.2%	88.0%	86.0%	99.6%	95.0%	92.8%	92.6%	89.8%	90.2%	91.6%	-1.4%	98.5%
6階	50	59.4%	63.0%	64.0%	63.2%	65.8%	61.6%	64.4%	64.6%	61.8%	65.4%	62.2%	65.8%	63.4%	62.8%	-0.6%	101.0%
7階	50	92.0%	91.6%	88.6%	93.2%	94.4%	83.6%	89.4%	101.6%	98.8%	96.6%	98.0%	89.0%	93.0%	93.0%	0.0%	100.0%
8階	50	93.2%	92.0%	89.4%	97.2%	94.8%	84.0%	87.8%	101.4%	95.6%	96.6%	100.0%	92.2%	93.6%	94.4%	-0.8%	99.2%
ICU	12	44.2%	46.7%	56.7%	47.5%	53.3%	45.8%	54.2%	66.7%	60.0%	72.5%	55.0%	58.3%	55.0%	68.3%	-13.3%	80.5%
救急病棟	31	83.5%	78.1%	83.5%	83.9%	76.8%	75.5%	80.0%	89.7%	87.1%	89.4%	79.0%	76.8%	81.9%	79.0%	2.9%	103.7%
合 計	343	84.2%	82.5%	82.2%	86.6%	82.7%	78.7%	81.2%	92.4%	88.7%	88.0%	87.1%	84.1%	84.9%	85.6%	-0.7%	99.2%

(4) 平均在院日数（従来法）

(日)

区分	病床	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平均在院日数	343	10.0	10.0	9.3	9.4	8.6	9.1	9.6	10.2	10.1	10.1	9.7	10.0	9.7

(5) 平均在院日数（届出法：算定除外患者を除いた者）

(日)

区分	病床	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平均在院日数	343	10.8	10.8	9.8	10.0	9.2	10.1	10.4	11.0	10.6	10.6	10.4	10.4	10.3

6. 平成 29 年度外来患者数

(1) 延数

(人)

科	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	月平均	28 年度	差 引	増減率
循環器内科		1,354	1,333	1,396	1,330	1,397	1,280	1,226	1,293	1,336	1,248	1,238	1,340	15,771	1,314	16,254	-483	97.0%
消化器内科		1,454	1,495	1,622	1,550	1,594	1,487	1,639	1,640	1,534	1,395	1,478	1,465	18,353	1,529	18,931	-578	96.9%
呼吸器内科		635	602	656	651	666	664	686	685	778	738	696	788	8,245	687	7,696	549	107.1%
糖尿病内科		515	539	560	506	570	537	574	554	567	544	503	565	6,534	545	6,834	-300	95.6%
外科		1,774	1,780	1,842	1,728	1,786	1,835	1,967	1,862	1,883	1,670	1,665	1,783	21,575	1,798	21,067	508	102.4%
整形外科		1,326	1,459	1,594	1,461	1,511	1,368	1,473	1,483	1,477	1,328	1,396	1,702	17,578	1,465	18,165	-587	96.8%
脳神経外科		1	3	6	1	0	2	1	1	1	0	0	0	16	1.3	574	-558	2.8%
小児科		386	375	389	406	438	310	352	311	353	320	300	423	4,363	364	5,132	-769	85.0%
産科		218	206	262	215	228	189	232	230	230	246	239	287	2,782	232	3,352	-570	83.0%
婦人科		984	1,097	1,051	1,045	1,012	995	1,115	1,018	1,050	910	923	963	12,163	1,014	13,446	-1,283	90.5%
眼科		6	15	15	12	13	10	12	12	9	13	11	7	135	11	94	41	143.6%
耳鼻咽喉科		48	38	40	26	39	44	48	41	28	25	40	25	442	37	536	-94	82.5%
泌尿器科		814	891	897	906	976	934	885	890	897	803	833	924	10,650	888	10,606	44	100.4%
皮膚科		17	17	22	23	21	17	13	17	13	29	10	16	215	18	191	24	112.6%
神経内科		102	102	98	102	110	86	105	82	90	74	70	89	1,110	93	1,425	-315	77.9%
膠原病リウマチ内科		86	70	78	72	82	64	72	73	69	66	67	74	873	73	844	29	103.4%
心療内科		164	207	174	219	178	187	267	171	210	189	200	198	2,364	197	2,169	195	109.0%
リハビリ科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	-21	0.0%
心リハ		88	88	93	85	74	74	78	95	86	85	86	99	1,031	86	1,304	-273	79.1%
歯科・口腔外科		634	638	687	655	784	672	659	692	748	639	678	752	8,238	687	7,064	1,174	116.6%
委託検査		429	400	446	386	340	382	412	411	350	330	356	411	4,653	388	4,409	244	105.5%
総合診療部		356	414	444	418	453	310	183	153	187	198	159	92	3,367	281	5,138	-1,771	65.5%
救命救急センター		687	654	668	717	671	634	704	655	786	888	688	615	8,367	697	7,987	380	104.8%
合 計		12,078	12,423	13,040	12,514	12,943	12,081	12,703	12,369	12,682	11,738	11,636	12,618	148,825	12,402	153,239	-4,414	97.1%

(2) 1 日平均患者数

(人)

科	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	28 年度	差 引	増減率
循環器内科		56.4	55.5	53.7	53.2	53.7	53.3	49.0	53.9	53.4	54.3	53.8	51.5	53.5	55.1	-1.6	97.1%
消化器内科		60.6	62.3	62.4	62.0	61.3	62.0	65.6	68.3	61.4	60.7	64.3	56.3	62.2	64.2	-2.0	96.9%
呼吸器内科		26.5	25.1	25.2	26.0	25.6	27.7	27.4	28.5	31.1	32.1	30.3	30.3	27.9	26.1	1.8	106.9%
糖尿病内科		21.5	22.5	21.5	20.2	21.9	22.4	23.0	23.1	22.7	23.7	21.9	21.7	22.1	23.2	-1.1	95.3%
外科		73.9	74.2	70.8	69.1	68.7	76.5	78.7	77.6	75.3	72.6	72.4	68.6	73.1	71.4	1.7	102.4%
整形外科		55.3	60.8	61.3	58.4	58.1	57.0	58.9	61.8	59.1	57.7	60.7	65.5	59.6	61.6	-2.0	96.8%
脳神経外科		0.0	0.1	0.2	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	1.9	-1.8	5.3%
小児科		16.1	15.6	15.0	16.2	16.8	12.9	14.1	13.0	14.1	13.9	13.0	16.3	14.8	17.4	-2.6	85.1%
産科		9.1	8.6	10.1	8.6	8.8	7.9	9.3	9.6	9.2	10.7	10.4	11.0	9.4	11.4	-2.0	82.5%
婦人科		41.0	45.7	40.4	41.8	38.9	41.5	44.6	42.4	42.0	39.6	40.1	37.0	41.2	45.6	-4.4	90.4%
眼科		0.3	0.6	0.6	0.5	0.5	0.4	0.5	0.5	0.4	0.6	0.5	0.3	0.5	0.3	0.2	166.7%
耳鼻咽喉科		2.0	1.6	1.5	1.0	1.5	1.8	1.9	1.7	1.1	1.1	1.7	1.0	1.5	1.8	-0.3	83.3%
泌尿器科		33.9	37.1	34.5	36.2	37.5	38.9	35.4	37.1	35.9	34.9	36.2	35.5	36.1	36.0	0.1	100.3%
皮膚科		0.7	0.7	0.8	0.9	0.8	0.7	0.5	0.7	0.5	1.3	0.4	0.6	0.7	0.6	0.1	116.7%
神経内科		4.3	4.3	3.8	4.1	4.2	3.6	4.2	3.4	3.6	3.2	3.0	3.4	3.8	4.8	-1.0	79.2%
膠原病リウマチ内科		3.6	2.9	3.0	2.9	3.2	2.7	2.9	3.0	2.8	2.9	2.9	2.8	3.0	2.9	0.1	103.4%
心療内科		6.8	8.6	6.7	8.8	6.8	7.8	10.7	7.1	8.4	8.2	8.7	7.6	8.0	7.4	0.6	108.1%
リハビリ科		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	-0.1	0.0%
心リハ		3.7	3.7	3.6	3.4	2.8	3.1	3.1	4.0	3.4	3.7	3.7	3.8	3.5	4.4	-0.9	79.5%
歯科・口腔外科		26.4	26.6	26.4	26.2	30.2	28.0	26.4	28.8	29.9	27.8	29.5	28.9	27.9	23.9	4.0	116.7%
委託検査		17.9	16.7	17.2	15.4	13.1	15.9	16.5	17.1	14.0	14.3	15.5	15.8	15.8	14.9	0.9	106.0%
総合診療部		14.8	17.3	17.1	16.7	17.4	12.9	7.3	6.4	7.5	8.6	6.9	3.5	11.4	17.4	-6.0	65.5%
救命救急センター		22.9	21.1	22.3	23.1	21.6	21.1	22.7	21.8	25.4	28.6	24.6	19.8	22.9	21.9	1.0	104.6%
合 計		497.7	511.6	498.1	494.7	493.4	498.2	502.7	509.8	501.2	500.5	500.5	481.2	499.0	514.3	-15.3	97.0%

(3) 新患率

科	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	28 年度	増減率
循環器内科		5.8%	5.4%	5.4%	4.5%	5.5%	4.5%	6.9%	5.7%	6.7%	7.1%	8.1%	7.2%	6.04%	4.8%	125.0%
消化器内科		10.0%	8.4%	9.4%	10.8%	10.0%	10.5%	10.5%	10.6%	9.1%	11.3%	9.9%	9.5%	10.0%	9.1%	109.9%
呼吸器内科		11.7%	12.0%	11.9%	12.1%	10.7%	11.3%	12.7%	10.1%	12.2%	12.2%	10.2%	11.0%	11.5%	10.6%	108.5%
糖尿病内科		2.9%	3.2%	3.4%	3.0%	1.8%	2.6%	4.5%	2.3%	3.7%	5.7%	2.6%	5.1%	3.4%	3.0%	113.3%
外科		8.9%	7.8%	8.3%	9.2%	8.8%	8.1%	7.3%	8.2%	6.7%	5.4%	6.5%	5.9%	7.6%	8.1%	93.8%
整形外科		12.7%	13.6%	12.9%	12.4%	12.6%	12.2%	11.2%	12.9%	11.4%	13.1%	12.9%	10.9%	12.4%	12.4%	100.0%
脳神経外科		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.8%	0.0%
小児科		33.9%	36.3%	39.3%	40.1%	42.7%	36.1%	41.5%	37.0%	39.1%	47.5%	41.3%	35.9%	39.2%	37.8%	103.7%
産科		2.3%	1.0%	0.4%	1.9%	1.8%	0.5%	1.3%	0.0%	0.9%	0.8%	0.8%	1.7%	1.1%	1.2%	91.7%
婦人科		7.3%	10.1%	8.8%	10.9%	8.4%	10.5%	9.0%	8.5%	9.0%	7.8%	9.5%	11.0%	9.2%	8.3%	110.8%
眼科		0.0%	6.7%	0.0%	0.0%	15.4%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%	9.1%	0.0%	3.7%	1.1%	336.4%
耳鼻咽喉科		2.1%	0.0%	0.0%	7.7%	2.6%	2.3%	2.1%	0.0%	3.6%	8.0%	0.0%	0.0%	2.0%	3.4%	58.8%
泌尿器科		6.9%	9.5%	8.1%	9.4%	8.8%	9.5%	7.3%	7.9%	7.7%	5.2%	6.5%	6.0%	7.8%	8.0%	97.5%
皮膚科		11.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%	1.6%	87.5%
神経内科		2.0%	1.0%	3.1%	4.9%	1.8%	2.3%	0.0%	1.2%	2.2%	4.1%	2.9%	4.5%	2.4%	2.2%	109.1%
膠原病リウマチ内科		0.0%	4.3%	2.6%	0.0%	1.2%	1.6%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%	1.0%	3.1%	32.3%
心療内科		0.6%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	1.2%	0.5%	0.0%	0.5%	0.0%	0.3%	0.2%	150.0%
リハビリ科		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
心リハ		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%
歯科・口腔外科		30.4%	27.1%	28.5%	29.2%	27.7%	24.6%	27.2%	30.2%	23.5%	26.8%	28.2%	26.3%	27.4%	28.9%	94.8%
委託検査		83.2%	83.3%	85.9%	86.8%	82.4%	84.6%	86.4%	85.9%	80.3%	86.4%	88.2%	85.6%	84.9%	84.6%	100.4%
総合診療部		26.7%	27.3%	26.6%	26.1%	30.9%	28.4%	18.0%	17.0%	19.3%	21.7%	21.4%	22.8%	25.4%	27.3%	93.0%
救命救急センター		67.4%	67.4%	71.4%	71.5%	71.2%	69.2%	71.0%	74.0%	71.1%	71.5%	69.3%	67.8%	70.3%	70.7%	99.4%
合 計		16.7%	16.3%	16.7%	17.4%	16.6%	16.1%	16.2%	16.4%	15.8%	17.4%	16.4%	15.5%	16.4%	15.9%	103.1%

7. 疾病統計

(1) 疾病大分類別・診療科別・病名数

(注) 転科サマリを1件とする

統計表中「0.0」は集計した数値が表章単位に満たないもの

	総数	構成比(%)	外科	整形外科	小児科	産科	婦人科	泌尿器	歯科	救命	総合診	循環内	消化内	呼吸内	糖尿内	免内
総数	10,653	100.0	1,450	854	624	414	573	562	301	2,197	284	1,175	1,551	427	114	127
構成比(%)	100.0		13.6	8.0	5.9	3.9	5.4	5.3	2.8	20.6	2.7	11.0	14.6	4.0	1.1	1.2
I 感染症及び寄生虫症	311	2.9	18	—	84	2	4	1	1	51	47	1	91	7	—	4
II 新生物	2,328	21.9	671	16	—	—	275	387	18	19	1	2	824	114	1	—
III 血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	61	0.6	7	—	3	—	6	7	—	7	6	3	16	3	2	1
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	203	1.9	4	1	23	—	—	—	1	48	16	13	4	1	90	2
V 精神及び行動の障害	21	0.2	1	—	—	—	1	—	—	15	1	2	1	—	—	—
VI 神経系の疾患	91	0.9	1	8	4	—	—	—	—	49	14	4	—	11	—	—
VII 眼及び付属器の疾患	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
VIII 耳及び乳様突起の疾患	17	0.2	—	—	1	—	—	—	—	7	7	2	—	—	—	—
IX 循環器系の疾患	1,558	14.6	32	1	4	—	—	3	—	571	14	915	13	1	1	3
X 呼吸器系の疾患	965	9.1	13	2	259	—	1	—	2	175	72	30	10	280	18	103
XI 消化器系の疾患	1,893	17.8	665	—	5	—	4	—	249	389	10	1	567	3	—	—
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	80	0.8	9	7	12	—	—	—	3	17	26	5	1	—	—	—
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	341	3.2	1	279	18	—	—	—	2	13	13	1	1	—	—	13
XIV 腎尿路生殖器系の疾患	542	5.1	3	—	14	1	263	163	—	41	41	8	5	1	1	1
XV 妊娠、分娩及び産じょく<褥>	425	4.0	—	—	—	411	13	—	—	1	—	—	—	—	—	—
XVI 周産期に発生した病態	163	1.5	—	—	163	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	9	0.1	1	1	2	—	2	—	2	—	—	—	1	—	—	—
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	105	1.0	12	1	28	—	—	1	—	25	9	12	12	4	1	—
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	1,382	13.0	10	538	4	—	4	—	23	769	7	20	5	2	—	—
XX 傷病及び死亡の外因	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	158	1.5	2	—	—	—	—	—	—	—	—	156	—	—	—	—
XXII 特殊目的用コード	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(2) 疾病中分類別・診療科別・病名数

(注) 転科サマリを1件とする

統計表中「0.0」は集計した数値が表章単位に満たないもの

	総数	構成比(%)	外科	整形外科	小児科	産科	婦人科	泌尿器	歯科	救命	総合診	循環内	消化内	呼吸内	糖尿内	免内
総数	10,653	100.0	1,450	854	624	414	573	562	301	2,197	284	1,175	1,551	427	114	127
構成比(%)	100.0		13.6	8.0	5.9	3.9	5.4	5.3	2.8	20.6	2.7	11.0	14.6	4.0	1.1	1.2
I 感染症及び寄生虫症	311	2.9	18	—	84	2	4	1	1	51	47	1	91	7	—	4
001 腸管感染症	120	1.1	11	—	35	2	—	—	—	8	7	—	55	—	—	2
002 結核	1	0.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—
003 人畜共通細菌性疾患	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
004 その他の細菌性疾患	96	0.9	6	—	12	—	—	1	—	36	35	1	3	2	—	—
005 主として性的伝播様式をとる感染症	3	0.0	—	—	—	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—
006 その他のスピロヘータ疾患	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
007 クラミジアによるその他の疾患	1	0.0	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
008 リケッチア症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
009 中枢神経系のウイルス感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
010 節足動物媒介ウイルス熱及びウイルス性出血熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
011 皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症	20	0.2	—	—	16	—	—	—	1	2	1	—	—	—	—	—
012 ウイルス肝炎	33	0.3	1	—	—	—	—	—	—	2	—	—	30	—	—	—
013 ヒト免疫不全ウイルス〔HIV〕病	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
014 その他のウイルス疾患	28	0.3	—	—	21	—	—	—	—	—	4	—	3	—	—	—
015 真菌症	5	0.0	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	3	—	1
016 原虫疾患	4	0.0	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—	—	1	—	1
017 ぜんく蠕>虫症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
018 シラミ症、ダニ症及びその他の動物寄生虫	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
019 感染症及び寄生虫症の続発・後遺症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
020 細菌、ウイルス及びその他の病原体	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
021 その他の感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

	総数	構成比(%)	外科	整形外科	小児科	産科	婦人科	泌尿器	歯科	救命	総合診	循環内	消化内	呼吸内	糖尿内	免内
Ⅱ 新生物	2,328	21.9	671	16	—	—	275	387	18	19	1	2	824	114	1	—
022 口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物	5	0.0	—	—	—	—	—	—	5	—	—	—	—	—	—	—
023 消化器の悪性新生物	683	6.4	387	—	—	—	1	1	—	12	—	—	281	—	1	—
024 呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物	107	1.0	—	—	—	—	—	—	—	1	—	2	—	104	—	—
025 骨及び関節軟骨の悪性新生物	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
026 皮膚の黒色腫及びその他の悪性新生物	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
027 中皮及び軟部組織の悪性新生物	11	0.1	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	1	8	—	—
028 乳房の悪性新生物	207	1.9	207	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
029 女性生殖器の悪性新生物	72	0.7	1	—	—	—	69	—	—	—	—	—	2	—	—	—
030 男性生殖器の悪性新生物	165	1.5	—	—	—	—	—	164	—	—	1	—	—	—	—	—
031 腎尿路の悪性新生物	194	1.8	—	—	—	—	—	192	—	1	—	—	1	—	—	—
032 眼、脳及び中枢神経系のその他の中枢神経系の部位の悪性新生物	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
033 甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物	8	0.1	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
034 部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物	65	0.6	28	3	—	—	5	13	5	3	—	—	8	—	—	—
035 リンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物	8	0.1	1	—	—	—	—	1	—	—	—	—	4	2	—	—
036 独立した(原発性)多部位の悪性新生物	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
037 上皮内新生物	22	0.2	—	—	—	—	14	8	—	—	—	—	—	—	—	—
038 良性新生物	763	7.2	36	10	—	—	180	5	7	1	—	—	524	—	—	—
039 性状不詳又は不明の新生物	18	0.2	3	1	—	—	6	3	1	1	—	—	3	—	—	—
Ⅲ 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	61	0.6	7	—	3	—	6	7	—	7	6	3	16	3	2	1
040 栄養性貧血	19	0.2	1	—	—	—	4	—	—	1	—	1	11	—	1	—
041 溶血性貧血	3	0.0	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—	1	—	—	—
042 無形成性貧血及びその他の貧血	16	0.2	—	—	—	—	2	5	—	2	3	—	3	—	1	—
043 凝固障害、紫斑病及びその他の出血性病態	11	0.1	—	—	2	—	—	1	—	2	3	2	—	—	—	1
044 血液及び造血器のその他の疾患	11	0.1	6	—	1	—	—	1	—	—	—	—	1	2	—	—
045 免疫機構の障害	1	0.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—
Ⅳ 内分泌、栄養及び代謝疾患	203	1.9	4	1	23	—	—	—	1	48	16	13	4	1	90	2
046 甲状腺障害	10	0.1	2	—	1	—	—	—	—	2	1	1	—	—	2	1
047 糖尿病	94	0.9	—	—	—	—	—	—	—	10	1	—	—	—	83	—
048 その他のグルコース調節及び膵内分泌障害	15	0.1	1	—	—	—	—	—	—	10	1	—	—	—	3	—
049 その他の内分泌腺障害	21	0.2	—	—	17	—	—	—	—	2	—	1	1	—	—	—
050 栄養失調 (症)	1	0.0	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—
051 その他の栄養欠乏症	2	0.0	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—	—	—	—	—
052 肥満(症)及びその他の過栄養・過剰摂食>	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
053 代謝障害	60	0.6	1	1	5	—	—	—	1	21	13	11	3	1	2	1
Ⅴ 精神及び行動の障害	21	0.2	1	—	—	—	1	—	—	15	1	2	1	—	—	—
054 症状性を含む器質性精神障害	1	0.0	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—
055 精神作用物質使用による精神及び行動の障害	10	0.1	—	—	—	—	—	—	—	8	—	1	1	—	—	—
056 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
057 気分〔感情〕障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
058 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	5	0.0	—	—	—	—	1	—	—	2	1	1	—	—	—	—
059 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	4	0.0	1	—	—	—	—	—	—	3	—	—	—	—	—	—
060 成人の人格及び行動の障害	1	0.0	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—
061 精神遅滞	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
062 心理的発達障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
063 小児<児童>期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
064 詳細不明の精神障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Ⅵ 神経系の疾患	91	0.9	1	8	4	—	—	—	—	49	14	4	—	11	—	—
065 中枢神経系の炎症性疾患	14	0.1	—	—	3	—	—	—	—	5	6	—	—	—	—	—
066 主に中枢神経系を障害する系統萎縮症	2	0.0	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
067 錐体外路障害及び異常運動	4	0.0	—	—	—	—	—	—	—	4	—	—	—	—	—	—
068 神経系のその他の変性疾患	5	0.0	—	—	—	—	—	—	—	2	2	1	—	—	—	—
069 中枢神経系の脱髄疾患	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
070 挿入性及び発作性障害	46	0.4	—	—	1	—	—	—	—	31	3	—	—	11	—	—
071 神経、神経根及び神経そう<叢>の障害	5	0.0	1	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
072 多発(性)ニューロパチ<シ>ー及びその他の末梢神経系の障害	1	0.0	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—
073 神経筋接合部及び筋の疾患	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
074 脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
075 神経系のその他の障害	14	0.1	—	2	—	—	—	—	—	7	2	3	—	—	—	—
Ⅶ 眼及び付属器の疾患	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
076 眼瞼、涙器及び眼窩の障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
077 結膜の障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
078 強膜、角膜、虹彩及び毛様体の障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
079 水晶体の障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

	総数	構成比(%)	外科	整形外科	小児科	産科	婦人科	泌尿器	歯科	救命	総合診	循環内	消化内	呼吸内	糖尿内	免内
080 脈絡膜及び網膜の障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
081 緑内障	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
082 硝子体及び眼球の障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
083 視神経及び視（覚）路の障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
084 眼筋、眼球運動、調節及び屈折の障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
085 視機能障害及び盲<失明>	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
086 眼及び付属器のその他の障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
VII 耳及び乳様突起の疾患	17	0.2	—	—	1	—	—	—	—	7	7	2	—	—	—	—
087 外耳疾患	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
088 中耳及び乳様突起の疾患	1	0.0	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
089 内耳疾患	16	0.2	—	—	—	—	—	—	—	7	7	2	—	—	—	—
090 耳のその他の障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
IX 循環器系の疾患	1,558	14.6	32	1	4	—	—	3	—	571	14	915	13	1	1	3
091 急性リウマチ熱	2	0.0	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
092 慢性リウマチ性心疾患	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
093 高血圧性疾患	8	0.1	—	—	—	—	—	—	—	2	1	5	—	—	—	—
094 虚血性心疾患	648	6.1	—	—	—	—	—	—	—	114	—	533	—	—	1	—
095 肺性心疾患及び肺循環疾患	30	0.3	1	—	—	—	—	—	—	11	—	18	—	—	—	—
096 その他の型の心疾患	714	6.7	—	—	—	—	—	—	—	393	6	313	—	1	—	1
097 脳血管疾患	28	0.3	1	—	—	—	—	—	—	20	4	1	2	—	—	—
098 動脈、細動脈及び毛細血管の疾患	66	0.6	—	1	—	—	—	—	—	22	—	41	1	—	—	1
099 静脈、リンパ管及びリンパ節の疾患、他に分類されないもの	56	0.5	30	—	—	—	—	3	—	8	2	3	10	—	—	—
100 循環器系のその他及び詳細不明の障害	6	0.1	—	—	3	—	—	—	—	1	1	1	—	—	—	—
X 呼吸器系の疾患	965	9.1	13	2	259	—	1	—	2	175	72	30	10	280	18	103
101 急性上気道感染症	31	0.3	1	1	17	—	1	—	—	5	4	—	1	1	—	—
102 インフルエンザ及び肺炎	464	4.4	8	—	152	—	—	—	—	40	38	17	3	141	5	60
103 その他の急性下気道感染症	68	0.6	—	—	61	—	—	—	—	—	—	1	—	5	—	1
104 上気道のその他の疾患	5	0.0	—	—	—	—	—	—	2	1	1	1	—	—	—	—
105 慢性下気道疾患	124	1.2	—	—	29	—	—	—	—	28	5	1	—	48	—	13
106 外的因子による肺疾患	126	1.2	2	1	—	—	—	—	—	42	21	9	5	22	13	11
107 主として間質を障害するその他の呼吸器疾患	53	0.5	—	—	—	—	—	—	—	9	1	1	—	31	—	11
108 下気道の化膿性及びえ<壊>死性病態	9	0.1	—	—	—	—	—	—	—	1	1	—	—	5	—	2
109 胸膜のその他の疾患	53	0.5	1	—	—	—	—	—	—	32	1	—	—	17	—	2
110 呼吸器系のその他の疾患	32	0.3	1	—	—	—	—	—	—	17	—	—	1	10	—	3
XI 消化器系の疾患	1,893	17.8	665	—	5	—	4	—	249	389	10	1	567	3	—	—
111 口腔、唾液腺及び顎の疾患	253	2.4	—	—	—	—	—	—	249	3	1	—	—	—	—	—
112 食道、胃及び十二指腸の疾患	186	1.7	13	—	—	—	—	—	—	82	—	—	91	—	—	—
113 虫垂の疾患	134	1.3	80	—	1	—	1	—	—	48	—	—	4	—	—	—
114 ヘルニア	208	2.0	185	—	—	—	—	—	—	23	—	—	—	—	—	—
115 非感染性腸炎及び非感染性大腸炎	30	0.3	2	—	2	—	—	—	—	1	—	—	25	—	—	—
116 腸のその他の疾患	474	4.4	165	—	—	—	2	—	—	89	3	—	215	—	—	—
117 腹膜の疾患	28	0.3	14	—	—	—	1	—	—	9	1	—	3	—	—	—
118 肝疾患	87	0.8	2	—	2	—	—	—	—	10	2	—	68	3	—	—
119 胆のう<嚢>、胆管及び膵の障害	427	4.0	195	—	—	—	—	—	—	89	3	1	139	—	—	—
120 消化器系のその他の疾患	66	0.6	9	—	—	—	—	—	—	35	—	—	22	—	—	—
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	80	0.8	9	7	12	—	—	—	3	17	26	5	1	—	—	—
121 皮膚及び皮下組織の感染症	64	0.6	7	4	9	—	—	—	3	14	23	3	1	—	—	—
122 水疱症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
123 皮膚炎及び湿疹	2	0.0	1	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—
124 丘疹落せつ<屑><くりんせつ><鱗屑>>性障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
125 じんま<蕁麻>疹及び紅斑	5	0.0	—	—	3	—	—	—	—	—	2	—	—	—	—	—
126 皮膚及び皮下組織の放射線（非電離及び電離）に関連する障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
127 皮膚付属器の障害	2	0.0	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
128 皮膚及び皮下組織のその他の障害	7	0.1	—	2	—	—	—	—	—	3	—	2	—	—	—	—
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	341	3.2	1	279	18	—	—	—	2	13	13	1	1	—	—	13
129 感染性関節障害	2	0.0	—	1	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—
130 炎症性多発性関節障害	21	0.2	—	7	—	—	—	—	—	—	6	1	—	—	—	7
131 関節症	68	0.6	—	68	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
132 その他の関節障害	10	0.1	—	10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
133 全身性結合組織障害	26	0.2	—	—	18	—	—	—	—	1	2	—	—	—	—	5
134 変形性脊柱障害	1	0.0	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
135 脊椎障害	132	1.2	—	131	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—
136 その他の脊柱障害	29	0.3	—	28	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—
137 筋障害	9	0.1	—	—	—	—	—	—	—	5	3	—	1	—	—	—
138 滑膜及び腱の障害	1	0.0	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
139 その他の軟部組織障害	5	0.0	—	2	—	—	—	—	—	2	—	—	—	—	—	1

	総数	構成比(%)	外科	整形外科	小児科	産科	婦人科	泌尿器	歯科	救命	総合診	循環内	消化内	呼吸内	糖尿内	免内
140 骨の密度及び構造の障害	13	0.1	1	10	—	—	—	—	—	2	—	—	—	—	—	—
141 その他の骨障害	21	0.2	—	17	—	—	—	—	2	2	—	—	—	—	—	—
142 軟骨障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
143 筋骨格系及び結合組織のその他の障害	3	0.0	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
XV 腎尿路生殖系系の疾患	542	5.1	3	—	14	1	263	163	—	41	41	8	5	1	1	1
144 糸球体疾患	4	0.0	—	—	1	—	—	—	—	—	—	2	—	—	1	—
145 腎尿細管間質性疾患	99	0.9	—	—	8	—	2	51	—	10	25	1	2	—	—	—
146 腎不全	27	0.3	2	—	—	—	—	3	—	13	4	4	—	—	—	1
147 尿路結石症	40	0.4	—	—	—	—	—	35	—	4	1	—	—	—	—	—
148 腎及び尿管のその他の障害	5	0.0	—	—	—	—	—	—	—	3	2	—	—	—	—	—
149 尿路系のその他の疾患	47	0.4	1	—	5	—	—	23	—	9	6	1	1	1	—	—
150 男性生殖器の疾患	53	0.5	—	—	—	—	—	51	—	—	2	—	—	—	—	—
151 乳房の障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
152 女性骨盤臓器の炎症性疾患	30	0.3	—	—	—	—	28	—	—	1	—	—	1	—	—	—
153 女性生殖器の非炎症性障害	237	2.2	—	—	—	1	233	—	—	1	1	—	1	—	—	—
154 腎尿路生殖系系のその他の障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
XV 妊娠、分娩及び産じょく<褥>	425	4.0	—	—	—	411	13	—	—	1	—	—	—	—	—	—
155 流産に終わった妊娠	56	0.5	—	—	—	46	9	—	—	1	—	—	—	—	—	—
156 妊娠、分娩及び産じょく<褥>における浮腫、たんぱく尿及び高血圧性障害	15	0.1	—	—	—	15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
157 主として妊娠に関連するその他の母体障害	60	0.6	—	—	—	57	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—
158 胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題	123	1.2	—	—	—	122	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
159 分娩の合併症	22	0.2	—	—	—	22	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
160 分娩	135	1.3	—	—	—	135	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
161 主として産じょく<褥>に関連する合併症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
162 その他の産科的病態、他に分類されないもの	14	0.1	—	—	—	14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
XVI 周産期に発生した病態	163	1.5	—	—	163	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
163 母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児	76	0.7	—	—	76	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
164 妊娠期間及び胎児発育の関連する障害	19	0.2	—	—	19	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
165 出産外傷	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
166 周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害	13	0.1	—	—	13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
167 周産期に特異的な感染症	45	0.4	—	—	45	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
168 胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害	2	0.0	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
169 胎児及び新生児に特異的な一過性の内分泌障害及び代謝障害	7	0.1	—	—	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
170 胎児及び新生児の消化器系障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
171 胎児及び新生児の外皮及び体温調節に関連する病態	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
172 周産期に発生したその他の障害	1	0.0	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	9	0.1	1	1	2	—	2	—	2	—	—	—	1	—	—	—
173 神経系の先天奇形	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
174 眼、耳、顔面及び頸部の先天奇形	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
175 循環器系の先天奇形	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
176 呼吸器系の先天奇形	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
177 唇裂及び口蓋裂	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
178 消化器系のその他の先天奇形	4	0.0	1	—	—	—	—	2	—	—	—	—	1	—	—	—
179 生殖器の先天奇形	3	0.0	—	—	1	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—
180 腎尿路系の先天奇形	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
181 筋骨格系の先天奇形及び変形	2	0.0	—	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
182 その他の先天奇形	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
183 染色体異常、他に分類されないもの	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	105	1.0	12	1	28	—	—	1	—	25	9	12	12	4	1	—
184 循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徴候	14	0.1	—	1	1	—	—	—	—	5	1	2	—	4	—	—
185 消化器系及び腹部に関する症状及び徴候	42	0.4	8	—	19	—	—	—	—	3	2	—	9	—	1	—
186 皮膚及び皮下組織に関する症状及び徴候	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
187 神経系及び筋骨格系に関する症状及び徴候	1	0.0	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—
188 腎尿路系に関する症状及び徴候	1	0.0	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—
189 認識、知覚、情緒状態及び行動に関する症状及び徴候	11	0.1	—	—	1	—	—	—	—	9	—	1	—	—	—	—
190 言語及び音声に関する症状及び徴候	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
191 全身症状及び徴候	35	0.3	4	—	7	—	—	—	—	8	5	9	2	—	—	—
192 血液検査の異常所見、診断名の記載がないもの	1	0.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—
193 尿検査の異常所見、診断名の記載がないもの	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
194 その他の体液、検体<材料>及び組織の検査の異常所見、診断名の記載がないもの	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
195 画像診断及び機能検査における異常所見、診断名の記載がないもの	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

	総数	構成比(%)	外科	整形外科	小児科	産科	婦人科	泌尿器	歯科	救命	総合診	循環内	消化内	呼吸内	糖尿内	免内
196 診断名不明確及び原因不明の死亡	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
XX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	1,382	13.0	10	538	4	—	4	—	23	769	7	20	5	2	—	—
197 頭部損傷	256	2.4	—	—	—	—	—	—	22	234	—	—	—	—	—	—
198 頸部損傷	39	0.4	—	2	—	—	—	—	—	37	—	—	—	—	—	—
199 胸部＜郭＞損傷	81	0.8	—	16	—	—	—	—	—	63	1	—	—	1	—	—
200 腹部、下背部、腰椎及び骨盤部の損傷	91	0.9	—	16	—	—	1	—	—	72	1	1	—	—	—	—
201 肩及び上腕の損傷	133	1.2	1	109	—	—	—	—	—	23	—	—	—	—	—	—
202 肘及び前腕の損傷	132	1.2	—	97	—	—	—	—	—	35	—	—	—	—	—	—
203 手首及び手の損傷	25	0.2	—	19	—	—	—	—	—	6	—	—	—	—	—	—
204 股関節部及び大腿の損傷	178	1.7	—	143	—	—	—	—	—	34	1	—	—	—	—	—
205 膝及び下腿の損傷	169	1.6	—	119	—	—	—	—	—	50	—	—	—	—	—	—
206 足首及び足の損傷	26	0.2	—	12	—	—	—	—	—	13	1	—	—	—	—	—
207 多部位の損傷	2	0.0	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—	—	—	—	—
208 部位不明の体幹もしくは(四)肢の損傷又は部位不明の損傷	7	0.1	—	1	—	—	—	—	—	6	—	—	—	—	—	—
209 自然開口部からの異物侵入の作用	20	0.2	1	—	—	—	—	—	—	17	—	—	1	1	—	—
210 体表面の熱傷及び腐食、明示された部位	8	0.1	1	—	—	—	—	—	—	7	—	—	—	—	—	—
211 眼及び内臓に局限する熱傷及び腐食	8	0.1	—	—	—	—	—	—	—	8	—	—	—	—	—	—
212 多部位及び部位不明の熱傷及び腐食	5	0.0	—	—	—	—	—	—	—	5	—	—	—	—	—	—
213 凍傷	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
214 薬物、薬剤及び生物学的製剤による中毒	75	0.7	—	—	—	—	—	—	—	74	—	1	—	—	—	—
215 薬用を主としない物質の毒作用	24	0.2	—	—	—	—	—	—	—	24	—	—	—	—	—	—
216 外因のその他及び詳細不明の作用	55	0.5	—	—	3	—	—	—	—	49	3	—	—	—	—	—
217 外傷の早期合併症	4	0.0	—	—	—	—	—	—	—	4	—	—	—	—	—	—
218 外科的及び内科的ケアの合併症、他に分類されないもの	44	0.4	7	4	1	—	3	—	1	6	—	18	4	—	—	—
219 損傷、中毒及びその他の外因による影響の続発・後遺症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
XX 傷病及び死亡の外因	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	158	1.5	2	—	—	—	—	—	—	—	—	156	—	—	—	—
220 検査及び診査のための保健サービスの利用者	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
221 伝染病に関連する健康障害をきたす恐れのある者	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
222 生殖に関連する環境下での保健サービスの利用者	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
223 特定の処置及び保健ケアのための保健サービスの利用者	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
224 社会経済的環境及び社会心理的環境に関連する健康障害をきたす恐れのある者	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
225 その他の環境下での保健サービスの利用者	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
226 家族歴、既往歴及び健康状態に影響を及ぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者	158	1.5	2	—	—	—	—	—	—	—	—	156	—	—	—	—
XXII 特殊目的用コード	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
227 原因不明の新たな疾患の暫定分類	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
228 抗生物質に耐性の細菌性病原体	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(3) 疾病大分類別・年齢階層別・病名数

(注) 転科サマリを1件とする

統計表中「0.0」は集計した数値が表章単位に満たないもの

		総数	構成比 (%)	平均 年齢	0- 28日	29日 -11月	1- 4歳	5- 9歳	10- 14歳	15- 19歳	20- 29歳	30- 39歳	40- 49歳	50- 59歳	60- 64歳	65- 69歳	70- 74歳	75- 79歳	80- 84歳	85- 89歳	90歳 -
総数	計	10,653	100.0	60.2	170	108	238	134	96	186	474	743	927	1,019	558	1,053	1,077	1,445	1,202	799	424
	男	5,511	51.7	61.3	91	62	124	75	66	111	178	190	400	583	327	636	679	836	617	378	158
	女	5,142	48.3	59.0	79	46	114	59	30	75	296	553	527	436	231	417	398	609	585	421	266
構成比 (%)	計	100.0			1.6	1.0	2.2	1.3	0.9	1.7	4.4	7.0	8.7	9.6	5.2	9.9	10.1	13.6	11.3	7.5	4.0
	男	100.0			1.7	1.1	2.3	1.4	1.2	2.0	3.2	3.4	7.3	10.6	5.9	11.5	12.3	15.2	11.2	6.9	2.9
	女	100.0			1.5	0.9	2.2	1.1	0.6	1.5	5.8	10.8	10.2	8.5	4.5	8.1	7.7	11.8	11.4	8.2	5.2
I 感染症及び寄生虫症	計	311	2.9	45.7	-	23	36	19	8	12	17	16	11	22	17	27	19	35	25	14	10
	男	137	2.5	41.7	-	14	17	9	6	6	7	7	3	11	5	13	7	13	9	5	5
	女	174	3.4	48.9	-	9	19	10	2	6	10	9	8	11	12	14	12	22	16	9	5
II 新生物	計	2,328	21.9	67.6	-	-	1	3	-	3	25	60	228	260	177	337	372	414	255	149	44
	男	1,175	21.3	71.2	-	-	-	2	-	1	3	4	34	107	93	195	236	266	140	72	22
	女	1,153	22.4	64.0	-	-	1	1	-	2	22	56	194	153	84	142	136	148	115	77	22
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機 構の障害	計	61	0.6	66.9	-	1	-	1	1	-	3	1	4	5	1	8	10	8	6	9	3
	男	32	0.6	68.6	-	1	-	-	1	-	-	-	-	4	1	7	5	6	2	3	2
	女	29	0.6	65.1	-	-	-	1	-	-	3	1	4	1	-	1	5	2	4	6	1
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	計	203	1.9	60.5	1	2	11	4	5	1	4	10	18	20	12	20	18	25	21	21	10
	男	103	1.9	58.2	-	2	8	1	3	-	2	4	11	9	6	13	10	17	7	8	2
	女	100	1.9	62.9	1	-	3	3	2	1	2	6	7	11	6	7	8	8	14	13	8
V 精神及び行動の障害	計	21	0.2	46.9	-	-	-	-	1	1	-	4	7	2	2	1	1	2	-	-	-
	男	13	0.2	47.8	-	-	-	-	1	1	-	1	4	1	2	1	1	1	-	-	-
	女	8	0.2	45.4	-	-	-	-	-	-	-	3	3	1	-	-	-	1	-	-	-
VI 神経系の疾患	計	91	0.9	58.1	-	-	1	3	1	5	5	6	8	12	4	10	8	9	13	4	2
	男	62	1.1	60.3	-	-	-	1	1	3	1	3	7	10	4	10	6	5	6	4	1
	女	29	0.6	53.3	-	-	1	2	-	2	4	3	1	2	-	2	4	7	-	-	1
VII 眼及び付属器の疾患	計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
VIII 耳及び乳突突起の疾患	計	17	0.2	66.6	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	5	3	-	4	1	2	-
	男	5	0.1	61.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	1	-	-	-	-	-
	女	12	0.2	68.7	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	-	4	1	2	-
IX 循環器系の疾患	計	1,558	14.6	71.6	-	1	2	-	6	4	11	30	74	147	99	207	196	294	223	171	93
	男	1,016	18.4	69.2	-	-	2	-	4	3	8	21	58	126	79	146	153	184	109	87	36
	女	542	10.5	76.2	-	1	-	-	2	1	3	9	16	21	20	61	43	110	114	84	57
X 呼吸器系の疾患	計	965	9.1	53.3	4	61	158	24	12	13	31	21	30	37	24	55	72	116	123	108	76
	男	562	10.2	53.8	3	35	79	16	8	13	19	13	13	17	14	33	55	75	83	61	25
	女	403	7.8	52.7	1	26	79	8	4	-	12	8	17	20	10	22	17	41	40	47	51
XI 消化器系の疾患	計	1,893	17.8	62.1	-	3	1	21	16	48	113	108	203	221	97	173	173	271	230	143	72
	男	1,080	19.6	62.1	-	1	1	15	13	24	49	55	122	137	59	108	108	149	132	71	36
	女	813	15.8	62.1	-	2	-	6	3	24	64	53	81	84	38	65	65	122	98	72	36
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	計	80	0.8	56.6	-	2	5	3	1	1	2	6	8	9	1	8	5	7	13	4	5
	男	47	0.9	52.7	-	1	3	2	1	-	2	3	7	8	1	3	2	4	6	3	1
	女	33	0.6	62.1	-	1	2	1	-	1	-	3	1	1	-	5	3	3	7	1	4
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	計	341	3.2	67.0	-	6	8	4	-	4	2	9	17	24	21	42	41	69	65	23	6
	男	149	2.7	63.8	-	4	4	3	-	3	-	6	4	14	11	24	18	25	23	8	2
	女	192	3.7	69.5	-	2	4	1	-	1	2	3	13	10	10	18	23	44	42	15	4
XIV 腎尿路生殖器系の疾患	計	542	5.1	56.6	-	3	5	2	5	4	40	74	113	57	17	33	36	32	56	36	29
	男	146	2.6	69.0	-	1	3	-	1	2	1	4	8	14	6	17	15	17	31	21	5
	女	396	7.7	52.0	-	2	2	2	4	2	39	70	105	43	11	16	21	15	25	15	24
XV 妊娠、分娩及び産じょく<褥>	計	425	4.0	32.7	-	-	-	-	-	2	104	289	30	-	-	-	-	-	-	-	-
	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	425	8.3	32.7	-	-	-	-	-	2	104	289	30	-	-	-	-	-	-	-	-
XVI 周産期に発生した病態	計	163	1.5	-	162	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男	88	1.6	-	87	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	75	1.5	-	75	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	計	9	0.1	11.9	2	-	-	3	-	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男	4	0.1	11.5	1	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	5	0.1	12.2	1	-	-	1	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常 検査所見で他に分類されないもの	計	105	1.0	51.2	1	2	6	15	3	2	7	5	3	4	2	7	8	12	12	12	4
	男	48	0.9	57.6	-	1	5	2	1	1	3	-	2	3	1	3	3	7	8	6	2
	女	57	1.1	45.7	1	1	1	13	2	1	4	5	1	1	1	4	5	5	4	6	2
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	計	1,382	13.0	55.9	-	2	4	32	37	84	109	102	166	173	69	91	88	112	144	99	70
	男	717	13.0	48.6	-	1	2	22	26	54	83	67	120	98	35	38	36	40	50	26	19
	女	665	12.9	63.8	-	1	2	10	11	30	26	35	46	75	34	53	52	72	94	73	51
XX 傷病及び死亡の外因	計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保 健サービスの利用	計	158	1.5	68.2	-	-	-	-	-	-	-	1	7	25	10	31	30	35	15	4	-
	男	127	2.3	67.5	-	-	-	-	-	-	-	1	7	23	7	24	24	27	11	3	-
	女	31	0.6	71.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	3	7	6	8	4	1	-
XXII 特殊目的用コード	計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(4) 疾病大分類別・在院期間別・病名数

(注) 転科サマリを1件とする
統計表中「0.0」は集計した数値が表章単位に満たないもの

		総数	構成比 (%)	延べ在院日数	平均在院日数	0-8日	9-15日	16-22日	23-31日	32-61日	62-91日	3-6ヶ月	6ヶ月-
総数	計	10,653	100.0	106,750	10.0	6,996	1,886	723	472	464	64	43	5
	男	5,511	51.7	53,884	9.8	3,695	932	354	228	243	38	19	2
	女	5,142	48.3	52,866	10.3	3,301	954	369	244	221	26	24	3
構成比 (%)	計	100.0				65.7	17.7	6.8	4.4	4.4	0.6	0.4	0.0
	男	100.0				67.0	16.9	6.4	4.1	4.4	0.7	0.3	0.0
	女	100.0				64.2	18.6	7.2	4.7	4.3	0.5	0.5	0.1
I 感染症及び寄生虫症	計	311	2.9	3,190	10.3	203	63	23	7	12	-	2	1
	男	137	2.5	1,404	10.2	96	23	12	-	4	-	1	1
	女	174	3.4	1,786	10.3	107	40	11	7	8	-	1	-
II 新生物	計	2,328	21.9	19,541	8.4	1,658	356	128	90	83	11	2	-
	男	1,175	21.3	9,776	8.3	823	173	70	60	45	4	-	-
	女	1,153	22.4	9,765	8.5	835	183	58	30	38	7	2	-
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	計	61	0.6	694	11.4	31	18	4	5	3	-	-	-
	男	32	0.6	334	10.4	16	9	4	2	1	-	-	-
	女	29	0.6	360	12.4	15	9	-	3	2	-	-	-
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	計	203	1.9	2,274	11.2	89	72	23	12	7	-	-	-
	男	103	1.9	1,129	11.0	47	34	14	4	4	-	-	-
	女	100	1.9	1,145	11.5	42	38	9	8	3	-	-	-
V 精神及び行動の障害	計	21	0.2	155	7.4	16	2	2	-	1	-	-	-
	男	13	0.2	53	4.1	11	1	1	-	-	-	-	-
	女	8	0.2	102	12.8	5	1	1	-	1	-	-	-
VI 神経系の疾患	計	91	0.9	793	8.7	67	13	1	6	2	1	1	-
	男	62	1.1	534	8.6	42	12	1	5	1	1	-	-
	女	29	0.6	259	8.9	25	1	-	1	1	-	1	-
VII 眼及び付属器の疾患	計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
VIII 耳及び乳様突起の疾患	計	17	0.2	96	5.6	13	3	1	-	-	-	-	-
	男	5	0.1	11	2.2	5	-	-	-	-	-	-	-
	女	12	0.2	85	7.1	8	3	1	-	-	-	-	-
IX 循環器系の疾患	計	1,558	14.6	14,894	9.6	1,078	207	110	73	70	13	6	1
	男	1,016	18.4	9,150	9.0	730	130	60	44	39	10	2	1
	女	542	10.5	5,744	10.6	348	77	50	29	31	3	4	-
X 呼吸器系の疾患	計	965	9.1	12,811	13.3	522	256	73	39	52	10	12	1
	男	562	10.2	7,609	13.5	304	144	45	22	34	5	8	-
	女	403	7.8	5,202	12.9	218	112	28	17	18	5	4	1
XI 消化器系の疾患	計	1,893	17.8	16,277	8.6	1,309	379	94	58	42	4	5	2
	男	1,080	19.6	9,088	8.4	749	223	49	30	22	4	3	-
	女	813	15.8	7,189	8.8	560	156	45	28	20	-	2	2
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	計	80	0.8	1,167	14.6	42	21	4	6	5	-	2	-
	男	47	0.9	497	10.6	28	12	2	2	3	-	-	-
	女	33	0.6	670	20.3	14	9	2	4	2	-	2	-
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	計	341	3.2	5,767	16.9	112	62	67	64	33	3	-	-
	男	149	2.7	2,390	16.0	51	32	30	17	18	1	-	-
	女	192	3.7	3,377	17.6	61	30	37	47	15	2	-	-
XIV 腎尿路生殖器系の疾患	計	542	5.1	4,086	7.5	406	90	23	10	12	1	-	-
	男	146	2.6	1,482	10.2	98	28	7	4	8	1	-	-
	女	396	7.7	2,604	6.6	308	62	16	6	4	-	-	-
XV 妊娠、分娩及び産じょく<褥>	計	425	4.0	4,401	10.4	221	146	32	10	13	1	2	-
	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	425	8.3	4,401	10.4	221	146	32	10	13	1	2	-
XVI 周産期に発生した病態	計	163	1.5	1,288	7.9	154	9	-	-	-	-	-	-
	男	88	1.6	692	7.9	83	5	-	-	-	-	-	-
	女	75	1.5	596	7.9	71	4	-	-	-	-	-	-
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	計	9	0.1	40	4.4	9	-	-	-	-	-	-	-
	男	4	0.1	20	5.0	4	-	-	-	-	-	-	-
	女	5	0.1	20	4.0	5	-	-	-	-	-	-	-
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	計	105	1.0	754	7.2	83	16	2	1	1	2	-	-
	男	48	0.9	417	8.7	37	7	1	1	-	2	-	-
	女	57	1.1	337	5.9	46	9	1	-	1	-	-	-
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	計	1,382	13.0	17,946	13.0	828	171	136	91	128	17	11	-
	男	717	13.0	8,834	12.3	445	99	58	37	64	9	5	-
	女	665	12.9	9,112	13.7	383	72	78	54	64	8	6	-
XX 傷病及び死亡の外因	計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	計	158	1.5	576	3.6	155	2	-	-	-	1	-	-
	男	127	2.3	464	3.7	126	-	-	-	-	1	-	-
	女	31	0.6	112	3.6	29	2	-	-	-	-	-	-
XXII 特殊目的用コード	計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

V. 診療科の状況

1. 消化器内科

<平成 29 年度の活動>

大腸の EMR/ESD の患者が多いのが近年の当院の特徴であったが、平成 29 年度の途中より、小さなポリープは外来でコールドポリペクトミーにより切除するようになった。大腸の ESD 治療は徐々に増えていたが平成 29 年度は胃の ESD 治療の件数を上回るようになった。膵癌の早期診断などに有用な EUS-FNA（細径針を用いた超音波内視鏡下吸引細胞診）が当院でもルーチンにできるようになり、徐々に症例が増えている。

<今後の展望>

新専門医制度が平成 30 年度から始まり、その第一期の専攻医が入ってきた。今後も新制度に対応して新専門医を獲得していくことが重要な課題であると考えられる。

臨床指標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
上部 ESD 実施件数	3	4	3	4	5	1	0	1	4	3	0	4	32
下部 ESD 実施件数	4	2	3	1	1	4	4	3	2	5	4	1	34
下部 EMR/ ポリペク 実施件数	53	40	40	46	38	55	51	65	31	20	38	27	504
胆膵内視鏡 実施件数	11	18	18	8	19	6	17	13	9	15	7	23	164
小腸内視鏡 実施件数	2	1	4	0	2	0	0	1	2	4	1	3	20
RFA/PEIT/ 肝生検 / 腫瘍生検	6	9	5	5	10	11	5	7	4	2	2	3	69
EUS-FNA	0	0	1	2	1	1	1	0	0	1	3	1	11

2. 循環器内科

<平成 29 年度の活動>

平成 29 年度年間入院患者数は 968 人（80 人 / 月）、平均在院日数は 10.5 日であった。診療内容は下記のような血管内治療、不整脈に対する手術、心不全診療と心大血管リハビリテーションである。救命救急センターが担っていた夜間休日の救急心疾患の対応に協力することになった。また、新たな試みとして五十肩などの慢性疼痛に対する運動器カテーテル手術を開始した。引き続き新規患者増加のため病診・病病連携交流会や委託検査を強化している。以上を当科に関わるすべてのメディカルスタッフの協力を得てスタッフ一丸となって取り組んでいる。

<今後の展望>

北摂地区における循環器診療の中核病院となること。専攻医にとって魅力ある循環器修練所として発展すること。循環器志望の若手医師を増やすこと。

【平成 29 年度各検査、治療件数および過去 6 年間の手術件数】

冠動脈治療（PCI）件数		末梢血管治療（EVT）件数	
年 度	件 数	年 度	件 数
2012	221	2012	6
2013	155	2013	19
2014	71	2014	10
2015	213	2015	12
2016	363	2016	15
2017	398	2017	18

心臓カテーテル検査	心臓カテーテル検査	776
	経皮的冠動脈形成術	398
	経皮的末梢動脈形成術	18
	冠血流予備量比 (FFR)	22
	電気生理学的検査 (EPS)	6
	アブレーション	11
	下大静脈フィルター留置術	6
放射線検査	冠動脈造影 CT	280
	大血管 CT	51
	心臓 MRI	4
	心筋シンチ	334
生理機能検査	経胸壁心エコー	3257
	経食道心エコー	13
	末梢血管エコー	844
	ホルター心電図	283
	運動負荷心電図	254
	マスター負荷心電図	605
	ABI	452
心臓リハビリテーション	新規患者数	175
	運動療法のべ件数	2567
	心肺運動負荷試験	178

3. 呼吸器・免疫内科

<平成 29 年度の活動>

呼吸器内科の平成 29 年度の医師は 4 名である。呼吸器内科を専門とする 3 名と免疫内科を専門とする 1 名より構成されている。

当院は大阪府がん診療拠点病院に指定されており、肺がんの診断、抗がん剤、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害剤による治療を主に行っており、また地域急性期病院の一員として肺炎等の呼吸器感染症および COPD、気管支喘息、間質性肺炎を始めとする呼吸器疾患の診療も行っている。

検査としては、肺がんの診断に必要な気管支鏡検査、また COPD、気管支喘息の診断に呼吸機能検査および呼気 NO 検査を行っている。

平成 28 年より呼気 NO 検査を導入することで遷延性咳嗽の診断に、より幅をもたせることができるようになった。

<今後の展望>

今後、肺がん治療の進歩による長期生存される症例の増加に加え、高齢化による COPD 等の慢性呼吸不全のある症例の増加が予想され、その結果かかりつけ医にての通院や往診を必要とする症例が増加することが予想される。当院では地域連携を強化し、がん患者の在宅医療への移行や、COPD 等呼吸不全患者の在宅酸素療法導入をはじめとする呼吸リハビリ、患者教育を目的とした入院を積極的に行っていく方針としている。

臨床指標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
肺がん 入院患者数	11	11	10	12	8	7	13	7	11	8	17	10	125
気管支喘息 入院患者数	6	5	2	2	5	3	8	11	1	2	6	3	54
COPD（慢性閉塞性肺疾患） 入院患者数	7	5	4	4	3	3	4	4	4	3	11	9	61
間質性肺炎 入院患者数	7	4	8	4	2	2	6	4	4	3	7	8	59
肺炎 入院患者数 （市中肺炎、細菌性肺炎等） 肺炎より除外した病名 閉塞性肺炎、誤嚥性肺炎、薬剤 性間質性肺炎、間質性肺炎、特 発性間質性肺炎、膠原病性間質 性肺炎、好酸球性肺炎	22	23	16	21	14	17	21	17	18	23	20	20	232
BF（気管支内視鏡） 件数	6	9	6	2	3	3	6	5	11	2	6	2	61
ケモ件数	4	3	6	4	7	2	1	5	5	12	11	6	66

4. 糖尿病内科

<平成 29 年度の活動>

当科では主として 1 型、2 型糖尿病の診療を行っているが、一部内分泌疾患、特に甲状腺疾患の診療も行っている。

外来においては、糖尿病専門科として 食事療法、運動療法の指導および薬物療法を行っている。

食事療法指導は専門の管理栄養士に依頼し指定されたカロリーと栄養バランスの指導を行っている。

運動療法は主として入院にて、専門の理学療養士に依頼している。

糖尿病の 3 大合併症である 網膜症、腎症、神経障害に留意し、心、脳、下肢などの大血管障害にも留意し、薬物療法を行っている。糖尿病薬物療法の薬剤数が増加し、経口薬および注射薬およびそれらの組み合わせが増加している。これらを考慮して最適な薬物療法を行っている。

<今後の展望>

今後の課題は、この様に進歩の速い最先端の糖尿病診療に各職種とともに対応していくことと考えられる。さらに最新の診療を目指していきたい。

臨床指標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
自己注射指導管理料 算定件数	77	72	64	77	63	55	66	64	66	65	62	74	805
糖尿病透析予防指導管理料 算定件数	0	2	2	4	8	3	1	3	2	2	2	1	30
他科の入院患者の糖尿病管理 者数	15	16	12	7	6	13	21	21	15	19	20	21	186

5. 外科

<平成 29 年度の活動>

平成 29 年度外科の医師は 11 名、うち 1 名は専攻医であり、病床は 39 床となっている。

悪性疾患では、大阪府がん診療拠点病院として、上部消化管、下部消化管、肝胆膵、乳腺は、診断から手術、抗癌剤治療に加えて終末期ケアまでトータルに対応できるように、チームを編成して横断的に情報共有している（がん総合診療センター開設）。乳癌は各種診断モダリティーが充実しており、形成外科の加入により、同時、異時乳房再建が可能である。また、大腸癌は積極的に腹腔鏡手術を展開し、ERAS 術後早期回復プログラムを実践している。

良性疾患では、胆石における腹腔鏡下胆嚢摘出術、鼠径ヘルニアにおける Kugel 法根治術を数多く行っている。

急性腹症は、多岐にわたるが、急性胆嚢炎、絞扼性イレウス、ヘルニア嵌頓（鼠径、大腿、閉鎖孔など）、救命救急センターとも協力の上、迅速に対応している。

<今後の展望>

がん診療は消化器内科との協力を密に、内視鏡治療、手術治療、抗癌剤治療を適切に行いたい。上部、下部消化管では積極的に腹腔鏡を展開、また、腹壁癰瘍ヘルニアに関しても腹腔鏡の適応を広げていきたい。

また、救命救急センターとのコラボレーションをさらに強化し、急性腹症の的確かつ迅速な対応を行いたい。

臨床指標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総手術件数	62	72	73	75	81	79	75	86	75	74	62	60	874
全身麻酔件数	46	50	53	52	64	64	54	58	63	58	51	52	665
胃がん 手術件数	3	3	1	3	4	4	4	2	6	2	2	3	37
大腸がん 手術件数	3	10	6	9	13	9	7	7	15	8	9	10	106
肝臓がん 手術件数	0	1	0	0	1	1	3	0	1	1	0	0	8
胆嚢胆管膵臓がん 手術件数	1	0	0	1	1	0	2	1	0	3	0	3	12
乳がん 手術件数	9	9	4	10	11	8	8	6	15	11	12	12	115
乳房再建術 手術件数	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	2	5
鼠径ヘルニア 手術件数	15	16	12	14	8	13	18	17	11	10	9	9	152
胆嚢摘出術（開腹 / 腹腔鏡下）手術件数	7	9	14	12	17	24	14	16	12	14	12	10	161

6. 小児科

<平成 29 年度の活動>

平成 29 年度は 4 月～10 月は小児科専門医 3 名、11 月～3 月は更に 1 名を加えた 4 名の小児科医で診療となった。

人数が増えた後半は日常診療以外に学会活動が活発になった。

12 月には第 83 回北摂小児科医会の当院講堂での開催を実施。

学会発表は北摂小児科医会、第 44 回吹田小児医療談話会、平成 30 年 3 月第 31 回近畿小児科学会では 4 演題の発表となった。

平成 29 年度は特に小児科と臨床心理士との合同診療の成果が目に見える形になった事と、後半から小児消化器疾患への内視鏡等の検査が加わった事が例年にない特徴だった。

<今後の展望>

平成 30 年度は小児科専門医が 4 名の体制となり、10 月からは新専門医制度の後期研修医も加わる。

新たに増えた小児科専門医を中心とする食物アレルギー負荷試験の立ち上げ、また、新専門医制度の後期研修医の指導を充実させ次年度に繋げていくことが、人材確保の上での課題と考えている。

臨床指標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
肺炎 入院患者数	13	15	29	22	30	30	23	29	22	24	19	26	282
GH 負荷試験件数	8	3	1	4	13	0	0	4	2	1	2	7	45
低身長患者数	4	3	1	3	2	0	1	4	2	2	1	4	27
川崎病 入院患者数	1	2	0	1	2	2	2	2	1	3	1	2	19
小児特定疾患カウンセリング 算定件数	18	14	17	22	13	12	10	10	13	8	14	15	166
小児科療養指導 算定件数	10	13	9	9	15	9	7	9	13	5	8	5	112
てんかん指導 算定件数	8	9	13	8	9	11	10	13	12	10	11	11	125
在宅自己注射指導管理料 算定件数	11	14	16	13	14	12	15	15	16	25	16	15	182
喘息治療管理料 算定件数	12	11	10	17	10	12	7	7	9	9	8	11	123
新生児入院患者数	12	20	10	16	12	13	9	13	14	17	16	19	171

7. 整形外科

<平成 29 年度の活動>

整形外科の平成 29 年 4 月 1 日現在のスタッフは常勤医 8 名である。現在の責任病床は、40 床となっている。ここ数年間の千里ニュータウン地域における高齢者の増加により、大腿骨近位部骨折をはじめとした、脆弱性骨折の増加傾向は変わらない。また従来からの、椎間板ヘルニアに対する内視鏡手術、圧迫骨折に対する BKP（バルーン椎体形成術）や膝、股関節に対する人工関節手術なども継続して推進していく。さらに今期から四肢骨盤外傷センターの運営が開始され、救命救急センターとの連携を密にしていくことが重要な課題である。

<今後の展望>

後期研修医が 3 名、新任スタッフが 1 名のローテーション体制がしばらく継続する予定である。また平成 30 年度はその新専門医制度のもとでの研修の第一期生ということになる。この新制度に対応して新専門医を獲得していくことが重要な課題であると考えられる。

北摂地域の救急外傷に対してあらたに運営が開始された四肢骨盤外傷センターにて救命救急センターとの連携をさらに密にして症例獲得の努力を継続していく方針である。

臨床指標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総手術件数	72	68	78	67	83	59	80	86	61	65	91	85	895
全身麻酔件数	45	42	42	34	45	35	46	43	35	35	54	42	498
大腿骨近位部骨折手術 件数	9	9	9	14	13	8	11	14	9	12	11	12	131
人工関節手術 件数 /THA（全人工股関節置換術） /TKA（全人工膝関節置換術） /UKA（片側人工膝関節置換術）	10	7	7	5	4	5	6	8	9	7	9	4	81
BKP（経皮的椎体形成術） 件数	4	2	2	1	0	2	0	2	0	1	1	2	17
脊柱手術 件数（椎弓形成、 椎弓切除、ヘルニア等）	10	8	7	8	8	7	12	6	11	5	10	3	95
手の外科手術 件数 （肘より遠位）	19	21	23	12	17	12	19	19	11	12	17	27	209
緊急骨折手術 件数	3	9	3	2	1	9	4	7	5	5	8	9	65

8. 産婦人科

<平成 29 年度の活動>

産婦人科の平成 29 年度の医師は 3 名で、日本産科婦人科学会認定専門医 2 名と後期研修医 1 名で構成されている。常日頃から女性の各年齢層に加え、個々のライフスタイルを加味した診療を行うように心がけている。平成 29 年度の分娩件数は 234 件で帝王切開症例が 50 件であった。周産期医療については患者さんの状況に合わせた医療を行い、不必要な誘発などを含めた医療介入はしない方針。婦人科医療では主に腹腔鏡下手術に主眼を置き、平成 29 年度の婦人科手術症例 460 例の内、腹腔鏡下手術を 258 症例施行した。当科では手術のクオリティーを保持しつつ整容性にもこだわり reduced port surgery（減孔手術）を平成 22 年から取り入れてきた。TLH や付属器に対しては単孔から 2 孔式で施行し LM については 3 孔式までで完遂しているのが現状である。学会活動は日本産科婦人科内視鏡学会・日本内視鏡外科学会にコンスタントに発表。また、当科は日本産科婦人科内視鏡学会の認定研修施設であり、平成 29 年 9 月には当科の大上 健太医師が合格率 47% の日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医を取得し、当科からは計 3 名の技術認定医が輩出された。

<今後の展望>

悪性疾患への腹腔鏡下手術の適応拡大、新たな技術認定医の育成。

臨床指標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総手術件数	51	42	40	39	29	40	43	41	47	42	34	44	492
全身麻酔件数	23	19	23	24	17	23	27	22	25	26	21	29	279
子宮がん 手術件数	8	8	7	5	4	4	3	6	6	1	3	4	59
卵巣がん 手術件数	1	1	1	1	0	1	1	2	0	0	0	6	14
子宮筋腫 手術件数	15	6	9	13	9	7	8	10	15	18	11	10	131
卵巣のう腫 手術件数	4	2	5	4	1	4	7	2	7	4	5	7	52
子宮内膜症 手術件数	1	2	5	3	4	4	6	4	1	1	3	0	34
分娩 件数	14	23	16	28	16	16	16	18	19	23	17	28	234
帝王切開分娩 件数	5	6	1	6	2	4	5	4	5	5	1	6	50

9. 泌尿器科

<平成 29 年度の活動>

当院の受診患者分布において高齢者の割合は依然高く、泌尿器科へのニーズも高い現状は続いています。平成 30 年 1 月から外来を完全予約制に移行したことにより、外来診療業務の負担はやや軽減できしており、患者の待ち時間も減少しています。また、救急疾患の緊急応需もスムーズに行えるようになりました。

手術については、膀胱がん、前立腺がん、腎盂尿管がん、腎がん症例などが多く、手術実績は十分にあると思われます。特に患者負担の少ない腹腔鏡手術の手術件数は、増加しており、今後もこの傾向は続くと思われます。一方、高齢者の尿路結石患者も多く、体外式衝撃波結石破碎術（ESWL）はもとより、経尿道的手術（TUL）の適応患者も多い現状です。

<今後の展望>

今後、さらに外来診療をスリム化することで、より効率的な業務運用が可能になると考えられますので、膀胱鏡検査目的などの定期通院患者を、積極的に登録専門医へ逆紹介するべきと考えています。平成 30 年度は一定の条件に合う患者を全て逆紹介する方向で努力します。

結石手術の標準機器となっているレーザー機器が導入され、当初の概算を上回る結石手術（TUL）症例を確保しています。

手術必要症例は多く、手術の待ち時間も 1 カ月以上ある現状を打開すれば、さらに手術件数は増加するものと思われますが、現在の 3 名ではマンパワー不足であると思われますので、大学にスタッフ増員を交渉しています。

臨床指標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総手術件数	32	39	30	32	32	30	38	37	34	34	37	36	411
全身麻酔件数	5	11	7	10	13	6	8	8	8	7	10	13	106
膀胱がん（経尿道的）手術件数	10	10	11	9	8	9	10	10	7	13	15	9	121
膀胱がん（全摘除）手術件数	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	1	4
前立腺がん（全摘除）手術件数	2	0	1	2	2	1	0	1	2	1	0	1	13
腎・尿管がん（開腹／腹腔鏡下）手術件数	1	2	2	3	4	1	4	2	2	3	2	3	29
腎・尿管結石 手術件数（TUL、PNL）	0	5	0	2	3	4	2	3	5	3	0	3	30
前立腺肥大症 手術件数（TURP、TUEB）	1	1	1	1	4	0	5	2	0	1	2	3	21
膀胱がん／TURBT 術後地域連携パス 適用件数	2	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	6
ESWL 実施件数	4	2	5	5	13	8	5	6	4	4	4	3	63

10. 歯科口腔外科

<平成 29 年度の活動>

歯科口腔外科の平成 29 年度の医師は 3 名である。

外来

常勤歯科医師は平成 29 年 4 月から 1 名増員され 3 名である。これに対応して歯科衛生士も 2 名から 3 名に増員となった。常勤歯科医師が 1 名増員された目的は院内での周術期口腔機能管理の向上で、全身麻酔下でのがん手術症例を対象としている。

外来処置（主として抜歯）は、患者のニーズに合わせ、土曜日午前の処置を積極的に行っている。近隣歯科口腔外科では土曜日処置を行っていないため、当科の特徴と言える。

入院

当科には月曜午後と金曜全日の手術枠があり、現在入院手術枠は予定手術患者でほぼ満たされている状況である。今後は、頭頸部癌に適応された新規抗がん剤を、口腔がん患者に対して入院管理で導入していきたいと考えている。

<今後の展望>

周術期口腔機能管理はがん患者の全身麻酔の手術前あるいは化学療法前の患者を対象に行っているが、整形外科手術症例にも適応を拡大していきたいと考えている。近隣施設に歯科口腔外科が開設され、吹田南部方面からの紹介患者が減少した。今後は紹介患者増加のためにも近隣の医療施設に働きかけていく予定である。また時間外の緊急を要する症例についても、できるだけ応需していきたいと考えている。

臨床指標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外来 手術件数	143	139	147	132	148	130	130	142	105	127	149	164	1,656
入院 手術件数	20	21	26	24	24	24	20	21	26	24	21	30	281
埋伏歯抜歯 手術件数	11	8	14	15	17	13	13	9	13	13	13	22	161
嚢胞摘出術 手術件数	1	5	2	2	2	3	2	4	5	5	5	1	37
骨折 手術件数	3	2	1	1	2	3	0	3	5	1	2	3	26
口腔ケア件数	5	17	33	44	69	25	28	45	51	35	52	67	471

11. 救命救急センター

<平成 29 年度の活動>

救命救急センターは大阪府豊能医療圏における 1 次から 3 次にわたる救急患者を 24 時間 365 日体制で受け入れている。ドクターカーによる病院前診療、初療対応、手術、集中治療まで救命救急医が一貫して行う自己完結型のシステムで運用している。平成 29 年度の診療体制はスタッフ医師 14 名、後期研修医 14 名であった。診療疾患は心肺停止、急性心筋梗塞、敗血症、ショック、多臓器不全、急性腹症、消化管出血、多発外傷、中毒といった幅広い分野におよぶ。また、近隣の医療機関からの緊急対応依頼も多い。そのため、いかなる重症な患者が来院しても速やかな対応できるように救命救急センター内に各診療分野の専門医による診療チームを形成している。平日日勤帯に関しては、一般診療科と救急診療に関するコラボレーションを行ない、応需件数の増加や診療の質の向上にも努めている。

<今後の展望>

諸事情により救命救急センターの医師減少に伴い、従来の救急応需および診療体制に支障を来すようになった。その厳しい状況下でも、可能な限り集中治療を要する重症患者の集約、脳卒中・循環器疾患の診療、急性腹症や多発外傷などの Acute Care Surgery 領域の充実を図っていききたい。地域から信頼される救急医療を提供するためには、一般診療科との協力を強化することが必須である。救急科専門医研修基幹施設として、全国から幅広く人材を募り、高度の能力・技術を有して社会に貢献できる優秀な救命救急医の育成に努めていく。

臨床指標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総手術 実施件数	41	27	36	34	33	39	33	51	35	36	17	31	413
外科手術 実施件数	13	11	10	13	12	19	13	24	14	11	9	12	161
整形外科手術 実施件数	19	12	19	15	15	12	15	25	14	18	5	8	177
心大血管 (PCI) 件数	10	11	7	7	10	10	8	6	7	6	9	6	97
PCI 以外の IVR 件数 (頸部・胸部・腹部・骨盤 IVR)	13	2	6	8	4	3	3	8	5	7	2	6	67
内視鏡処置 実施件数	0	9	13	6	8	7	12	11	10	12	3	10	101
救急搬送件数	327	272	333	354	333	309	347	327	376	373	265	263	3,879
三次救急搬送数	96	90	81	72	80	72	87	103	111	111	79	80	1,062
二次救急搬送数	227	173	239	262	243	225	242	209	250	246	170	160	2,646
ドクターカー出動件数	242	258	231	255	248	233	248	267	316	340	304	213	3,155
人工呼吸器 延患者数	254	187	228	251	251	184	270	342	291	413	299	278	3,248
血液浄化装置 患者数	6	7	4	7	7	3	6	4	4	2	12	15	77
PCPS 患者数	1	2	2	2	4	4	2	1	8	8	8	8	50
IABP 患者数	3	2	1	2	7	6	3	1	3	3	8	5	44

12. 麻酔科

<平成 29 年度の活動>

平成 29 年度の管理症例は 2082 例あり、2016 年度と比較して増加していた。超音波ガイド下神経ブロックによる術後の疼痛緩和にも取り組んでおり 195 例の局所神経ブロックを施行した。入院前の麻酔科医外来診察を 287 例実施しており、患者の麻酔への不安を軽減でき、術前の問題点を早期に把握できるようになった。

教育では、初期研修医 2 年次 4 名全員と救命救急センターの医師 4 名の麻酔科研修を実施した。また、近隣市町村の救急救命士挿管実習を 3 名受け入れることができた。

<今後の展望>

前年度の実績を下回ることなく、術後を含めた周術期管理を行う。全員が新専門医制度の更新認定を滞りなく行えるようにする。

臨床指標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
麻酔科管理症例	140	152	176	180	195	173	164	177	181	165	182	197	2,082
外来患者数	0	10	16	20	13	20	30	33	44	28	33	40	287
救命士教育	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	1	0	5
超音波ガイド下神経ブロック	10	13	14	18	16	17	19	12	20	20	15	21	195
麻酔管理料（全身麻酔） 算定件数	99	78	87	76	99	91	93	87	99	72	77	80	1,038

Ⅵ. 部門別活動状況

1. 薬剤部

<平成 29 年度の活動>

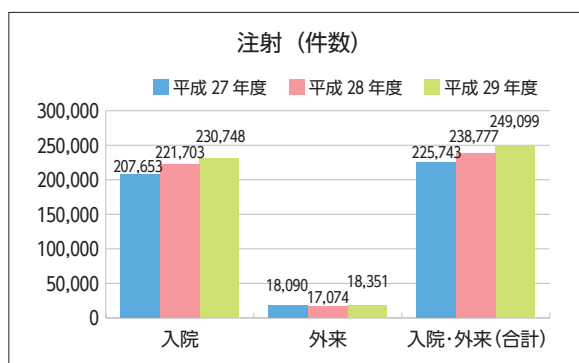
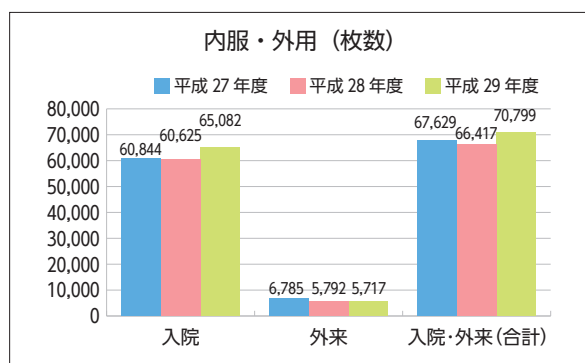
病棟薬剤業務では、病棟配置薬の管理において、薬品期限チェックを毎月行い、看護師とともに定数配置薬の見直しを行っている。

入院患者への指導では、入院から退院までのフォローを目指し、入院時持参薬確認から退院時指導及びお薬手帳シールの発行による情報提供を充実させた。また、他職種に指導内容を情報共有してもらえようように、薬剤管理指導記録を電子カルテに直接記載する方法への変更を検討し、開始した。

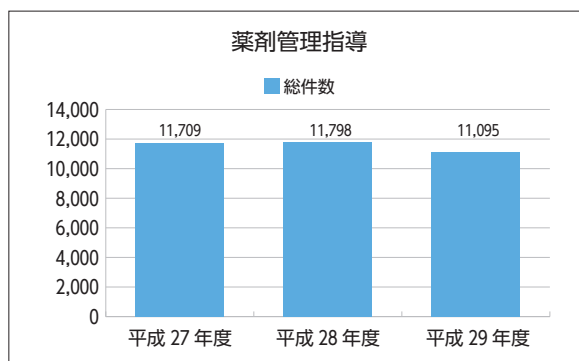
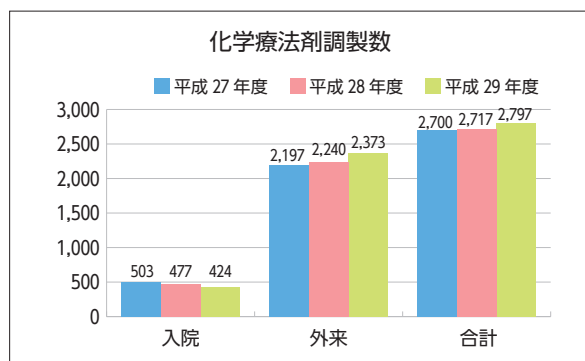
e ラーニングによる医療安全研修において、薬品の管理・適正使用の周知徹底を図った。

外来でがん薬物療法を行う患者さんに対する相談窓口（予約制）を開設し、適正な薬物治療の提供と安全管理に対応している。

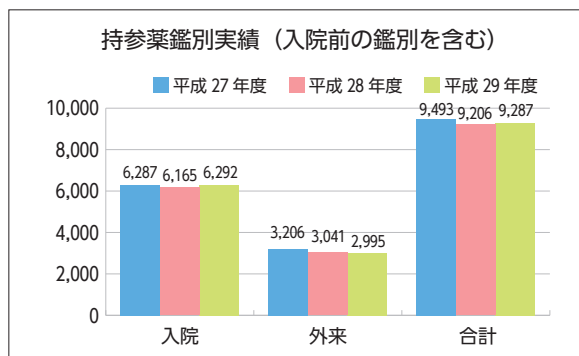
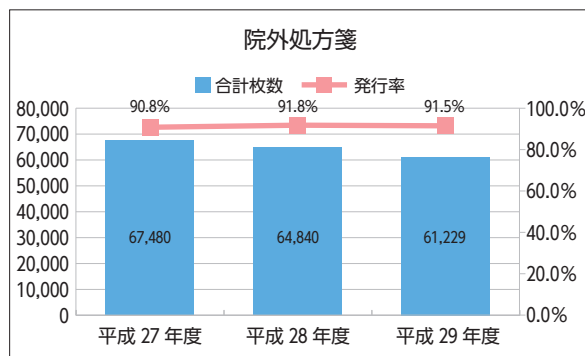
(1) 業務実績



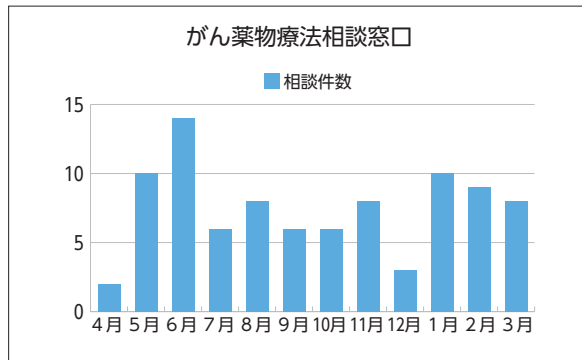
(2) 化学療法剤調製実績



(3) 持参薬鑑別実績（入院前の鑑別を含む）



(4) がん薬物療法相談窓口 相談件数



<今後の展望>

アクションプランには、従来からの薬剤管理指導に関する件数に加え、ハイリスク薬の説明・指導を充実させること、また、病棟業務への関わりに関して新人教育を強化し、早期に病棟業務に関われることにより病棟担当者の負担軽減と病棟業務の充実につなげることを挙げた。

また、病院が進める PFM (patient flow management) による入退院患者支援について、薬剤師が関わるができる持参薬確認を中心として協力していく。

ただし、育児休暇取得者の代替職員の確保が困難で、昨年に引き続き、業務全般において余裕を持って行えなかった現状がある。急な退職や育児・病気休暇に対応できるように余裕を持った人員配置を交渉していく。また、他部署との兼務者を設定する場合には本来業務に影響が出ないよう人員を要望していく。

2. 中央検査部

<平成 29 年度の活動>

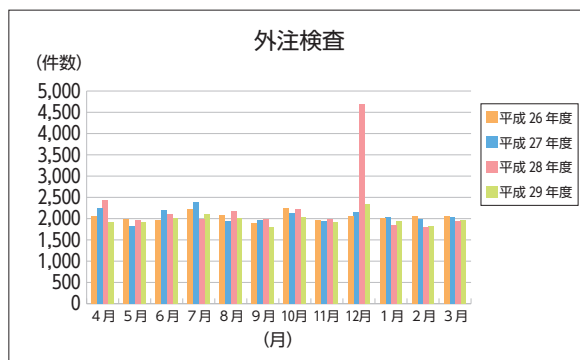
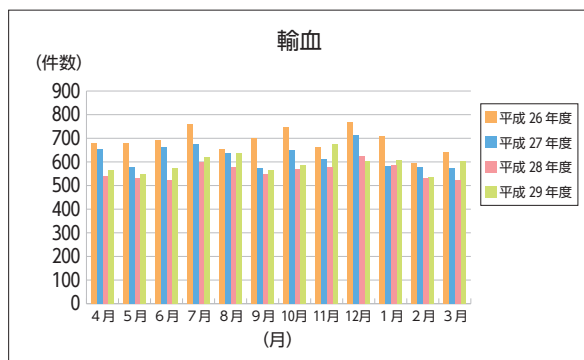
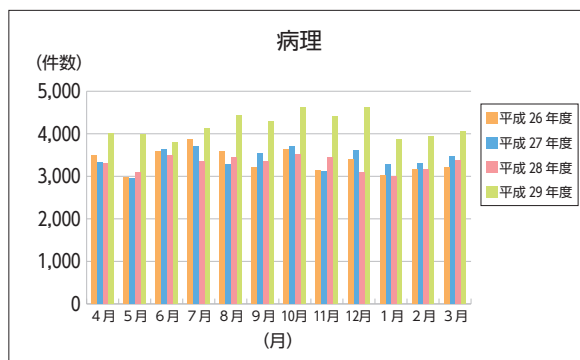
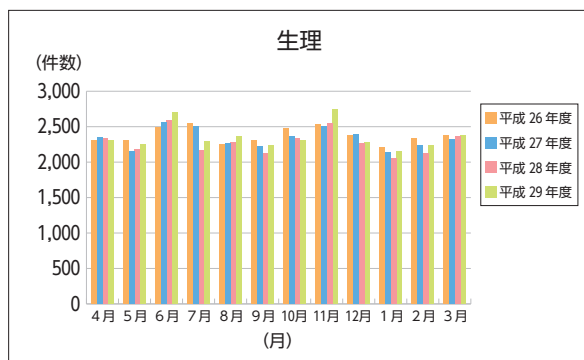
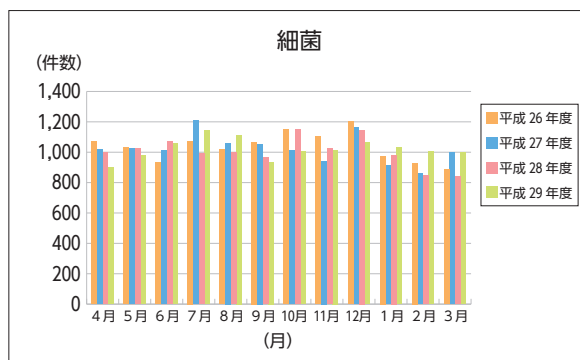
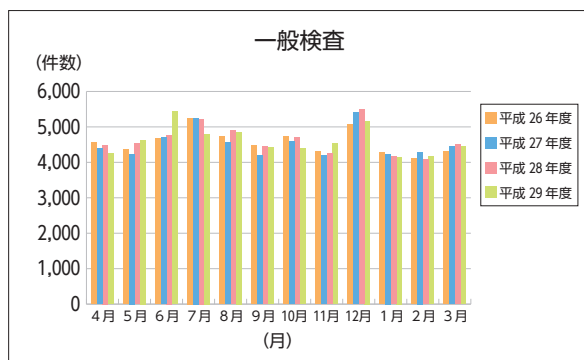
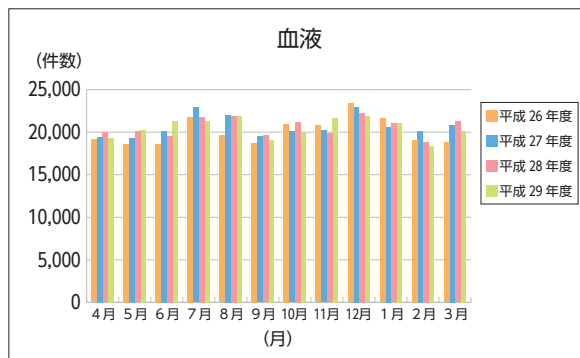
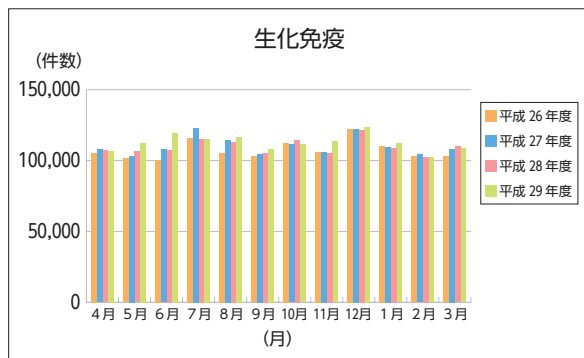
新人教育プログラムの作成と、入職5年目までの教育プログラムを作成し、実施している。

用紙運用の外注検査のオーダリング取込みや、採血支援も引き続き実施している。

また、職員健診の採血を、患者さんと交わらない場所（会議室）で行っているが定着化してきている。

<今後の展望>

検査機器やシステムの更新が急がれますので、準備をしていきたいと思います。



3. 放射線部

<平成 29 年度の活動>

約 20 台の機器（一般撮影系・CT・MRI・核医学・血管造影）を使い、一般診療科及び救命救急センターの業務を技師 15 名（うち非常勤 2 名）で行っている。

機器は老朽化が進み故障等も多くなっているが、工夫により出来る修理や設定は現場で行い病院の無用な支出を極力抑えるようにしている。

新しい検査にも対応し、出来るだけトレンドな検査を行えるように対策を立てている。

脳卒中に関連する検査等については、研修や検査の振り返り・検証を行い、間違いようがない検査手順を作成している。また検査手技・手法だけではなく、トラブル対応においてもその都度検証し周知を行い、検査全体を管理できる技師を目標としている。

<今後の展望>

放射線検査は全般的には微増だが、CT・MRI に関しては増加傾向であり、その依頼内容は濃くなってきている。残念ながら機器自体の能力が劣っているため十分応え切れず、業務量だけが増大しているのが現状である。MRI の増設、CT の更新により診療科の要望に十分応えられると考える。

業務内容については法令の順守と効率化、標準化を念頭に教育体制・業務の見直しを図っていく予定である。

4. 臨床工学科

<平成 29 年度の活動>

臨床工学科の従来業務として、血液浄化業務、補助循環業務、人工呼吸器関連業務、心臓カテーテル関連業務、手術室関連業務、医療機器の保守点検および研修・教育を行っている。

平成 24 年度から開設した CE 中央管理センターでは、機器の適正台数の見直しを含め、93 機種・約 900 台の保守管理を行っている。また、院内機器の中央管理化の要望も多く、14 機種・約 350 台については貸出管理を実施している。

医療機器安全管理の一環で、初期研修医に対しての医療機器コアレクチャーや看護部卒後教育の医療機器勉強会を行っている。

血液浄化業務

	15 年	16 年	17 年
HD	144	67	60
CHDF	147	155	86
PMX	7	12	11
PE	0	0	14
DHP	2	1	1
腹水ろ過濃縮	16	16	33
LCAP	53	89	81
ビリルビン吸着	10	0	7

補助循環業務

	15 年	16 年	17 年
PCPS (V-V 含む)	38	59	48
IABP	45	56	46

心臓カテーテル関連業務

	15 年	16 年	17 年
CAG	287	363	391
PCI	310	469	489
カテ直接介助	244	630	695
PM 植え込み	33	32	36
PM 交換	9	17	16
TPM	25	33	29
その他	29	45	44
電気生理	14	21	18
PM チェック	575	528	534

手術室関連業務

	15 年	16 年	17 年
スリーパー業務	87	26	0
整外ナビゲーション	27	21	6
手術機器トラブル依頼	553	427	230
OR 機器点検	8,377	9,171	8,999
麻酔器	3,062	3,970	3,857
内視鏡システム	1,308	1,445	1,391
電気メス	1,741	2,132	2,176
ソノサージ	1,494	917	919
ハーモニック	809	707	656
自己血回収	37	49	35

人工呼吸器関連（平均稼働）

	15 年	16 年	17 年
人工呼吸器（17 台）	31.8%	44.3%	50.7%
非侵襲人工呼吸器 V60（3 台）	36.3%	17.6%	32.7%
高流量システム NHF（2 台）	11.5%	28.1%	27.1% ※途中から 3 台運用

CE 中央管理センター貸出状況

2015 年

シリンジポンプ	2283
輸液ポンプ	3162
栄養ポンプ	268
人工呼吸器	410
フットポンプ	826
ハマサーボドレイン	211
超音波ネブライザ	581
非侵襲人工呼吸器	117
体外式ペースメーカー	15

2016 年

シリンジポンプ	2483
輸液ポンプ	3381
栄養ポンプ	324
人工呼吸器	468
フットポンプ	855
ハマサーボドレイン	219
超音波ネブライザ	478
レスピフロー	30
非侵襲人工呼吸器	122
体外式ペースメーカー	26

2017 年

シリンジポンプ	2855
輸液ポンプ	3753
栄養ポンプ	364
人工呼吸器	529
フットポンプ	805
ハマサーボドレイン	182
超音波ネブライザ	492
レスピフロー	115
ハイフローセラピー	48
非侵襲人工呼吸器	149
体外式ペースメーカー	33
ベッドサイドモニタ	6
送信機	7

医療機器安全使用研修 開催数

	15 年	16 年	17 年
医療機器安全研修	23	21	41

<今後の展望>

平成 30 年度からは、病院の中期事業計画に沿った形で、脳血管内カテーテル業務に着手し、各科からの要望で PSG 検査、ペースメーカー遠隔モニタリングを開始している。更なる業務依頼があれば、科員数に沿った業務拡大を行いたい。

5. リハビリテーション部

<平成 29 年度の活動>

現行通り整形外科、外科、内科領域から、関節術後、腹部外科術後、肺炎や COPD 急性増悪後、救命救急領域から、多発外傷や裂創、熱傷などの疾患に対し診療を行ってきました。特に今年度はがん拠点病院として、腹部・乳がん術後のリハビリテーションに力を入れ介入件数が伸びました。

リハ部門全体集計

	単位数	実患者数
運動器リハ	16,151	1,525
脳血管リハ	8,107	589
呼吸器リハ	2,304	184
廃用リハ	7,775	785
がんリハ	2,333	256
心大血管リハ	1,210	116
摂食嚥下	14	4
合 計	37,894	3,459

理学療法

新患者数

科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
整形外科（入院）	30	25	32	37	32	23	28	39	31	35	30	27	369
整形外科（外来）	14	9	13	10	14	9	10	11	12	10	16	22	150
救命部	40	32	41	37	28	23	38	41	37	40	23	30	410
外科	10	11	7	12	16	10	13	12	13	10	14	17	145
呼吸器内科	5	8	2	4	6	7	10	5	11	13	10	10	91
循環器内科	5	2	2	8	2	5	4	2	5	8	3	3	49
消化器内科	1	6	4	1	5	2	5	3	0	0	3	3	33
糖尿病内科	0	6	10	5	0	7	10	4	8	4	3	2	59
総合診療部	3	3	5	4	10	5	5	8	2	2	2	0	49
泌尿器科	1	2	1	0	8	3	2	1	1	0	0	0	19
歯科	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
婦人科	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
合 計	110	104	117	118	121	94	126	126	120	123	104	114	1,377

疾患別集計－単位数

入 院	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
運動器リハ	907	1,087	1,337	1,131	871	708	751	901	947	725	986	938	11,289
脳血管リハ	464	366	405	321	405	360	357	262	321	209	202	263	3,935
呼吸器リハ	255	234	80	158	122	54	112	136	210	227	189	240	2,017
廃用リハ	292	351	358	352	383	441	497	427	376	356	289	318	4,440
がんリハ	212	166	90	100	142	88	108	87	142	158	78	198	1,569
心大血管リハ	41	35	47	115	103	32	72	60	83	76	75	82	821
合 計	2,171	2,239	2,317	2,177	2,026	1,683	1,897	1,873	2,079	1,751	1,819	2,039	24,071

疾患別集計 - 実患者数

入 院	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
運動器リハ	66	58	73	76	65	45	60	86	79	67	75	74	824
脳血管リハ	23	23	26	25	29	21	21	26	22	21	15	16	268
呼吸器リハ	14	16	9	12	8	9	9	9	16	21	16	16	155
廃用リハ	27	29	41	34	38	42	46	40	40	41	33	33	444
がんリハ	17	15	14	11	15	12	16	13	14	14	12	23	176
心大血管リハ	6	4	3	7	5	4	8	6	10	6	6	8	73
合 計	153	145	166	165	160	133	160	180	181	170	157	170	1,940

外 来	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
運動器リハ－単位数	254	277	290	227	241	212	222	217	209	182	180	250	2,761
運動器リハ－実患者数	44	39	42	42	49	33	34	38	35	35	38	57	486

作業療法

新患者数

科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
整形外科（入院）	8	6	4	0	3	2	2	0	1	0	1	2	29
整形外科（外来）	2	3	3	4	2	2	1	2	2	1	3	3	28
救命部	17	17	21	22	19	18	21	20	25	32	16	12	240
外科	5	1	0	9	1	1	1	2	7	3	5	3	38
呼吸器内科	0	2	0	1	3	2	2	2	1	1	2	0	16
循環器内科	1	2	0	4	1	2	1	1	3	5	3	0	23
消化器内科	1	1	2	1	0	0	1	0	0	0	1	2	9
糖尿病内科	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
総合診療部	1	1	2	0	3	0	1	1	0	0	0	0	9
泌尿器科	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
歯科	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
婦人科	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
合 計	36	33	32	41	32	28	31	28	40	42	31	22	396

疾患別集計－単位数

入 院	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
運動器リハ	182	193	190	114	111	192	189	110	71	72	55	34	1,513
脳血管リハ	286	214	224	153	250	146	164	123	184	109	137	134	2,124
呼吸器リハ	2	36	25	26	21	8	24	27	66	34	12	6	287
廃用リハ	80	69	79	141	122	144	121	90	141	153	143	80	1,363
がんリハ	68	74	25	64	24	31	20	12	95	62	62	76	613
心大血管リハ	8	15	1	32	64	14	64	34	52	34	38	33	389
合 計	626	601	544	530	592	535	582	396	609	464	447	363	6,289

疾患別集計 - 実患者数

入 院	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
運動器リハ	14	13	14	8	8	12	13	15	9	8	7	4	125
脳血管リハ	19	16	15	16	18	10	11	11	15	15	10	11	167
呼吸器リハ	1	2	2	3	2	2	2	2	3	5	2	3	29
廃用リハ	12	7	10	13	14	15	15	13	15	21	16	14	165
がんリハ	8	4	4	8	2	3	2	2	8	7	9	9	66
心大血管リハ	1	1	8	2	2	2	6	4	6	4	3	4	43
合 計	55	43	53	50	46	44	49	47	56	60	47	45	595

外 来	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
運動器リハ－単位数	39	61	52	68	73	64	63	38	46	22	24	38	588
運動器リハ－実患者数	8	11	9	10	11	9	7	5	6	4	3	7	90

言語聴覚療法

新患者数

科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
救命部	14	10	13	14	8	8	13	9	21	15	7	7	139
整形外科（入院）	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	3
外科	0	0	2	1	1	1	0	1	1	1	0	1	9
呼吸器内科	1	1	2	1	1	4	2	1	1	1	1	1	17
循環器内科	1	3	0	2	1	2	0	3	1	4	2	3	22
消化器内科	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	3
糖尿病内科	0	0	0	0	1	0	0	0	3	1	0	1	6
総合診療部	0	0	3	3	6	4	0	2	1	0	1	0	20
泌尿器科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歯科・口腔外科	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
婦人科	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
合 計	16	14	22	21	18	20	17	16	28	22	13	14	221

疾患別集計－単位数

入 院	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
脳血管リハ	185	208	239	133	161	77	204	152	259	174	120	136	2,048
廃用リハ	118	62	73	90	148	219	288	245	267	203	145	114	1,972
がんリハ	4	16	9	41	0	2	0	0	21	46	4	8	151
合 計	307	286	321	264	309	298	492	397	547	423	269	258	4,171

疾患別集計 - 実患者数

入 院	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
脳血管リハ	13	11	15	13	12	12	10	14	17	17	9	11	154
廃用リハ	10	6	11	13	15	19	17	15	23	21	15	11	176
がんリハ	1	1	3	2	0	1	0	0	2	2	1	1	14
合 計	24	18	29	28	27	32	27	29	42	40	25	23	344

摂食嚥下療法

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新患数	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	3
単位数	0	4	3	6	0	1	0	0	0	0	0	0	14
実患者数	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	4

<今後の展望>

4月より脳神経外科医師が赴任されることとなり、より一層リハビリテーションの受容は増加すると予想されます。脳卒中認定理学療法士を中心に脳リハの知識・技術の充実を図って行きたいと思います。

6. 心大血管疾患リハビリテーション科

<平成 29 年度の活動>

医師 1 名、専任看護師 1 名、専従理学療法士 2 名、クラーク 1 名にて業務を行っている。平成 27 年より 7 階病棟を中心にベッドサイドでのリハビリを開始し対象者を拡大した。対象者の拡大に伴い、高齢患者、心不全患者の割合が上昇した（別表 1）。

心リハ患者の運動耐容能の評価方法としては、心肺運動負荷試験に加え、筋力検査・SPPB テスト・6 分間歩行試験を行い、サルコペニアやフレイルを合併した患者の評価にも対応している。また、筋力検査や SPPB テストはエントリー後早い段階で評価するようにし、より早い段階で問題点を抽出し、運動療法の内容を見直すことができるようにしている。

難渋症例に関しては定期的にカンファレンスを行い、目標設定や介入方法の見直し、情報共有を行うようにしている。

（別表 1）

	2016 年度	2017 年度
エントリー患者平均年齢	68.8 歳	71.0 歳
75 歳以上患者	39.1%	46.5%
心不全患者	39.5%	47.9%

<今後の展望>

これまでの心リハの主な目的は再発予防に向け自己管理能力を高めることであった。しかし、認知機能の低下やサルコペニア、フレイルを合併した高齢者の心リハエントリーが増えており、「患者教育を行い、自己管理能力を高める」という心リハの本来の目的を達成することが困難な患者も増加している。今後は個々の患者に応じた目標設定や介入方法について、心リハスタッフ間での共通認識を持つことが重要となる。

7. 栄養科

<平成 29 年度の活動>

入院中の患者 1 人 1 人に対し栄養評価に基づく栄養管理と病態に応じた食事提供を行った。食品衛生では HACCP に基づいた衛生管理を行い、委託業者の教育・給食の管理に努めた。患者教育では病態に合わせた個人栄養指導（外来・入院）や集団栄養指導、糖尿病教室、心臓病教室、糖尿病透析予防指導、がんサロン、栄養教室を行った。

<今後の展望>

食事箋院内規約（例：炎症性腸疾患等）の見直し・給与栄養量の改訂を行い、患者に適した治療食を提供していく事を目指し取組んでいく。又、栄養障害を生じている患者に対し、NST など早期の栄養回復が図れるよう活動する。摂食不良の患者にはベットサイド訪問を行い必要に応じ食事変更の提案や栄養量の調整を行う。

Ⅶ. 医療社会事業状況

1. 患者相談実績

新規相談

件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
経済的相談	119	126	108	125	134	118	117	128	128	103	97	99	1,402
患者支援相談	1,412	1,428	1,494	1,449	1,548	1,281	1,258	1,541	1,431	1,353	1,523	1,527	17,245
												合計	18,647

2. 退院支援関係

(1) 介護支援連携指導料件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
10	12	8	5	8	5	9	9	9	7	4	4	90

(2) 退院支援加算件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
124	93	100	117	131	97	93	122	112	104	92	93	1,278

(3) 退院時共同指導料

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
3	4	4	2	5	1	1	3	0	3	2	2	30

3. 無料低額診療事業関係

無料低額診療事業総相談件数：1,405 件

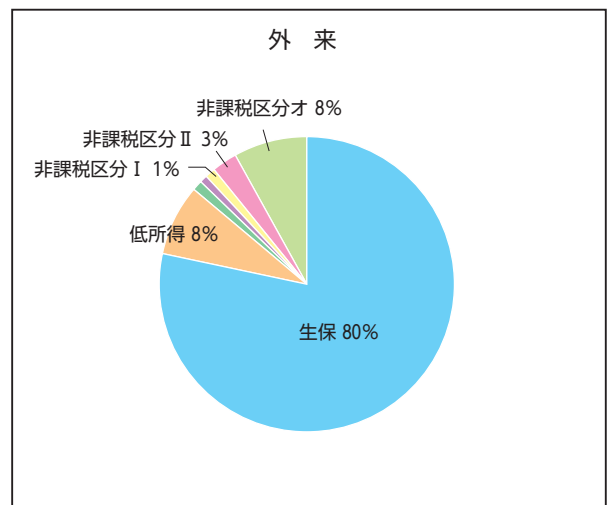
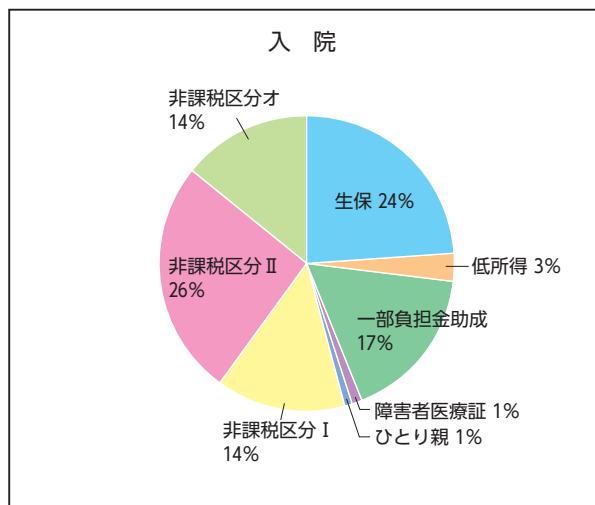
無料低額診療事業実績：9.3%

<月別内訳>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計 (実人数)
総 数	103	113	126	124	129	138	144	139	141	114	105	121	1,497
低 所 得	25	21	25	29	27	29	33	29	22	23	26	23	312
非 課 税	78	92	101	95	102	109	111	110	119	91	79	98	1,185

<保険種別>

	入院	外来	延患者数
生 保	4,422	4,216	8,638
低 所 得	550	456	1,006
一部負担金助成	3,148	33	3,181
障害者医療証	181	43	224
ひとり親	132	4	136
特 定 疾 患	18	0	18
非課税区分Ⅰ	2,499	55	2,554
非課税区分Ⅱ	4,720	192	4,912
非課税区分才	2,594	471	3,065



Ⅷ. 初期臨床研修

1. ロテーションスケジュール

二年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
岡 部 悟	麻 酔	麻 酔	精 神	総合診	総合診	総合診	地 域	放射線	糖尿病	消化器	消化器	消化器	
沖 村 駿 平	総合診	総合診	総合診	外 科	外 科	放射線	麻 酔	麻 酔	地 域	精 神	救 命	救 命	
金 本 佑 子	外 科	外 科	精 神	麻 酔	麻 酔	糖尿病	放射線	地 域	循環器	総合診	総合診	総合診	
辻 井 悠 里	産 婦	産 婦	消化器	消化器	糖尿病	地 域	総合診	総合診	放射線	精 神	麻 酔	麻 酔	

一年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
泉 はるか	糖尿病	糖尿病	消化器	消化器	産 婦	外 科	救 命	救 命	救 命	循環器	循環器	小 児	
田 中 里 穂	救 命	救 命	救 命	循環器	循環器	産 婦	糖尿病	糖尿病	消化器	消化器	小 児	外 科	
中松 恵利佳	循環器	循環器	産 婦	小 児	消化器	消化器	救 命	救 命	救 命	外 科	糖尿病	糖尿病	
南 有 紀	循環器	循環器	外 科	救 命	救 命	救 命	産 婦	小 児	呼吸器	呼吸器	消化器	消化器	
本 吉 俊 貴	救 命	救 命	救 命	呼吸器	呼吸器	小 児	消化器	消化器	外 科	産 婦	循環器	循環器	
阿 部 愛	消化器	消化器	糖尿病	糖尿病	循環器	循環器	小 児	外 科	産 婦	救 命	救 命	救 命	市大たすぎがけ
山本 将太郎	呼吸器	呼吸器	循環器	循環器	外 科	消化器	消化器	産 婦	小 児	救 命	救 命	救 命	市大たすぎがけ
辻 川 麻 実	消化器	消化器	小 児	救 命	救 命	救 命	循環器	循環器	糖尿病	糖尿病	外 科	産 婦	阪大たすぎがけ
三 井 康 平							救 命	救 命	救 命	小 児	産 婦		三重大たすぎがけ

2. 研修管理委員会・研修管理運営委員会 開催状況

日付	委員会名	議 題	出欠
平成 29 年 6 月 30 日	初期臨床研修 管理運営委員会	1. 新委員の紹介 2. 研修医ローテーションの変更について 3. 初期臨床研修医および看護指導者による「研修環境評価表」のフィードバックについて 4. 卒後臨床研修評価機構 指摘事項について 5. 初期臨床研修医 精神科研修について 6. 大阪市立大学医学部附属病院 たすきがけ研修医の増員について 7. 履修進捗管理票の責任診療科変更について 8. 報告及び今後の予定 9. その他	出席：16 名 欠席：4 名
平成 29 年 10 月 16 日	初期臨床研修 管理委員会	1. 新委員の紹介 2. 研修医ローテーションの変更について（報告・確認） 3. 履修状況について（報告） 4. 平成 29 年度 初期臨床研修医アンケート結果について 5. 初期臨床研修医 精神科研修について 6. 今後の予定及び報告 7. 平成 30 年度 病院説明会の出展について 8. 総合診療部の研修について 9. その他	出席：14 名 欠席：12 名
平成 30 年 1 月 22 日	初期臨床研修 管理運営委員会	1. 平成 30 年度 初期臨床研修医について 2. 総合診療部の研修について 3. 平成 31 年度募集に向けて、採用試験日及び見学会、募集活動についての報告 4. その他	出席：15 名 欠席：5 名
平成 30 年 2 月 13 日	初期臨床研修 管理運営委員会 (診療科のみ)	1. 平成 30 年度 初期臨床研修における総合診療部への研修協力をお願い 2. 平成 30 年度 研修スケジュールについて	出席：9 名 欠席：4 名
平成 30 年 3 月 19 日	初期臨床研修 管理委員会	1. 平成 28 年度 初期臨床研修医の修了判定及び再評価について 2. 1 年次研修医の履修状況中間報告及び再評価について 3. クリニカルスキルテスト結果報告 4. 平成 30 年度 総合診療部体制について 5. 平成 30 年度研修スケジュールについて 6. 平成 31 年度 初期臨床研修プログラムの改訂について 7. 臨床研修理念および基本方針の検討 8. 臨床研修病院としてのあり方について 9. 指導者リスト及び評価対象の見直しについて 10. 平成 31 年度募集に向けて、採用試験日及び見学会、募集活動について（報告） 11. その他	出席：14 名 欠席：12 名

Ⅸ. 業績

1. 学会発表

演 題 名	演 者 名	学 会 名	年 月 日
循環器内科			
1) Heart Rate Recovery の異常は高齢心不全患者における予後予測因子となり得るか？	岡田健一郎、松浦昭彦、辻合康浩、大坪愛、木口直子、木田かおり、山本香織、釧持知恵、村山雅美、西尾まゆ、土井泰治	第 23 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	2017.7.15
2) 高齢化率 30.1%の医療圏における超高齢者慢性心不全医療の実際	西尾まゆ、村山雅美、釧持知恵、松浦昭彦、辻合康浩、岡田健一郎	第 23 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	2017.7.15
3) 高齢心不全患者において Heart Rate Recovery の異常は再入院を予測し得るか？	岡田健一郎	第 65 回日本心臓病学会学術集会	2017.10.1
4) 超高齢心不全の臨床的特徴と経過	西尾まゆ、岡田健一郎、久米清士、奥田啓二、宮崎宏一、坂谷彰哉、澤邊博志、小野良太、廣岡慶治、林亨	第 65 回日本心臓病学会学術集会	2017.10.1
5) Brugada 症候群とネフローゼ症候群の病勢についての関連性を検証した一例	坂谷彰哉、澤邊博志、宮崎宏一、久米清士、奥田啓二、西尾まゆ、岡田健一郎、廣岡慶治、林亨	第 124 回日本循環器学会近畿地方会	2017.11.25
小児科			
1) 大腸内視鏡検査で診断しえた食物蛋白誘発胃腸炎の一例	水野龍義、南有紀、吉田敏子、森本恭子、瀬戸真澄	第 31 回近畿小児科学会	2018.3.11
外科			
1) 術翌日から食事提供を開始する ERAS プロトコルにおける PONV 対策	真貝竜史	日本外科代謝栄養学会第 54 回学術集会	2017.7.6
2) 抗 HER2 療法による HER2 陽性乳癌の治療成績の向上	吉岡節子、北條茂幸、豊田泰弘、若林由紀子、宮垣博道、西田久史、真貝竜史、高山治、福崎孝幸、大東弘明、前浦義市	第 25 回日本乳癌学会学術集会	2017.7.14
3) 大阪府における乳癌の検診発見割合と進行度別乳癌罹患率の動向－乳癌検診は奏功しているのか？	豊田泰弘、田淵貴大、北條茂幸、吉岡節子、若林由紀子、前浦義市	第 25 回日本乳癌学会学術集会	2017.7.14
4) 術前針生検と術後切除標本における免疫組織診断結果の比較検討	北條茂幸、吉岡節子、豊田泰弘、若林由紀子、野間俊樹、松永寛紀、宮垣博道、西田久史、真貝竜史、高山治、福崎孝幸、大東弘明、前浦義市	第 25 回日本乳癌学会学術集会	2017.7.15
5) オスモパッドの使用経験	豊田泰弘	第 19 回日本褥瘡学会学術総会	2017.9.14
6) 高齢者胃癌に対する手術治療と術後成績：非高齢者群との比較解析	宮垣博道、高山治、野間俊樹、松永寛紀、豊田泰弘、吉岡節子、北條茂幸、大東弘明、前浦義市、福崎孝幸	JDDW2017	2017.10.12
7) 高齢者乳癌に対する術後補助療法についての検討	吉岡節子	第 55 回日本癌治療学会学術集会	2017.10.21

演 題 名	演 者 名	学 会 名	年 月 日
8) ERAS パスを適用した高齢者大腸癌症例における身体活動量維持のための工夫と評価	真貝竜史、伊藤善郎、深田唯史、宮垣博道、西田久史、豊田泰弘、高山治、吉岡節子、北條茂幸、福岡孝幸、大東弘明、前浦義市	第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会	2017.11.11
9) 印鑑細胞癌を含む多彩な組織型をとり、癌性リンパ管症を発症した横行結腸癌の一例	伊藤善郎	第 79 回日本臨床外科学会総会	2017.11.24
10) バリウム検査後発症した小腸閉塞に対して透視併用し腹腔鏡下に解除し得た一例	深田唯史、真貝竜史、宮垣博道、西田久史、福岡孝幸	第 30 回日本内視鏡外科学会総会	2017.12.8
11) Prognostic factor in long term survivors in Stage IV gastric cancer	宮垣博道	第 90 回日本胃癌学会総会	2018.3.9
12) S-1 による胃癌術後補助化学療法中の再発症例に対しカペシタビン+オキサリプラチン療法が有効であった 2 例	高山治	第 90 回日本胃癌学会総会	2018.3.9
整形外科			
1) 経皮的椎体形成術後に続発する新規椎体骨折の検討	長山隆一他	第 46 回日本脊椎骨髄病学会学術集会	2017.4.14
2) 大腿骨ステム周囲骨折に対する NCB Periprosthetic Femur Plate System を使用した骨接合術の治療経験	岡村悠貴、安原良典、伴祥高、坂口公一、長山隆一、庄司恭之	第 129 回中部日本整形外科・災害外科学会	2017.10.6
3) 膝関節特発性骨壊死に対する UKA の中期成績	安原良典	第 48 回日本人工関節学会	2018.2.24
総合診療部			
1) 急性心膜炎・心タンポナーデを合併した結節性多発動脈炎の症例	植森貞為、吉川裕章、向仲真蔵、寺田浩明	第 8 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会	2017.5.13
産科・婦人科			
1) 当科における摘出標本の体外搬出法～parasitic myoma を経験して～	下村将央	第 57 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	2017.9.8
千里救命救急センター			
1) 当院における過去 3 年間の外傷での緊急血管内治療に関する検討	高萩基仁	第 46 回日本 IVR 学会総会	2017.5.18
2) 外傷症例に対する NBCA を用いた血管内塞栓術の治療経験	大場次郎	第 46 回日本 IVR 学会総会	2017.5.18
3) 子どもメディカルラリーによる小学校への BLS 教育導入の試み	伊藤裕介	第 20 回日本臨床救急医学会	2017.5.27
4) 当院における高齢者の脆弱性骨盤骨折の症例の検討	酒井和也	第 31 回日本外傷学会総会・学術集会	2017.6.1
5) VV-ECMO を導入し救命し得た重症胸部外傷の 1 例	権志成	第 31 回日本外傷学会総会・学術集会	2017.6.2
6) 救命救急センターにおける入院時緩和ケアスクリーニングの導入	五十嵐佑子、大西美樹、増田千夏、京極多歌子、福岡孝幸、山根宏之、知久幸子、岩上雄一、竹村久仁子、川嶋慶子、須磨知美	第 22 回日本緩和医療学会学術大会	2017.6.23
7) 脛骨骨幹部開放骨折に対する一期的ない固定の治療経験	佐藤秀峰	第 43 回日本骨折治療学会	2017.7.7
8) 当院における特発性食道破裂 14 例の検討	伊藤裕介	第 9 回日本 Acute Care Surgery 学会学術集会	2017.9.8
9) ECPR 症例における来院時乳酸値と予後との関係についての検討	大谷尚之、澤野宏隆、夏川知輝、松岡玲子、高萩基仁、林靖之	第 45 回日本救急医学会総会・学術集会	2017.10.26

演 題 名	演 者 名	学 会 名	年 月 日
10) 著名なアンチトロンビン活性低下を認めた高トリグリセリド血症による急性膵炎の2例	小川裕子	第45回日本救急医学会総会・学術集会	2017.10.26
11) アロマセラピーの災害医療支援への活用について	山下公子	第20回日本アロマセラピー学会学術総会	2017.10.28
12) Lao PDR の救急隊に対する安全靴の寄付の経験から	高萩基仁	第23回日本集団災害医学会総会・学術集会	2018.2.3
13) 緊急医療チームの国際的な日報様式の実用性の検証	夏川知輝	第23回日本集団災害医学会総会・学術集会	2018.2.3
14) DMAT 派遣における安全について	大場次郎	第23回日本集団災害医学会総会・学術集会	2018.2.2
15) メディカルラリーを通して亜急性期災害対応を学ぶ	尾北賢治	第23回日本集団災害医学会総会・学術集会	2018.2.1
16) 急性な経過をとりエクリズマブが著効した非典型溶血性尿毒症症候群 (aHUS) の1例	酒井和也、澤野宏隆、高萩基仁、林靖之	第45回日本集中治療医学会学術集会	2018.2.23
17) 敗血症患者における血清 adiponectin 値の臨床的意義	夏川知輝、澤野宏隆、小川裕子、酒井和也、高萩基仁、森田幸子、三浦拓郎、中島有香、大谷尚之、林靖之	第45回日本集中治療医学会学術集会	2018.2.21
18) ショックを呈した副腎出血の1例	森山太揮	第117回近畿救急医学研究会	2018.3.10
19) 大阪府豊能医療圏における救急隊現着時心室細動症例の検討	林靖之、澤野宏隆	日本蘇生学会第36回大会	2017.11.26
20) 救命救急センターに所属する医師の他部署連携による負担軽減について	林靖之、五十嵐佑子、尾北賢治、佐藤秀峰、夏川知輝、伊藤裕介、小濱圭祐、大谷尚之、大場次郎、澤野宏隆	第45回日本集中治療医学会学術集会	2018.2.21
初期臨床研修センター			
1) 薬剤性QT延長症候群から心室細動を発生したと考えられるアルコール常飲者の1例	沖村駿平、坂谷彰哉、宮崎宏一、奥田啓二、久米清士、西尾まゆ、岡田健一郎、廣岡慶治、林亨	第216回日本内科学会近畿地方会	2017.7.1
2) メソトレキサート内服中に急性呼吸不全に陥り高流量酸素療法を導入するも救命できなかったリウマチ患者の1例	本吉俊樹、森田貴義、多河広史、古川真、山根宏之	日本内科学会第218回近畿地方会	2017.12.2
3) 難治性アトピー性皮膚炎を合併し感染性心内膜炎を繰り返す1例	阿部愛、奥田啓二、澤邊博志、坂谷彰哉、宮崎宏一、久米清士、西尾まゆ、岡田健一郎、廣岡慶治、林亨	日本内科学会第218回近畿地方会	2017.12.2
4) 健康小児に発症した帯状疱疹髄膜炎の1例	南有紀、吉田敏子、森本恭子、瀬戸真澄	第31回近畿小児科学会	2018.3.11
5) 小舞蹈病を契機に判断しえた急性リウマチ熱の1例	中松恵利佳、森本恭子、吉田敏子、瀬戸真澄	第31回近畿小児科学会	2018.3.11
リハビリテーション部			
1) 搬送用人工呼吸器 Oxylog1000 を誌表紙歩行訓練を行った無気肺の一症例	伊藤勇基	第54回日本リハビリテーション医学会学術集会	2017.6.10
2) 当院における、乳がん患者への周術期リハビリテーション介入開始までの取り組み	藤本侑大、若林由紀子、吉岡節子、豊田泰弘、北條茂幸、前浦義市	第25回日本乳癌学会学術集会	2017.7.15
3) 当院 ERAS プロトコルにおける理学療法士介入の現状と今後の課題	北島豊、吉田美由紀、長山隆一、真貝竜史	第1回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会	2017.10.28

演 題 名	演 者 名	学 会 名	年 月 日
4) 日本集中治療医学会学術集会における過去5カ年の作業療法実践報告の現状	藤本侑大、澤野宏隆、高橋哲也	第45回日本集中治療医学会学術集会	2018.2.21
5) 当院救命救急センターICUにおける作業療法実践内容に関する調査	藤本侑大、澤野宏隆	第45回日本集中治療医学会学術集会	2018.2.22
6) 救命救急センターでの作業療法介入に関する全国調査	藤本侑大、松本鉄也、澤野宏隆	第45回日本集中治療医学会学術集会	2018.2.22
心血管リハビリテーション部			
1) 呼吸筋力低下により人工呼吸管理からの離脱に難渋した重症心不全患者の一症例	松浦昭彦、岡田健一郎、西尾まゆ、辻合康浩、鈕持知恵、村山雅美、山本香織、木田かおり、木口直子、大坪愛	第23回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	2017.7.15
2) 再入院防止に向けPT・OTが介入した軽度認知機能障害の心不全症例	松浦昭彦	日本心臓リハビリテーション学会第3回近畿支部地方会	2018.2.17
放射線部			
1) 空路による参集拠点本部の対応	橘岳志	第23回日本集団災害医学会総会・学術集会	2018.2.2
中央検査部			
1) Solid papillary carcinoma の3例	小林学、横関典子、田中美沙紀、奥中あかね、辻求、北條茂幸	第56回日本臨床細胞学会秋期大会	2017.11.19
2) 基質拡張型β-ラクタマーゼ(ESBL)産生O8群Salmonellaが分離された1症例	野村祐二	第29回日本臨床微生物学会総会・学術集会	2018.2.10
臨床工学科			
1) 60MHz IVUSの使用経験ー40MHzとの比較	富永篤史、西尾まゆ	第65回日本心臓病学会学術集会	2017.10.1
2) ECPRを迅速に導入するための当院での取り組みと現状	西田孝保、飯尾博文、片衛裕司、伊藤正矩、富永篤史、谷尾研二、澤野宏隆、藤井誠	第24回近畿臨床工学会	2017.11.18
看護部			
1) 使い捨てディスポ手袋の改善ーQC活動の1年後の評価ー	歳森千明	第19回日本医療マネジメント学会学術集会	2017.7.8
2) 心大血管リハビリテーションを通じた超高齢者に対する終末期の意思決定支援できた1例	村山雅美、西尾まゆ、松浦昭彦、辻合康浩、岡田健一郎	第23回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	2017.7.15
3) 人工呼吸器を装着した術後患者の苦痛緩和の看護	朝田琴音	第116回近畿救急医学研究会	2017.7.15
4) 認定看護師の協働による院内看護職員に対する教育への取り組みと効果	荒瀬典子、岩上雄一、岩村俊彦、岡野由美、川南健、竹村実紀、西根昭吉、橋本渚、美馬美保、若林由紀子	第48回日本看護学会ー看護教育ー学術集会	2017.8.4
5) DVDを用いた大腸内視鏡検査説明の効果	村上順子、日永田都江	第69回近畿消化器内視鏡技師学会	2017.8.6
6) 手術を受けた後期高齢者の回復意欲を促進する要因	桑原由美、森脇芙美、江口秀子	第48回日本看護学会ー急性期看護ー学術集会	2017.9.8
7) 婦人科良性疾病の手術を受ける夫婦の思い	新川理絵、石田実穂	第48回日本看護学会ーヘルスプロモーションー学術集会	2017.9.22
8) 認知症高齢者のケアにおいて看護師が感じるジレンマ	松本莉可子、江口秀子	第48回日本看護学会ー看護管理ー学術集会	2017.9.30
9) A病院急性期内科病棟における転倒者の特徴	越智尚美、西畑理恵、瀬古理香、丸尾智実、川村千恵子	第48回日本看護学会ー看護管理ー学術集会	2017.10.13

演 題 名	演 者 名	学 会 名	年 月 日
10) 小児科マイコプラズマ肺炎パスの適応期間短縮に向けての検討	濱中彩子、西あかね、根来佐久子、関祐介	第 18 回日本クリニカルパス学会学術集会	2017.12.1
11) 全人工股関節置換術パス改訂後のバリエーション分析と課題	西海愛子、吉田和美、欠ヶ高子、江波戸涼子	第 18 回日本クリニカルパス学会学術集会	2017.12.1
12) HOT 導入パスの改定	根来佐久子	第 18 回日本クリニカルパス学会学術集会	2017.12.2
13) 経皮的冠動脈形成術 (PCI) + 心リハ導入パス適用推進について	大坪愛、平野絵美、四十物司享、増田裕香	第 18 回日本クリニカルパス学会学術集会	2017.12.1
14) 腹腔鏡下子宮全・子宮筋腫核摘出術パスの見直し	欠ヶ高子	第 18 回日本クリニカルパス学会学術集会	2017.12.2
15) 化学療法室で治療を受ける患者の環境や看護への満足度	荒木早苗、川村千恵子	第 5 回大阪府看護学会	2017.12.9
16) 急性期病院における退院支援を受けた患者・家族の思い	平野絵美、井上千代、江口秀子	第 5 回大阪府看護学会	2017.12.9
17) 豊能二次医療圏大規模災害時医療連携強化プロジェクト研修を開催して	植松愛	第 23 回日本集団災害医学会総会・学術集会	2018.2.1
18) クリティカルケア領域における終末期にある家族へのこころのケアの一考察	岡野由美	第 117 回近畿救急医学研究会	2018.3.10
19) 病院前救護における家族支援の必要性～現場死亡症例を振り返って～	小石芙美	第 117 回近畿救急医学研究会	2018.3.10
臨床心理室			
1) 過剰適応することで死への不安と付き合い続けている 40 代女性との 1 年半の面接課程	須磨知美	第 10 回 パリアティブ研究会合同事例検討会 2017 仙台	2017.5.27
2) 総合病院心理職における“働き方”の多様性について (4) ー入院患者への面接枠を設定する際のアセスメント要因を検討するー	須磨和美、磯崎聖子、今村隆、小杉孝子、小辻希世子、松向寺真彩子、田中美知代、西本幸代、溝口由里子、森田眞子、和田野飛鳥	日本心理臨床学会第 36 回大会	2017.11.19
経営戦略課			
1) アンケート調査から見直したクリニカルパス大会	関祐介	第 18 回日本クリニカルパス学会学術集会	2017.12.1
2) クリニカルパス見直しパスの作成	関祐介	第 18 回日本クリニカルパス学会学術集会	2017.12.2

2. 講演会等

演 題 名	演 者 名	講 演 会 等 名	年 月 日
消化器内科			
1) 早期胃癌、早期大腸癌の内視鏡治療	谷村知紀	市民健康講座	2016.5.28
2) 臨床医が気を付けたい消化管病変	奥田偉秀	第26回千里臨床カンファレンス	2016.6.25
3) 肝がんの早期発見をみすえた慢性肝炎患者のスクリーニング	鈴木都男	第9回千里診療連携セミナー	2016.10.20
循環器内科			
1) 冠動脈インターベンションと Optimal Medical Therapy	土井泰治	第7回千里診療連携セミナー	2016.7.21
2) 慢性心不全患者に対する健康寿命延伸の取り組みー包括的心臓リハビリテーションの有用性についてー	岡田健一郎	第27回千里臨床カンファレンス	2016.11.19
3) 高血圧と心臓病	廣岡慶治	市民健康講座	2016.12.10
4) 糖尿病と心血管病について	岡田健一郎	糖尿病教室	2017.2.6
呼吸器内科			
1) 胸部単純X線写真読影の基礎と肺癌の化学療法、分子標的薬の最新の知見	山根宏之	吹田市医師会肺がん検診研究会	2017.2.4
2) ここ3年間で経験した肺結核の症例	多河広史	第26回千里臨床カンファレンス	2016.6.25
糖尿病内科			
1) 糖尿病と上手につきあっていく方法	鈴木正昭	市民健康講座	2016.5.28
2) 経口糖尿病薬の新しい展開	鈴木正昭	第8回千里診療連携セミナー	2016.8.25
3) 糖尿病地域連携と教育入院	鈴木正昭	第27回千里臨床カンファレンス	2016.11.19
4) 糖尿病腎症について	星歩	糖尿病教室	2016.8.2
5) 糖尿病のまとめ	鈴木正昭	糖尿病教室	2017.3.6
小児科			
1) 超音波検査が診断の決め手となった3症例	吉田敏子	第48回済生会千里病院登録医会総会・学術講演会	2016.4.16
2) 予防接種の変遷とB型肝炎ワクチン定期接種化について	吉田敏子	第9回千里診療連携セミナー	2016.10.20
外科			
1) ヘルニア嚢内で穿孔性虫垂炎を生じた Amyand's hernia の1例	伊藤善郎	第611回大阪外科集談会	2016.5.21
2) 鼠径ヘルニアの現況	福岡孝幸	第611回大阪外科集談会	2016.5.21
3) 当科における胃癌治療	高山治	第24回千里臨床カンファレンス	2016.6.6
4) 意外と知らない胆嚢の話	西田久史	市民健康講座	2016.6.11
5) ラバ胆で注意すべき病変ー当科での胆嚢癌症例の検討ー	西田久史	第26回千里臨床カンファレンス	2016.6.25
6) 乳がんの薬物治療について	吉岡節子	第8回千里地区薬業連携研修会	2016.7.9
7) 腸閉塞	福岡孝幸	第7回千里診療連携セミナー	2016.7.21
8) 当科における脾断端陥入式脾胃壁マットレス縫合の工夫	西田久史	第25回北摂肝臓談話会	2016.9.2
9) 大腸癌の集学的治療ー手術から抗がん剤治療ー	真貝竜史	2016年度摂南大学薬学部公開講座	2016.9.11

演 題 名	演 者 名	講 演 会 等 名	年 月 日
10) 同時性肝・卵巣転移症例で治療戦略をフィードバックする	真貝竜史	Leaders Meeting in 北摂	2016.9.14
11) 乳癌術後に対する乳房再建術	北條茂幸	第 10 回千里診療連携セミナー	2017.1.19
12) 消化器がんのおはなし	福岡孝幸	吹田市立図書館 健康医療情報講座	2017.2.15
整形外科			
1) みずごしていませんか？－圧迫骨折－	庄司恭之	第 48 回済生会千里病院登録医会総会・学術講演会	2016.4.16
2) 椎体骨折の予防における SERM 製剤の役割	庄司恭之	骨粗鬆症治療フォーラム ～ Successful Aging を目指して～	2016.5.28
3) 腰の病気の危険信号 ～マスコミにだまされていませんか？～	長山隆一	市民健康講座	2016.6.11
4) 上腕骨近位端骨折に対する髄内釘治療	草開義治	第 14 回骨折治療を考える会	2016.7.16
5) よくわかる髄内釘の基礎	安原良典	第 31 回なみはや整形外科 21 世紀フォーラム	2016.8.20
6) 変形性関節症について	安原良典	帝人ファーマ株式会社 社内研修	2016.10.14
7) 当科における経皮的椎体形成術の現状と問題点	長山隆一	第 39 回整形臨床カンファレンス	2016.10.28
8) 「いつの間にか骨折」はなぜ怖い？	庄司恭之	市民健康講座	2016.11.19
9) 当科における経皮的椎体形成術の現状と問題点	長山隆一	第 3 回千里骨粗鬆症を学ぶ会	2017.2.25
泌尿器科			
1) 泌尿器疾患に関して～疫学、基本的病態、治療法～	今津哲央	キッセイ薬品工業株式会社 社内研修	2016.11.9
2) 「疲れたら血尿が出る。それって本当ですか？」 ～尿路結石・膀胱がん・前立腺がんのおはなし～	今津哲央	市民健康講座	2016.12.10
産科・婦人科			
1) 婦人科領域における鏡視下手術の手技に関する研究	大上健太	第 23 回通天閣フォーラム	2016.9.16
歯科・口腔外科			
1) 非歯源性疼痛－口腔外科の立場から－	金崎朋彦	第 48 回済生会千里病院登録医会総会・学術講演会	2016.4.16
総合診療部			
1) 最善の処置で救いたい！いつおこるかわからない子どもたちの事故	寺田浩明	神戸市養護教諭研究会高校部 研修	2016.10.14
2) 歩いてクリニックを受診する可能性があるこわい症例	寺田浩明	第 10 回千里診療連携セミナー	2017.1.19
千里救命救急センター			
1) 千里救命救急センターでの脳卒中診療の取り組み －急性期脳梗塞に対する t-PA 療法と血栓回収療法を中心に－	井上泰豪	第 27 回千里臨床カンファレンス	2016.11.19
2) 救命救急士が実施する救命処置	林靖之	平成 28 年度病院前医療体制における指導医等研修（初級者）	2016.12.1
3) 急性中毒の集中治療	吉永雄一	第 44 回日本集中治療医学会学術集会企画セミナー	2017.3.11
4) 敗血症による急性循環不全と DIC に対する治療管理	澤野宏隆	第 11 回千里診療連携セミナー	2017.3.25
5) 糖尿病の合併症	澤野宏隆	糖尿病教室	2016.5.2

演 題 名	演 者 名	講 演 会 等 名	年 月 日
リハビリテーション部			
1) 大規模災害時の作業療法士の可能性 ～災害派遣の報告～	藤本侑大	第 31 回大阪府作業療法学会	2016.10.30
2) がんと運動	吉田美由紀	吹田市立図書館 健康医療情報講座	2017.2.15
3) 糖尿病の運動療法について	古塩博史	糖尿病教室	2016.6.6
4) 家庭でできる運動のコツ	上原美紀	糖尿病教室	2016.11.7
心大血管疾患リハビリテーション科			
1) 心房細動ってどんな病気ですか？	岡田健一郎	心臓病教室	2016.6.1、 2016.11.9
2) 心不全とは？	岡田健一郎	心臓病教室	2016.7.6、 2016.12.21
3) 運動療法のススメ	岡田健一郎	心臓病教室	2016.8.10、 2017.2.8
4) 狭心症・心筋梗塞について	岡田健一郎	心臓病教室	2016.9.7、 2017.3.8
5) ペースメーカーについて	岡田健一郎	心臓病教室	2016.10.12
心大血管疾患リハビリテーション部			
1) 屋内で出来る有酸素運動	辻合康浩、 松浦昭彦	心臓病教室	2016.7.20、 2016.11.30
2) 準備運動・整理運動について	辻合康浩、 松浦昭彦	心臓病教室	2016.4.6、 2016.8.17、 2017.1.18
3) 心疾患患者さんの筋力トレーニング	辻合康浩、 松浦昭彦	心臓病教室	2016.6.15、 2016.10.19、 2017.3.22
4) 有酸素運動の効果	辻合康浩、 松浦昭彦	心臓病教室	2016.5.11、 2016.9.21、 2017.2.15
薬剤部			
1) 心房細動の薬について	樹下恵子	心臓病教室	2016.6.8、 2016.11.16
2) 心不全の薬について	高橋紀美	心臓病教室	2016.7.13、 2017.1.11
3) 狭心症・心筋梗塞の薬について	木村亜理沙	心臓病教室	2016.9.14、 2017.3.15
4) 知っていると思安心 薬の効果と副作用	山地香輝	糖尿病教室	2016.4.4
5) お薬手帳を活用しましょう	柏木しおり	糖尿病教室	2016.9.5
中央検査部			
1) 糖尿病の検査について	濱邊優	糖尿病教室	2016.7.4
2) 糖尿病の検査について 2	濱邊優	糖尿病教室	2017.1.16
栄養科			
1) 「骨に効く食生活」	吉田尚子	市民健康講座	2016.11.19
2) あなたのエネルギー量、知っていますか	吉田尚子	心臓病教室	2016.4.20、 2016.8.31、 2017.2.1
3) 減塩のコツ	吉田尚子	心臓病教室	2016.5.25、 2016.10.5、 2017.3.1

演 題 名	演 者 名	講 演 会 等 名	年 月 日
4) 食物繊維・脂質について知ろう	吉田尚子	心臓病教室	2016.6.29、 2016.11.2
5) 嗜好食品・アルコールについて	吉田尚子	心臓病教室	2016.8.3、 2016.12.14
6) 糖尿病食事療法の基本	佐々木真弓	糖尿病教室	2016.12.5
看護部			
1) アドバンスレクチャー「NPPV」	岩村俊彦	一般社団法人日本呼吸器学会第13回呼吸ケアカンファレンス	2016.4.10
2) 看護計画について	田原裕子	医療法人菊秀会皐月病院 施設内研修	2016.5.25、 2016.6.22
3) 当院の看護外来開設後の現状報告	川南健	北摂化学療法セミナー	2016.5.27
4) 患者さんへの抗がん剤曝露防止についての説明	川南健	第8回千里地区薬業連携研修会	2016.7.9
5) 慢性呼吸器疾患患者の酸素療法と人工呼吸療法におけるケア	岩村俊彦	福井大学大学院医学系研究科附属地域医療高度化教育研究センター看護キャリアアップ部門 慢性呼吸器疾患看護認定看護師教育課程	2016.9.5
6) フィジカルアセスメント「中枢神経系」「腹部系」	荒瀬典子	大阪府看護協会 救急看護認定看護師教育課程	2016.10.4
7) 乳癌内分泌療法の副作用とその対策－看護師の立場から－	若林由紀子	第20回北摂がん化学療法勉強会	2016.10.28
8) 済生会千里病院乳腺外来での乳がん看護と取り組み	若林由紀子	大阪北乳がんチーム医療ワークショップ	2016.11.19
9) ストーマケアの基礎を学ぶ	竹村実紀	コロプラストセミナー	2016.12.10、 2017.2.4
10) 救急看護1基礎「救急看護について」	荒瀬典子	大阪府看護協会 短期研修	2017.1.19
11) お薬と上手に付き合う方法	山本香織、 大坪愛	心臓病教室	2016.5.18、 2016.9.28、 2017.2.22
12) こんな時には受診をしましょう	大坪愛、 村山雅美、 木口直子	心臓病教室	2016.6.22、 2016.10.26、 2017.3.29
13) 快適な生活を続けるために	木口直子、 山本香織、 大坪愛	心臓病教室	2016.4.13、 2016.8.24、 2017.1.25
14) 心臓病で繰り返し入院しないために	木口直子、 山本香織	心臓病教室	2016.7.27、 2016.12.7
15) 低血糖／糖尿病による目の病気	井筒歩、 石田実穂、 岩本和子、 星川礼子	糖尿病教室	2016.6.6
16) 日常生活の過ごし方	西脇智子、 得能理恵、 衛藤有咲	糖尿病教室	2016.7.4
17) 神経障害・フットケア	中川瑞穂、 溝渕楓	糖尿病教室	2016.9.5
18) 糖尿病腎症について	向井加永子、 谷垣美恵	糖尿病教室	2016.11.7
19) 糖尿病と心臓病～日常生活について～	木田かおり	糖尿病教室	2017.1.16
感染管理室			
1) 感染症対策について (インフルエンザ、食中毒、疥癬)	橋本渚	社会福祉法人鶴丸会 施設内研修	2016.7.15

X. 看護部研修

1. 院内研修 平成 29 年度

研 修 会 名	開催日	内 容	参加者数
入職時 オリエンテーション	4/3～7、10	新採用者 病院の概要を知り、組織の一員としての心構えをもち、職場に早く 適応できる。	48 名
卒後 1 年目研修 卒後 1 年目またはそれと同等の者			
入職時研修	4/7 (午後)	新人看護職員研修ガイダンス等	38 名
第 1 回目研修 (2 回に分けて実施)	4/14 (午前)	おむつ交換	38 名
	4/22	1 ヶ月評価 安全な酸素の取り扱い 真空管採血 移送・移乗	38 名
	5/27	静脈栄養・経管栄養 学研ナースングサポート AA1709 膀胱留置カテーテル挿入	38 名
第 2 回目研修	6/24	口腔・鼻腔吸引 現状報告・悩みの共有 3 か月評価	38 名
第 3 回目研修	7/22	ストレスマネジメント 摂食・嚥下のメカニズム 食事介助 気管内吸引	37 名
第 4 回目研修	8/19	静脈注射の基礎知識 静脈留置針の取り扱い 滅菌ドレッシング剤の取り扱い 静脈留置針の挿入・固定	36 名
第 5 回目研修	9/23	静脈注射実技試験 報告・連絡・相談 6 ヶ月評価	36 名
第 6 回目研修	10/28	毒薬・麻薬・劇薬の取り扱い 危険予知トレーニング ストレスマネジメント：応用 看護観について	35 名
第 7 回目研修	11/25	輸血療法 急変とは 多重課題 (机上シミュレーション)	35 名
第 8 回目研修	12/23	多重課題の解決	35 名
第 9 回目研修	1/27	9 ヶ月評価 プレゼンテーション エンゼルケア 災害発生時の対応	34 名
第 10 回目研修	2/24	クリニカルラダーレベル I 受審説明 急変時対応 (ロールプレイ)	35 名
第 11 回目研修	3/17	1 年間の評価 看護観発表 メンバーシップ	35 名
		私の看護観～対象とのコミュニケーションを通し、寄り添う看護～ 西尾 七海 (3 階病棟)	
		私の看護観～患者の安全を守るために～ 真本 堯吉 (4 階病棟)	
		私の看護観～患者主体の看護を行うために必要なこと～	
		原園 奈苗 (4 階病棟)	

私の看護観～私が考える対話を大切にする看護～
増田 菜々子（4階病棟）
私の看護観～セルフケアと人間関係～
土井 玲美奈（4階病棟）
コミュニケーションを大切にした看護
當野 千夏（4階病棟）
私の看護観～患者さん一人ひとりと誠実に向き合うことについて～
西村 愛美（5階病棟）
私の看護観～入院生活をよりよくするために～
西尾 美典（5階病棟）
私の看護観～患者・家族に寄り添う看護～
文 美子（5階病棟）
私の看護観～患者、家族との信頼関係を大切にした看護～
春木 翔（6階病棟）
私の看護観～小児の苦痛緩和について～
福井 千晴（6階病棟）
看護観
奥山 麻依子（7階病棟）
看護観
岩橋 初音（7階病棟）
私の看護観
上野 比奈（7階病棟）
救急領域における看護～ありのままの存在として生きるということ～
山本 春花（救急病棟）
看護観～患者の立場にたって考える～
朝日 麻珠（7階病棟）
私の看護観～その人にあった個別性のある看護の実践～
吉村 朋子（8階病棟）
看護観
仁科 清（8階病棟）
患者1人1人に寄り添った看護
水野 杏樹（8階病棟）
苦痛を改善しその人がその人らしくいることができるように介入することができる
島田 悠瑳歩（8階病棟）
看護観
巻田 清佳（救急病棟）
看護観～私が大切にしたいこと～
香西 美優紀（救急病棟）
看護観
上島 佐織（救急病棟）
看護観～看護師になる前から大切にしていたこと～
城戸 麻里（救急病棟）
私の看護観
池尻 葉月（救急病棟）
私の看護観～その人らしい整容を支援すること～
田中 沙希（救急病棟）
私の看護観～終末期の患者・家族の看護～
松井 紗弓（ICU）

		看護観 ～自分の意思を伝えることが困難な患者とのコミュニケーション～ 竹田 知世 (ICU)	
		私の看護観 宇野 真里奈 (ICU)	
		私の看護観～誠実さと人間関係～ 塚越 美貴 (ICU)	
		私の看護観～患者のストレス緩和について～ 平川 くるみ (ICU)	
		私の看護観 柳沢 萌絵 (ICU)	
		私の看護観～個別性を考えた看護～ 孝行 紀香 (中央手術室)	
		患者の不安に寄り添う看護～安心・安楽に手術を受ける関わり～ 小江 蓮稀 (中央手術室)	
		患者の気持ちを傾聴し、共感する看護 谷 綾花 (中央手術室)	
		看護観～患者の不安を汲みとり安心感を与え、寄り添うこと～ 中村 愛 (中央手術室)	
実地指導者研修 実地指導者の任にある者			
第2回目準備研修	4/29 (午前)	学習理論、コーチング・ティーチング理論・方法 カウンセリングスキル・コミュニケーションスキル	12名
第1回目研修	6/10 (午前)	アサーティブコミュニケーション 新人のストレスとお互いの傾向に合わせた関わり方 3か月評価と今後の課題	10名
第2回目研修	9/9	新人が起こしやすいインシデントの傾向を学習し、支援方法を考える 看護技術指導演習 (静脈注射・留置針) 6ヶ月評価と今後の課題	9名
第3回目研修	2/3 (午前)	クリニカルラダーレベル I のレポート評価演習 1年間の評価	9名
実地指導者準備研修 次年度 (H 30 年度) に実地指導者の役割を担う予定で、実地指導者準備研修を受講していない者			
第1回目準備研修	3/24 (午前)	看護部教育目的、目標 新人看護職員研修ガイドライン 新人看護職員の理解	21名

研 修 会 名	開催日	内 容	参加者数
卒後2年目研修 卒後2年目およびそれに相当するもの			
第1回目研修	5/13	2年目の目標について	32名
第2回目研修	8/12	患者の権利について ケーススタディの取り組みについて	31名
第3回目研修	1/13	ケーススタディ発表と振り返り 2年目の評価と3年目の目標	28名
		多量咯血を経験した患者・家族への精神的支援 佐藤 かな (3階病棟)	
		危機の受容過程を考えた看護 ～人工肛門の造設が必要となった患者の看護過程を通して～ 堀口 智代 (3階病棟)	
		患者の気持ちに寄り添う看護 ～ADL低下により精神的苦痛を感じている患者に対する関わり～ 藤原 真美 (4階病棟)	
		患者、家族に寄り添う退院支援とは 村上 知花 (4階病棟)	
		元のADLを獲得できるのかという不安を抱いている患者への関わり 中小路 泰明 (4階病棟)	

患者・家族のニーズに合わせた退院支援・退院調整について ～施設退院から自宅退院になった事例～
松村 亜美（4階病棟）
退院に向けての離床意欲の変化
六郎木 祥平（4階病棟）
認知症により記憶障害を来している患者のストーマケア自立に向けた関わり
大和谷 亜耶（5階病棟）
悪性疾患が受容困難であった患者の看護 ～疾患の受容からストーマ管理の確立ができるまで～
大川 雅世（5階病棟）
患者の受容過程に沿った看護 ～癌によりストーマ造設となった患者との関わりを通して～
遠藤 沙希（6階病棟）
小児の不安や恐怖を軽減する看護
石坂 未樹（7階病棟）
心不全患者への個別性に合わせた看護 ～患者との関わりの難しさ、私ができること～
南 真生（7階病棟）
入退院を繰り返す慢性心不全患者の食事指導、体調管理指導について
上田 晶子（7階病棟）
禁煙に失敗した経験を持つ患者への指導 ～自己効力感を向上させる関わり～
西元 彩乃（7階病棟）
嚥下障害のある患者・家族への看護師の関わり～退院指導を通して～
今田 菜奈（8階病棟）
ターミナル期患者との関わりを通して学んだこと
奥村 菜穂（8階病棟）
安静を保てない認知症高齢者への関わり ～患者の変容に繋がった4つの看護介入～
阪田 愛美（8階病棟）
心不全患者に対する呼吸ケア～ NPPV 装着における排痰援助～
永井 友里恵（ICU）
侵襲的な処置を受ける患者のニーズを満たしストレスを軽減する看護
芝 理仁（ICU）
鎔頸による心肺停止蘇生後患者の家族への看護
谷口 実友希（ICU）
意識障害に陥った患者の個別性を踏まえた疼痛管理と苦痛緩和を考えた看護
落合 梨衣（ICU）
患者の受容過程に合わせた看護
成松 智世（救急病棟）
終末期患者と家族の思いに寄り添う看護
森脇 武士（救急病棟）
自傷行為を起こした患者の家族への看護 ～看護を行う際のストレス軽減に向けて～
山本 春佳（救急病棟）
ボディイメージの変容がある患者との関わり方 ～フィソクワの危機理論を用いて～
大久保 春花（救急病棟）
挿管管理中の患者とのコミュニケーションの取り方
大出 歩佳（救急病棟）

		患者と家族が望む最期を過ごすために看護師に出来ること	
		北山 彩（救急病棟）	
		認知機能低下の患者が安心して手術を受けるための術前からの看護	
		宇都宮 早苗（中央手術室）	
卒後3年目研修 卒後3年目およびそれに相当するもの			
	7/8	キャリアについて 後輩指導	23名

リーダー研修Ⅰ	実務経験2年目以上でリーダーシップの基礎を学んでいない者		
	12/9	リーダーシップ概論	24名

リーダー研修Ⅱ	実務経験3年目以上でリーダー研修Ⅰまたはそれに相当する研修を受講した者の中でリーダー的役割を経験した者		
	10/14	葛藤場面における自分の傾向 ～人の心理とアサーティブコミュニケーションについて～ リーダーシップについて	18名

リーダー研修Ⅲ	実務経験5年目以上でリーダー研修Ⅱまたはそれに相当する研修を受講した者		
	11/11	看護の動向 臨床心理士から見た不安を抱えた患者・家族の心理 社会人基礎力 患者支援センターの活動内容 医療費、医療保険のしくみ データから見る退院支援 中堅看護師としてチーム医療を行う上で必要なリーダーシップを考える	10名

院内急変時シミュレーション	卒後2年目およびリーダー研修Ⅱの対象者全員		
	2/11	院内で想定される急変時対応の体験学習	41名

2. 認定看護師による教育プログラム

目的：院内外の看護の質の向上を図るため

目標：①院内の看護師が学習の機会を得る

②院内の看護師の学習意欲が向上する

③学習会参加者のスキルアップが図れる

④院外参加者の自己参加目標を達成する

コース	テーマ	開催日	参 加 人 数																計
			8階	7階	6階	5階	4階	3階	EW	ICU	OP	外来	放・ 内視鏡	看護 部室	訪問	他	院外		
がん化学療法看護	骨髄抑制に対する看護	5/8	6	0	1	1	0	5	0	0	0	7	3	0	0	1	5	29	
がん化学療法看護	嘔気・嘔吐に対する看護	6/7	9	0	0	1	0	2	0	0	0	2	1	0	0	0	12	27	
がん化学療法看護	皮膚障害に対する看護	7/10	3	1	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	6	14	
がん化学療法看護	末梢神経障害に対する看護	9/19	4	1	2	0	0	4	0	0	0	6	0	0	1	0	6	24	
がん化学療法看護	口内炎・粘膜障害に対する看護	11/22	2	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	4	9	
がん化学療法看護	安全な投与管理と意思決定支援	2/7	2	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	6	12	
がん性疼痛看護	内臓痛のケアと薬物療法	5/24	6	1	0	3	2	3	1	0	0	4	0	0	3	0	1	24	
がん性疼痛看護	体性痛・骨転移痛のケアと薬物療法	8/23	7	0	1	3	1	2	0	0	0	3	0	0	1	0	2	20	
がん性疼痛看護	看取りに向けた苦痛症状の看護ケア	1/24	3	0	0	2	0	2	0	0	0	1	0	0	4	0	2	14	
感染管理	感染対策の基本は培養から !! 検体採取～培養結果の見方 ★参加者特典付	5/17	3	1	0	0	0	1	0	1	3	0	1	0	0	0	12	22	
感染管理	手術部感染対策について	6/20	0	0	0	0	3	2	1	1	14	0	0	0	0	1	8	30	
感染管理	感染対策が必要な耐性菌 ～千里病院で検出される耐性菌 から考える～	10/27	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	0	0	3	8	
感染管理	カテーテル関連尿路感染対策	8/7	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	6	
感染管理	カテーテル関連血流感染対策	9/15	5	1	1	0	1	3	1	1	3	2	0	0	0	0	1	19	
感染管理	インフルエンザについて	10/20	1	0	1	0	0	2	0	0	1	2	2	0	0	0	0	9	
感染管理	クロストリジウム・ディフィシル感染症 CDI	11/15	1	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	6	10	
緩和ケア	当院のエンゼルケアの実践	10/17	3	4	0	0	1	2	0	0	0	0	0	1	1	0	0	12	
救急看護	見逃すな！急変前の徴候	5/31	4	0	0	0	9	0	2	3	3	1	2	0	0	0	22	46	
救急看護	心電図なんて怖くない！ (心電図基礎編)	6/28	3	0	0	1	5	0	2	4	5	2	0	0	0	0	13	35	
救急看護	もっと心電図を読んでみよう！ (心電図不整脈編)	8/30	2	0	0	3	9	2	0	0	0	1	1	0	0	0	15	33	
救急看護	発熱時はいつもクーリング？	9/27	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	1	0	0	4	9	
救急看護	点滴した水はどこへ行く？	10/25	6	0	0	0	0	0	1	2	0	2	1	1	0	0	4	17	
救急看護	循環に強くなろう！（基礎編）	11/29	1	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3	5	12	
救急看護	もっと循環に強くなろう！ (応用編)	1/31	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	10	12	
救急看護	レントゲン・CT 画像を一緒に 見ませんか？(頭部・胸部・腹部)	2/28	2	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	1	0	0	5	12	
集中ケア	生体侵襲ってどういうこと？ (基礎編)	6/6	0	2	0	0	5	0	5	4	2	0	0	0	0	0	4	22	
集中ケア	ポジショニングで呼吸ケア !!	7/4	3	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3	10	
集中ケア	もう怖くない !! 人工呼吸器のアラーム	8/1	2	1	1	0	2	0	4	4	2	0	0	0	0	1	6	23	
集中ケア	生体侵襲のエキスパートになる !! (応用編)	9/5	5	1	0	1	0	1	7	1	1	1	0	0	0	0	0	18	
集中ケア	血液ガスデータを読んでみよう !!	10/3	4	3	0	0	0	4	1	0	1	1	1	1	0	0	2	18	
集中ケア	ドレーン管理に強くなる !!	11/7	4	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	9	
集中ケア	苦手克服 !! 輸血療法を学ぼう	12/5	1	0	0	0	0	3	1	0	5	0	0	0	0	0	2	12	
集中ケア	人工呼吸器離脱を目指してみよう !! ～3学会合同プロトコルから～	2/6	1	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	7	11	
集中ケア	クリティカルケア領域における エンドオブライフケアを考えよう！	3/6	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	8	

コース	テーマ	開催日	参 加 人 数															計
			8階	7階	6階	5階	4階	3階	EW	ICU	OP	外来	放・内視鏡	看護部室	訪問	他	院外	
摂食・嚥下障害看護	【初級】摂食嚥下障害看護の基礎 ～咀嚼嚥下って何？～	5/19	4	0	1	0	6	0	3	0	0	1	0	0	0	0	2	17
摂食・嚥下障害看護	【初級】摂食嚥下障害看護の評価 ～事例検討含む～	8/16	1	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	4
摂食・嚥下障害看護	【中級】摂食嚥下障害の修飾因子	10/18	2	1	1	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	1	9
摂食・嚥下障害看護	【中級】摂食嚥下障害のある患者 の退院支援 ～事例検討含む～	12/20	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	3
摂食・嚥下障害看護	【上級】摂食嚥下障害のリスクア セスメントと倫理 ～事例検討含む～	2/21	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
乳がん看護	乳がん看護① 検査から診断を受ける患者の心理	6/12	0	0	0	0	0	6	0	0	0	7	0	0	0	0	7	20
乳がん看護	乳がん看護② 手術療法の適応から看護まで	8/2	0	0	0	0	0	0	0	0	4	5	0	0	0	0	7	16
乳がん看護	乳がんの抗がん剤治療と看護 (がん化学療法看護認定看護師 と協働)	10/2	0	0	0	0	0	6	0	0	0	3	2	1	0	0	2	14
乳がん看護	乳がん看護③ 全身療法の治療が決定するまで	11/13	0	0	0	0	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0	1	5
乳がん看護	リンパ浮腫 / 看護とセルフケア 支援	3/12	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4	0	0	0	0	1	6
皮膚・排泄ケア	創傷治癒① このキズは経過良好？	6/5	3	0	1	0	4	0	1	1	0	1	0	0	1	1	8	21
皮膚・排泄ケア	創傷治癒① このキズは経過良好？	7/3	1	0	0	1	3	0	1	1	2	0	0	0	0	0	5	14
皮膚・排泄ケア	創傷治癒② ドレッシング材・薬剤の選択方法	8/18	2	0	0	0	0	0	2	0	3	1	1	0	0	0	6	15
皮膚・排泄ケア	創傷治癒② ドレッシング材・薬剤の選択方法	9/4	0	1	1	0	0	1	2	0	2	0	0	1	2	0	2	12
皮膚・排泄ケア	皮膚が脆弱な人のスキンケア 予防的ケアと治療的ケア	11/17	0	1	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	3	0	3	12
皮膚・排泄ケア	知っているようで知らない失禁 ケア 失禁ケア用品の使い方	2/5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
皮膚・排泄ケア	褥瘡はこんな患者に発生する !! 褥瘡発生しやすい患者さんの予 防ケア	3/5	1	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	1	2	8
慢性呼吸器疾患看護	呼吸器フィジカルアセスメント ～聴診編～	5/16	4	2	2	1	5	0	1	4	1	1	0	0	0	0	10	31
慢性呼吸器疾患看護	呼吸リハビリテーションって何？ ～運動療法編～	7/18	1	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	3	0	3	11
慢性呼吸器疾患看護	NPPV 管理（基礎編）	9/11	6	6	1	1	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	9	27
慢性呼吸器疾患看護	在宅酸素療法・在宅人工呼吸療 法の退院支援	11/21	6	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	11
慢性呼吸器疾患看護	人工呼吸器の考え方	1/16	9	5	1	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	1	3	22
慢性呼吸器疾患看護	知っているようで知らない吸入 療法	3/20	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
認知症看護	認知症の4大疾患とその看護	7/21	0	0	1	2	0	2	3	0	2	0	1	0	0	0	0	11
認知症看護	認知症になるってどういうこと？	12/15	0	2	1	0	2	0	1	0	0	2	0	0	0	1	0	9
認知症看護	認知症患者と環境	2/16	0	0	0	0	9	0	1	0	0	1	2	0	0	0	4	17
			142	40	29	25	62	57	54	31	59	67	19	9	20	9	259	882

3. 看護助手会研修

目標：医療チームの一員として、安全かつ安心できる看護助手業務が提供できる

- ・看護補助業務を遂行するための知識・技術を習得する
- ・看護チームの一員として共働・連携ができる

	年月日	テ ー マ	参加人数
第1回	H29.5.16	①「医療制度の概要および病院と組織の理解」 ②「医療チームおよび看護チームの一員としての看護補助者業務の理解」 ③「守秘義務、個人情報の保護」	38
第2回	H29.7.18	①「患者、家族の関わりかた 接遇・マナー」 ②「看護補助者の倫理」 ③「危険予知トレーニング」	36
第4回	H29.9.19	①「環境整備」 ②「清潔のお世話」 ③「排泄のお世話」 ④「洗面のお世話」	36
第5回	H29.11.21	①「移動のお世話」 ②「移動介助の基礎 / 講義および演習」	33
第6回	H30.1.16	①「感染予防～手洗い、感染予防策～」 ②「手洗い演習 / 手洗いチェッカー」	32
第7回	H30.3.20	①「おむつの選び方と正しい使い方 / デモストレーション」 ②「医療安全 / 事故防止の基本的な心構え、事故発生時の対応～」 ③「事故防止に向けた事例検討」	33

4. 看護部クラーク会研修

目標：クラークとしてのスキルアップに努める

	年月日	内 容	参加人数
第1回	H29.4.18	「医療制度の概要及び病院の機能と組織の理解」	6
第2回	H29.6.20	「守秘義務、個人情報の保護」	6
第3回	H29.8.15	「ストレスマネジメント」	6
第4回	H29.10.17	「医療保険制度・診療報酬について」 文書交付について	6
第5回	H29.12.19	「患者家族への関わり方 接遇・マナー」 「済生会の使命」伝達講習 クラーク業務マニュアル見直し	6
第6回	H30.2.20	「看護補助者のための倫理」 入院案内、診断書申請について	6
職員全員 参加の研修	H29.11.17 11.20 11.22	インフルエンザの感染対策	6
	H30.3.2	患者中心の医療のこころと患者参加型医療チームのかたち	6

XI. 委員会・医療チーム活動

1. 委員会活動

薬事委員会

1. 目的

当院における医薬品の採用、使用及び管理について審議し、適正かつ効率的な運用を図ることを目的とする。

2. 平成 29 年度の活動

1) 採用薬の検討

	5月	7月	9月	11月	1月	3月
院内採用（件）	3	6	2	1	9	4
院外採用（件）	2	0	2	3	7	2
院内→院外採用への変更（件）	1	1	0	0	2	0
採用抹消（件）	2	2	0	3	6	3

2) 定数配置薬の検討

	5月	7月	9月	11月	1月	3月
新規定数配置（品目数／対象部署数）	12／3	3／3	2／2	5／4	6／6	10／2
配置定数変更（品目数／対象部署数）	23／4	25／6	14／5	15／6	8／5	12／2

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：6回（奇数月 第1火曜日 6回）

開催時間：16：30～17：30

平均参加率：約80％

4. 研修会・勉強会の開催

なし

1. 目的

当院における入院食事療養、栄養食事指導等について検討し、内容・質・運営の効率化及び向上を図ることを目的とする。

2. 平成 29 年度の活動

毎月 1 回委員会を開催し、食事・栄養管理に関する報告や検討を行った。

○毎月の報告事項

- ・濃厚流動食使用状況
- ・栄養管理計画書作成率
- ・行事食実施予定
- ・集団栄養指導実施状況、開催予定

○平成 29 年度の主な検討事項

- ・栄養科業務マニュアル改訂について
- ・院内約束食事箋規約の変更について
- ・入院時栄養スクリーニング、栄養管理計画書の改善について
- ・ヨーグルト、ドリンクタイプヨーグルトの商品変更について
- ・患者食アンケートを実施し集計結果をもとに改善点の検討
- ・未使用濃厚流動食品返却、廃棄率低下の取り組み

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：12 回（定められた開催数：毎月 第 1 木曜日 12 回）

開催時間：16：00～17：00

平均参加率：90%

4. 研修会・勉強会の開催

研修会・勉強会の開催なし

手術室運営委員会

1. 目的

当院における手術室にかかる事項について審議し、円滑且つ適切な手術室運営及び手術室業務を図ることを目的とする。

2. 平成 29 年度の活動

- ・月ごとの手術件数、手術稼働率の報告
- ・麻酔科からの連絡、報告の共有
- ・WHO『患者安全チェックリスト』に関する伝達、周知
- ・麻酔科外来に関する報告、周知
- ・機器整備に関する調整、検討
- ・手術室フィルムレス化に向けた検討
- ・インシデント、アクシデント事例に関する情報共有、対策

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：12回（定められた開催数：毎月 第2火曜日 12回）

開催時間：17：30～18：30

平均参加率：85.9%

4. 研修会・勉強会の開催

なし

内視鏡運営委員会

1. 目的

当院における内視鏡室の運営に関して検討し、適切な運営を図ることを目的とする。

2. 平成 29 年度の活動

- 1) 機器自体の耐用度が下がり故障が起こりやすくなっている中、修理総額 平成28年度約680万円、平成29年度約340万円と取り扱いへの注意喚起の効果により減額となった。
- 2) 2泊3日EMRは、経費がかかり収益減となっていることが分かり、WGを立ち上げ改善に向けた検討を行った。結果、関係各部署の調整の上「9：30入院し、洗浄剤服用後EMR」を導入、クリニカルパスも同時に開始する事が出来た。

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：7回（うち臨時1回あり）（定められた開催数：偶数月 第3月曜日 6回）

開催時間：16：45～17：00

平均参加率：約68%

4. 研修会・勉強会の開催

なし

放射線運営委員会

1. 目的

当院における放射線部の運営に関して検討し、適切な運営を図ることを目的として設置する。

2. 平成 29 年度の活動

- ・放射線機器整備に関する検討
- ・アンギオ室 2 の装置更新における検査体制の調整
- ・ボースデル内用液 10 (MRI 用経口消化管造影剤) の運用の検討
- ・歯科用インプラント (磁性アタッチメント) を装着している患者さんにおける MRI 検査の運用の検討
- ・病室撮影、オペ室撮影のオーダー見直し
- ・フィルムレス推進
- ・予約検査の待ち日数調査および予約枠の調整
- ・モダリティ別検査件数報告

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：6 回 (定められた開催数：偶数月 第 2 水曜日 6 回)

開催時間：17:00～17:30

平均参加率：68%

4. 研修会・勉強会の開催

なし

広報ホームページ委員会

1. 目的

当院の広報活動について協議・評価し、計画的かつ適切な広報活動を行うことにより、地域医療に貢献することを目的としております。

2. 平成 29 年度の活動

- ・看護部ホームページの更新
- ・各診療科実績ページの更新

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：6 回 (定められた開催数：隔月 第 2 金曜日 6 回)

開催時間：16:00～17:00

平均参加率：60%

4. 研修会・勉強会の開催

なし

1. 目的

病院内の情報システムの全体構成ほかの事項を検討し、適正な情報システムの構築と診療情報などの院内情報の共有・活用を図ることを目的とする。

2. 平成 29 年度の活動

- 1) 4 月 17 日 (月) 情報システムに於ける課題を共有
- 2) 6 月 19 日 (月) 地域医療連携システム (ICT) について
ダウン対策マニュアルについて
- 3) 8 月 21 日 (月) 社会福祉法の会計監査について
サーバ更新計画について
- 4) 10 月 23 日 (月) 会計監査について
電子カルテシステム更新について
- 5) 12 月 18 日 (月) NEC 製電子カルテのデモ
- 6) 2 月 26 日 (月) 電子カルテ更新について

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：6 回 (偶数月 第 3 月曜日 6 回)
開催時間：17:00～18:00

4. 研修会・勉強会の開催

- 3 月 10 日 ソフトウェア・コンプライアンス研修
3 月 10 日 電子カルテの不正使用禁止

診療材料使用検討委員会

1. 目的

本委員会は、診療材料の標準化を図るため、使用・購入等に関する事項について検討し、標準化を軸とした材料費抑制による経営効率の適正化を図る事を目的とする。

2. 平成 29 年度の活動

4 月①診療材料等採用申請について（新規採用：0 項目、変更・追加：2 項目）検討実施。

6 月①診療材料等採用申請について（新規採用：1 項目、変更・追加：1 項目）検討実施。

8 月①診療材料等採用申請について（新規採用：1 項目、変更・追加：3 項目）検討実施。

10 月①診療材料等採用申請について（新規採用：1 項目、変更・追加：1 項目）検討実施。

12 月①診療材料等採用申請について（新規採用：4 項目、変更・追加：3 項目）検討実施。

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：偶数月の第 2 木曜日

開催時間：16：00～17：00

平均参加率：60%

4. 研修会・勉強会の開催

なし

機器整備委員会

1. 目的

当院における医療用器械備品等について、購入の標準化の検討および投資・購入の必要性や費用対効果等の投資効果に関する事項について検討し、安全で良質な心のこもった医療に寄与することを目的とする。

2. 平成 29 年度の活動

各委員から申請物品の必要性及び優先順位の説明が行われた。

全ての要望を予算化すると 20 億円を超えるものになり、その全てを予算化することは不可能であることを確認。

内容を考慮のうえ、修理不能案件などを優先的に予算措置を行っていくこととなることを理解して欲しいことの報告が事務局からなされた。

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：1 回（定められた開催数：適宜）

開催時間：17：00～18：00

平均参加率：80%

4. 研修会・勉強会の開催

なし

保険診療委員会

1. 目的

当院における保険診療に関する事項を審議し、健康保険法及び保険医療費担当規則に基づく適正な保険診療の運営を図ることを目的とする。

2. 平成 29 年度の活動

2017 年 4 月 25 日（火） 定例会議
2017 年 7 月 25 日（火） 定例会議
2017 年 11 月 24 日（金） 研修会『平成 30 年度 診療報酬改定』
2018 年 1 月 23 日（火） 定例会議

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：4 回（定められた開催数：3 ヶ月毎 1 回）
開催時間：17：00～17：30
平均参加率：63.8%

4. 研修会・勉強会の開催

2017 年 11 月 24 日 全職員対象『平成 30 年度 診療報酬改定』

コーディング委員会

1. 目的

当院における適切なコーディング（適切な診断を含めた診断群分類の決定）を行う体制を確保することを目的とする。

2. 平成 29 年度の活動

主に H30. 4 から DPC 制度にて変更される ICD-10 の当院への影響と対応、医療機関別係数に影響する詳細不明・部位不明コードの使用割合について議論した。2017 年度の当該割合は基準内であった。また、H30. 4 から変更される DPC 導入の影響評価に係る調査の項目の運用、医療機関別係数に影響する末コード化傷病名の使用割合について議論した。

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：4 回（定められた開催数：年 4 回）
開催時間：17：50～18：00
平均参加率：71.7%

4. 研修会・勉強会の開催

特記なし

病床利用委員会

1. 目的

本委員会は、病床の運用に関する事項を審議し、病床の有効活用を図ることを目的とする。

2. 平成 29 年度の活動

毎月の病床稼働率、平均在院日数などについてデータ分析を行った。

月曜 OP 枠を活用しやすくするため「日曜予約入院」について検討。半年間仮運用を行った上で、月 3 回の日曜予約入院で運用開始とした。

「入院のご案内」改定にともない内容の見直しを行った。

「祝日（ハッピーマンデー以外）の予約入院」の運用に泌尿器科を追加するため、運用の見直しを行った。

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：8 回（定められた開催数：毎月 第 3 水曜日 8 回）

開催時間：17：30～18：00

平均参加率：70.4%

4. 研修会・勉強会の開催

なし

医療ガス安全管理委員会

1. 目的

当院の医療ガスに関する知識の普及及び啓発を行い、また、設備の新增設工事、部分改造、修繕等の際の臨床各部門への周知徹底及び使用に先立つ厳正な試験、検査等、医療ガス設備の安全運用を目的とする。

2. 平成 29 年度の活動

2017 年度の定期点検結果報告、臨時対応結果の検討及び、2018 年度の設備整備計画の検討を行い、設備の適正な維持並びに安全な運用を審議。

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：1 回

開催時間：16：30～17：00

平均参加率：86%

4. 研修会・勉強会の開催

なし

個人情報保護委員会

1. 目的

当院の保有する個人情報の管理体制を構築し、保護対策を推進管理することを目的として、院長直属の委員会として活動しております。

2. 平成 29 年度の活動

年に 1 回委員会を開催し個人情報保護監査結果・個人情報に関するインシデントの報告及び e-ラーニングを利用した個人情報保護の院内研修を開催しております。

当院が保有するすべての個人情報を特定し、特定した個人情報に関する危機（個人情報への不正アクセス、個人情報の紛失、破壊、改ざん及び漏えいなど）を調査・分析するための手順・方法を確立し、適切な保護措置を策定し維持してまいります。

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：1 回（定められた開催数：年 1 回）

開催時間：30 分

平均参加率：60%

4. 研修会・勉強会の開催

12 月 e-ラーニングによる個人情報保護研修

棚卸実施委員会

1. 目的

当院における棚卸資産について、実地棚卸が確実かつ効率的に実施されることを目的とする。

2. 平成 29 年度の活動

- ・棚卸実施委員会の設置要綱を制定し、委員会を開始
- ・委員会にて、現状の課題・実地棚卸計画説明、法定監査受診報告等をおこなった
- ・棚卸の実施（9 月、3 月）
- ・棚卸実施前に委員会を開催

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：年 1 回

開催時間：15：00～15：30

平均参加率：91%

4. 研修会・勉強会の開催

なし

1. 目的

本委員会は、「医療法施行規則 新省令第 11 条第 2 号」、「医療安全管理体制の整備等に関する指針」（済生会本部）、及び「医療安全管理指針」（大阪府済生会千里病院）に則り、大阪府済生会千里病院における医療安全管理体制の確立と、安全かつ適切な医療を提供するための検討を行い、医療安全確保を図ることを目的とする。

2. 平成 29 年度の活動

- 4 月：報告事項のみ、検討議題なし
- 5 月：患者の無断離棟・離院時の対応マニュアル作成ワーキンググループ発足
- 6 月：報告事項のみ、検討議題なし
- 7 月：報告事項のみ、検討議題なし
- 8 月：報告事項のみ、検討議題なし
- 9 月：インプラント情報入力
- 10 月：主治医不在時の連絡体制、医療安全推進週間（案）、第 2 回医療安全管理対策に関する研修会開催（案）、医療安全管理マニュアル [安全確保の手順] 改定（案）、医療安全管理マニュアル ハイリスク領域 [注射剤の血管外漏出への対応] 抗がん剤に関する項目及び化学療法マニュアルへの移行
- 11 月：医療安全管理指針の改定（案）、医療安全管理規程の改定（案）、医療安全管理マニュアル 安全確保の手順の改定（案）、CVC 認定制度（案）
- 12 月：医療安全管理マニュアル [安全確保の手順] 改定（案）、CVC 認定制度（案）
- 1 月：採血容器変更、医薬品と医療機器の相互作用情報に関する実態調査研究への参加、医療安全管理マニュアル安全確保の手順 注射薬配合可否一覧表改訂、内服薬の経管投与時の運用について
- 2 月：アクシデントレベル 5 事例の公開方法、MRM 部会員のラウンド実施、医療安全管理マニュアル安全確保の手順 改定（案）、内服薬経管投与時の指示（診療マニュアル記載内容案）、医薬品の安全使用のための業務に関する手順 改定（案）、モニター連携（CAP システム）
- 3 月：MRM 部会員のラウンド実施（案）、医療安全管理マニュアル [転倒転落防止] 改定（案）、患者の無断離棟・離院時の対応マニュアル初版（案）、「不眠時・不穏時指示」標準化の提案

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：12 回（定められた開催数：毎月 第 3 金曜* 12 回）* 1 月～ 第 4 水曜日
開催時間：16：00～17：00
平均参加率：84.9%

4. 研修会・勉強会の開催

- 6～7 月：全職員対象 平成 29 年度第 1 回医療安全管理対策に関する研修会（e-Learning）
- 9 月：看護職員対象 看護部麻薬管理に関する e-Learning
- 3 月：全職員対象 平成 29 年度第 2 回医療安全管理対策に関する研修会（講演会）

1. 目的

当院における医療安全管理に関する全般的な問題点を把握し、その対策を講じることを目的する。主な所管は以下のとおりである。

- ・医療安全ラウンドによる院内の医療安全管理に関する問題点の把握
- ・インシデント報告に基づいた情報収集・分析・改善策の立案
- ・医療安全管理のためのマニュアルの策定と見直し

2. 平成 29 年度の活動

- 4 月：患者誤認事例検討
- 5 月：併用禁止薬剤の投与方法に関する事例検討
- 6 月：インプラント未確認画像検査実施事例
- 7 月：医療安全ラウンドの点検項目の検討
- 8 月：医療安全ラウンドの点検項目の決定
- 9 月：医療安全ラウンドの実施
- 10 月：医療安全推進週間（案）について
- 11 月：MRI 左右取り違いオーダー事例
- 12 月：事例検討会
- 1 月：患者誤認防止対策について意見交換
- 2 月：患者誤認防止対策について
- 3 月：患者誤認防止対策ラウンドについて

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：11 回（定められた開催数：毎月 第 3 月曜日 11 回）

開催時間：16：00～17：00

平均参加率：88.1%

4. 研修会・勉強会の開催

なし

1. 目的

病院感染の予防・拡大防止および感染発生時の問題の把握、対応策を検討する。

2. 平成 29 年度の活動

毎月、①感染症報告、②手指衛生サーベイランス、③針刺し・切創 / 血液・体液曝露、④抗菌薬ラウンド、⑤ ICT メンバー会議報告、⑥感染管理室会議報告、について定例で報告を行い、以下について検討を行った（委員会議事録より抜粋）。

5 月：手指衛生キャンペーン腕章作成について

臨時：VRE スクリーニングについて

7 月：吹田保健所管内の病院におけるカルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）、バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）の疫学調査の参加について

9 月：シングルユース製品の取り扱いについて

感染対策マニュアル「針刺し / 血液・体液曝露時の対応」一部改訂

10 月：委託清掃物品の管理について

インフルエンザワクチン接種について

11 月：感染対策マニュアル「血管内留置カテーテル関連血流感染」一部改訂

1 月：抗菌薬の採用、採用中止に関する取り決め

2 月：感染対策マニュアル「針刺し / 血液・体液曝露時の対応」一部改訂

3 月：平成 28 年度 吹田管内感染防止対策加算 1 に係る相互評価 結果報告

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：13 回（定められた開催数：毎月 第 2 月曜日 12 回）

※デスクネットにて 6/28 臨時で開催した。

開催時間：16:00～17:00

平均参加率：81%

4. 研修会・勉強会の開催

上半期

第 1 回感染防止研修会（全職員）受講率 100%

テーマ：「標準予防策」e-learning

下半期

第 2 回感染防止研修会（全職員）受講率 99.4%

テーマ：「インフルエンザの感染対策」

講師：感染管理室 橋本渚

脳死に関する委員会

1. 目的

脳死下での臓器摘出の実施に係る手順書の作成、訓練及び実施についての承認の手続きを行い、脳死に関する諸問題を検討すること。

2. 平成 29 年度の活動

7月 委員会開催

8月 脳死下臓器提供事例発生

2月 職員意識調査実施

4～7月 死亡患者調査実施

4～3月 JOT が開催する研修会等への職員の派遣

第 31 回日本小児救急医学会学術集会ハンズオンセミナー

第 45 回日本救急医学会総会・学術集会ハンズオンセミナー

1 日コース（日本光電フェニックスアカデミー）12/3

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：1 回（定められた開催数：適宜）

開催時間：15：30～16：00

平均参加率：90%

4. 研修会・勉強会の開催

なし

インフォームド・コンセント委員会

1. 目的

本委員会は、患者の権利、患者と医療者とのパートナーシップの強化を目的とし、患者との間の相互理解に即した信頼される診療を確保する為、「説明と同意」に関する事項を検討し患者の権利と尊厳の尊重を期する。

2. 平成 29 年度の活動

- ・説明と同意書の新規登録 4 件、改訂 5 件を行った。
- ・説明と同意書の改訂を行う際は回覧のみ決議を行うよう変更した。
- ・IC 指針に運用フローを追加し全面改定を行った。
- ・IC 記録テンプレートの利用と新規同意書及び既存の同意書の改訂を促すインフォメーションを行った。

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：5 回（定められた開催数：偶数月 第 1 火曜日 6 回）

開催時間：16：30～17：30

平均参加率：70%

4. 研修会・勉強会の開催

研修会・勉強会の開催なし

倫理委員会

1. 目的

当院で問題となる、職業倫理、臨床における倫理、臨床研究に関する倫理について審議し、患者の権利の尊重、擁護を図ることを目的とする。

2. 平成 29 年度の活動

院内から提出された臨床研究の申請に対し、事前審議 10 回、本審議 4 回計 15 回開催。

併せて、倫理的課題に関する審議、新規治験状況報告などを行った。

また、脳死下での臓器移植について、臨時の倫理委員会を開催した。

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：本審議 4 回（隔月 第 4 月曜日）

事前審議 10 回（毎月 第 4 月曜日）

開催時間：17：30～18：30

平均参加率：事前審議 85% 本審議 78%

4. 研修会・勉強会の開催

2 月 8 日 全職員対象 DNAR と終末期医療における倫理的問題点 開催

3 月 15 日 全職員対象 臨床研究と個人情報の保護 開催

病歴委員会

1. 目的

病院内における診療記録の作成及び管理について審議し、全ての診療活動の適切な記載、保存により情報の円滑な活用及び診療の質の向上に寄与することを目的とする。

2. 平成 29 年度の活動

奇数月の第 4 火曜日に委員会を開催し、電子カルテ掲載の新規文書の検討承認、サマリの作成率の向上への働きかけ、診療録監査項目の検討や監査結果のフィードバックを行っている。

今年度は診療録監査で不適切と判断した医師に是正勧告を行った。

また、診療録監査の結果を公表することになり、千里ステーションに監査結果を掲載した。

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：6 回（定められた開催数：奇数月 第 4 火曜日 6 回）

開催時間：17：00～17：30

平均参加率：76%

4. 研修会・勉強会の開催

開催なし

クリニカルパス推進委員会

1. 目的

クリニカルパスの作成、評価及び円滑な運用方法について審議し、医療の質と患者満足向上を図ること。

2. 平成 29 年度の活動

今年度は、34 件の新規クリニカルパスの申請があり、うち 17 件のパスを承認した。140 件のクリニカルパスの修正を行った。

院内クリニカルパス大会を 3 回開催し、6 演題を発表した。

第 18 回日本クリニカルパス学会学術集会で、看護部クリニカルパス委員会と共同して 10 演題の発表を行った。

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：12 回（定められた開催数：毎月 第 2 木曜日 12 回）

開催時間：17：30～18：30

平均参加率：52.9%

4. 研修会・勉強会の開催

2017 年 8 月 17 日 第 11 回クリニカルパス大会

2017 年 11 月 16 日 第 12 回クリニカルパス大会

2018 年 2 月 15 日 第 13 回クリニカルパス大会

臨床検査適正化委員会

1. 目的

当院における臨床検査の管理、運営上の適正化を図るとともに重要事項を審議し、当院の発展に寄与することを目的とする。

2. 平成 29 年度の活動

6月

- ① 外注検査の新規項目について（カルプロテクチン）
- ② 28 年度日臨技臨床検査制度管理調査結果について
- ③ 日本医師会臨床検査制度管理調査結果について

12月

- ① 29 年度日臨技臨床検査制度管理調査結果について

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：2回（定められた開催数：6ヶ月に1回以上および必要時）

開催時間：17：00～18：00

平均参加率：75%

4. 研修会・勉強会の開催

特になし

輸血療法委員会

1. 目的

輸血療法の安全性確保と適正化を図ること。

2. 平成 29 年度の活動

奇数月第4月曜に委員会（終了後監査）を実施

委員会では検査から毎月の製剤使用数・廃棄数を報告、廃棄数が増加している場合はその原因を検討する。医事課からは、減点対象の報告があり、これについても減点要因を検討し必要があれば再請求の要請を行なう。輸血副作用報告について内容を検討し、必要に応じて血液センターへの調査依頼を行なう。また最近アルブミン製剤の使用量が増加傾向にある為、不要な使用について喚起を行なう。

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：6回（定められた開催数：奇数月 第4月曜日 6回）

開催時間：17：00～18：00

平均参加率：65.3%

4. 研修会・勉強会の開催

なし

1. 目的

当院における患者サービスの向上施策に関することを検討し、患者サービス向上のための具体的施策を立案する。

2. 平成 29 年度の活動

- * 投書、窓口、電話、メール等より、患者さんの声（苦情、感謝、要望）について、内容を検討しその回答や改善策について審議している。改善策の進捗状況の確認や「苦情減らし隊からのお知らせ」で院内スタッフへの啓蒙活動も行っている。
- * 今年度の接遇研修は昨今の患者の一方的な意見の対応に疲弊している職員のために「アンガーマネジメント」を開催し怒りのコントロール方法を学ぶ機会を提供した。
- * 七夕のかざりつけや短冊の整理、患者満足度調査の実施・結果検討、またクリスマスコンサートの開催も患者サービスの観点から実施した。

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：11 回（定められた開催数：毎月 第 3 金曜日→第 1 金曜日へ変更 1 回）

開催時間：16：00～15：00

平均参加率：71.2%

4. 研修会・勉強会の開催

10 月 17 日

接遇研修会（アンガーマネジメント：やってはいけない叱り方）開催（全職員対象だが時間外該当なし）

10 月

患者満足度調査の実施（入院 1 日～ 31 日、外来 16 日）

12 月 9 日

クリスマスコンサート実施（日本舞踊・フラダンス・ゴスペル）

1. 目的

当院におけるがん化学療法の治療内容の妥当性を評価し、レジメンの承認及び管理について審議し、適正かつ効率的な運用を図ることを目的とする。

2. 平成 29 年度の活動

1) 採用薬の検討

各科より申請のあった以下のレジメンについて審査を行った。

審査月	申 請 科	対 象 疾 患	レジメン名称
4 月	呼吸器内科	非小細胞肺癌	Bev + ERL 療法 DTX + RAM 療法
5 月	申請レジメンなし		
6 月	泌尿器科	陰茎がん	TIP 療法
	外科	結腸・直腸がん	UFT/LV + Bev 療法
7 月	申請レジメンなし		
10 月	外科	胃がん	NIVO 療法
11 月	呼吸器・免疫内科	免疫疾患	エンドキサンパルス療法
1 月	申請レジメンなし		
3 月	申請レジメンなし		

2) その他検討事項

5 月 レジメンの管理方法など

7 月 GEM 投与時間に関するインシデントについて

2 月 泌尿器科領域における小細胞癌に対する化学療法について

3. 開催状況・平均参加率

開 催 回 数：奇数月 第 2 火曜日（必要に応じ 偶数月 第 2 火曜日） 6 回

開 催 時 間：17：30～18：30

平均参加率：約 70%

4. 研修会・勉強会の開催

なし

化学療法運営委員会

1. 目的

化学療法に係る事項について審議し、化学療法の円滑な運営を図るとともに大阪府がん診療拠点としての機能を充実することを目的とする。

2. 平成 29 年度の活動

外来治療室で安全に対応するため、インシデント対策や急変時対応についての再確認を行った。また、免疫内科や整形外科での生物学的製剤を外来治療室で投与している現状がある。そのため、抗がん剤治療患者の予約枠が十分ではない状況であり、予約枠の検討を行い、改善を図った。

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：7回（定められた開催数：偶数月 第2火曜日、臨時開催あり）

開催時間：17：45～18：45

平均参加率：約90%

4. 研修会・勉強会の開催

なし

地域医療支援病院運営委員会

1. 目的

当院が地域のかかりつけ医などからの要請に適切に対応し、地域における医療の確保に必要な支援を行うことを目的とする。

2. 平成 29 年度の活動

5月、8月、11月、2月の年4回定期開催実施。

紹介関連統計、病床稼働率の報告。各出席者からの状況報告。及び意見交換を行い、外部委員から当院への要望等を伺う。

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：4回（定められた開催数：年4回 5月、8月、11月、2月の第4木曜日）

開催時間：14：30～15：30

平均参加率：88.9%

4. 研修会・勉強会の開催

委員会主催の研修会、勉強会開催はなし

1. 目的

当院の内外に発生する災害への医療対応に関する事項を審議・検討し、災害拠点病院として地域に貢献することを目的とする。

2. 平成 29 年度の活動

- ・法定消防訓練の実施（3回／年）
- ・マニュアルの改訂
- ・災害備蓄品の整理、入替等
- ・訓練企画チーム会訓練の協力
- ・災害研修人員確保（Hospitai MIMMS 等）

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：12回（定められた開催数：毎月 第2火曜日 12回）

開催時間：16：30～17：00

平均参加率：63%

4. 研修会・勉強会の開催

なし

救急診療委員会

1. 目的

救急診療に係る事項について審議し、救急診療の円滑な運営を図るとともに災害拠点病院としての機能を充実すること。

2. 平成 29 年度の活動

	H29.4	5	6	7	8	9	10	11	12	H30.1	2	3	合計
救急総件数	747	710	721	772	729	711	760	716	857	959	743	659	9,084
救急受付件数	701	663	676	726	695	677	702	662	800	881	674	610	8,467
1 日平均受付件数	23.4	21.4	22.5	23.4	22.4	22.6	22.6	22.1	25.8	28.4	24.1	19.7	23.2
入 院	225	225	234	254	244	228	239	245	273	292	205	193	2,857
外 来	476	438	442	472	451	449	463	417	527	589	469	417	5,610
(転科)	9	12	10	14	18	13	13	7	10	9	10	9	134
(転院)	28	10	13	12	20	16	20	18	21	21	26	22	227
DC 当院搬送外	46	47	45	46	34	34	58	54	57	78	69	49	617

3. 開催状況・平均参加率

開 催 回 数：12 回（定められた開催数：毎月 第 3 火曜日 1 回）

開 催 時 間：17：00 ～

平均参加率：69%

4. 研修会・勉強会の開催

なし

プレホスピタルケア委員会

1. 目的

プレホスピタルケアに係る事項について審議し、ドクターカーの円滑な運営を図るとともに病院前救急活動のレベル向上を目的として設置する。

2. 平成 29 年度の活動

例年通り毎月ドクターカーの出動状況や有用性等についてデータ分析を行った。

6月に救命士定例会を開催、医師によるドクターカー外傷症例についての講義を行った。消防向けにドクターカー出動に対するアンケートを実施し、結果内容を集約し、乗務医師に周知し、今後の活動に役立てた。

7月1日から半年間の中止事案の検証と1月の1ヶ月間の全件症例について要請基準別の内訳を集計し、救急部スタッフ会議で検討した結果を基に出動基準の見直しを行い、中止事案減少に努めた。

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：12回（毎月 第2火曜日 12回）

開催時間：13：00～14：00

平均参加率：71%

4. 研修会・勉強会の開催

6月27日（火）、6月28日（水） 救急部関係部署、北摂救急救命士会対象 勉強会開催

災害派遣支援活動委員会

1. 目的

災害派遣、支援に関連する事項並びに災害に関する教育、訓練、啓蒙等広く災害に関する事項について検討し、災害時において院内外を問わず、安全で良質な心のこもった医療に寄与することを目的とする。

2. 平成 29 年度の活動

- ・訓練・研修への参加調整、連絡、報告
- ・北朝鮮ミサイル推進剤・吹田市内大規模停電時の対応
- ・ユニフォーム更新
- ・物品管理マニュアルの改訂
- ・SCU 物品の管理リスト・ルールの作成
- ・委員長交代

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：8回（定められた開催数：毎月 第1木曜日 12回）

開催時間：13：00～14：00

平均参加率：77.5%

4. 研修会・勉強会の開催

12月18日 全職員対象 JDR・HuMA 活動報告会 開催

1. 目的

千里メディカルラリー・千里子どもメディカルラリー・千里学生メディカルラリーにおいて、参加者に安全で良質な救命医療技能コンテストを提供し、医療技術者の技能向上と将来医療従事者を志す人々の育成を図るべく、地域にとらわれない全国的なメディカルラリーを実施運営することを目的とする。

2. 平成 29 年度活動報告

- ①メディカルラリーの企画：開催場所を今年度はららぽーとエキスポシティ周辺に決定
- ②子どもラリーの企画運営
- ③学生ラリーの企画
- ④各ラリーの運営にかかる反省
- ⑤メディカルラリーのアンケート集計・結果報告
- ⑥子どもラリー済生会医学福祉共同研究に補助申請

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：11回（定められた開催数：月1回）
開催時間：10：30～12：00
平均参加率：80%

4. 研修会・勉強会の開催

なし

1. 目的

医師法第 16 条の 2 第 1 項に規定する臨床研修に関する省令の施行について（医政発第 0612004 号 平成 15 年 6 月 12 日（一部改正 平成 17 年 2 月 8 日） 厚生労働省医政局長通知）に基づき、当院において行う医師の初期臨床研修の方策について検討し、医師が、医師としての人格をかん養し、将来専門とする分野にかかわらず、医学及び医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるよう、プライマリ・ケアの基本的な診療能力（態度・技能・知識）を身につけることのできる初期臨床研修の実施を図ること。

2. 平成 29 年度の活動

【10 月】

新委員の紹介、研修医ローテーションの変更について（報告・確認）、履修状況について（報告）、平成 29 年度 初期臨床研修医アンケート結果について、初期臨床研修医 精神科研修について、今後の予定及び報告、平成 30 年度 病院説明会の出席について

総合診療部の研修について、グラム染色研修及び血液型・クロスマッチ検査の実技研修について（報告）

【3 月】

平成 29 年度 初期臨床研修医の修了判定及び再評価について、1 年次研修医の履修状況中間報告及び再評価について、クリニカルスキルテスト結果報告、平成 30 年度 総合診療部体制について、平成 30 年度研修スケジュールについて、平成 31 年度 初期臨床研修プログラムの改訂について、臨床研修理念および基本方針の検討、臨床研修病院としてのあり方について、指導者リスト及び評価対象の見直しについて、平成 31 年度募集に向けて、採用試験日及び見学会、募集活動について（報告）、初期臨床研修センター スタッフ医師増員について、2 年目研修医の緩和ケア研修会（PEACE）の受講状況について（報告）、平成 30 年度のローテーション承認に伴う、指導医について、平成 29 年度 初期臨床研修医修了式について

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：2 回（定められた開催数：年 2 回）

開催時間：15：00～16：00

平均参加率：54%（外部委員からは委任状あり 6 名）

4. 研修会・勉強会の開催

なし

1. 目的

初期臨床研修管理委員会の内部委員会として、当院において行う医師の初期臨床研修の方策について、院内の初期臨床研修管理委員会メンバーに加えて初期臨床研修医各年次からの代表1名により、運用面等における調整機能を果たすこと。

2. 平成29年度活動報告

【6月】

新委員の紹介、研修医ローテーションの変更について、初期臨床研修医および看護指導者による「研修環境評価表」のフィードバックについて、卒後臨床研修評価機構 指摘事項について、初期臨床研修医 精神科研修について(検討)、大阪市立大学医学部附属病院 たすきがけ研修医の増員について、履修進捗管理票の責任診療科変更について

【1月】

平成30年度 初期臨床研修医について、総合診療部の研修について

平成31年度募集に向けて、採用試験日及び見学会、募集活動について(報告)

初期臨床研修センター スタッフについて、2年目研修医の緩和ケア研修会(PEACE)の受講状況について、平成29年度 初期臨床研修医修了式について

【2月】

平成30年度 初期臨床研修における総合診療部への研修協力をお願い、平成30年度 研修スケジュールについて

3. 今後の課題・展望

引き続き、臨床研修医の満足度を向上し、フルマッチングを目指す

4. 開催状況・平均参加率

開催回数：3回(定められた開催数：年2回)

開催時間：17:00～18:00

平均参加率：75%

5. 研修会・勉強会の開催

なし

1. 目的

当院における図書室機能の確立と適切な運営を図ること及び「済生会千里病院医学雑誌」の発行により、当院の医学及び学術の向上に寄与することを目的とする。

2. 平成 29 年度の活動

- ・ H30 年度図書費予算について、和雑誌 92 誌・洋雑誌 30 誌購読、UpToDate 契約更新、今日の臨床サポート契約更新、として付議申請し承認を得た。
- ・ 購読形態（冊子／オンライン）は、科の合計金額以内での変更を可能とすることを決定した。

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：1 回（定められた開催数：随時）

開催時間：16：00～17：00

平均参加率：78%

4. 研修会・勉強会の開催

なし

1. 目的

安全で良質な医療を提供するため、院内暴力行為等に対し、総合的かつ計画的な対策を推進することにより、職員の安全を確保し、快適な職場環境の形成の促進を図ることを目的とする。

2. 平成 29 年度の活動

- 4 月：発生事例の検証・分析
- 6 月：発生事例の検証・分析
- 7 月：発生事例の検証・分析
- 10 月：発生事例の検証・分析
研修会の内容検討
- 12 月：発生事例の検証・分析
研修会実施報告
- 2 月：発生事例の検証・分析
- 3 月：発生事例の検証・分析

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：7回
開催時間：17：00～18：00
平均参加率：56%

4. 研修会・勉強会の開催

平成 29 年度院内暴力行為対策に関する研修会
11 月 28 日（火）17：30～18：30

1. 目的

「ハラスメントの防止に関する規程」第3条第2項の規定に基づき、ハラスメントの防止及び対策を適切に実施することを目的とする。

2. 平成 29 年度の活動

- ・ハラスメント事例 1 件。
- ・病院全体研修会として、今年度は初めて、e-ラーニングを使用しての研修会とした。受講率は、88%（728 名受講 / 821 名中）と、講師を招いての研修会より高かった。
- ・周知活動として、ハラスメントに関する事例についてインフォメーションを行い、また、広報ポスターを作成し、院内掲示した。

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：7回（臨時開催含む）

（定められた開催数：2カ月に1回 第2月曜日 6回）

開催時間：16：30～17：00

平均参加率：90.3%

4. 研修会・勉強会の開催

1/22～3/10 e-ラーニング：ハラスメント防止対策

1. 目的

当院に勤務する医師の負担軽減及び処遇の改善に関し、計画の策定、計画遂行の管理・評価、計画の見直し等を行う。

2. 平成 29 年度の活動

(1) 勤務医の勤務時間及び当直を含めた夜間勤務状況の把握

医師の採用（診療医師数の遍在を考慮）、勤務医の把握（業務の量や内容、業務負担に考慮した勤務体系（処遇を含む）の策定、当直翌日の勤務への配慮（業務内容の調整、予定手術の術者への配慮）救命救急センター勤務医師の交代制勤務、短時間勤務医師の雇用促進（32 時間勤務の麻酔科等、育児を行う医師の短時間勤務体制の利用促進）

(2) 医師に対する医師事務作業補助体制

医師事務作業者の適正数配置（年間を通して欠員のない体制）と診療場所（外来・病棟）での勤務時間増、より充実した研修計画の策定と実行（医師の参画）病棟配置業務の検討、情報システムを活用した IT 化の推進。

(3) 地域の他の医療機関との連携体制

地域支援病院の機能の明確化（救急医療、入院、専門的・集中医療～退院調整対応能力の強化、患者支援センターへの増員、地域医療機関への訪問活動、地域医療従事者向けの研修・講座の開催）

(4) 外来縮小の取組み

逆紹介率（70%以上）の維持、地域医療支援病院の機能明確化（かかりつけ医との適切な役割分担と連携の強化）午後完全予約制維持、午前外来診療の一部完全予約制検討、選定療養費（初診の値上げ、再診や時間外の設定開始）

(5) チーム医療の推進（医師、看護師と事務職員との役割分担推進）

チーム医療の充実・活性化（医療支援スタッフの参加）病棟薬剤師配置の維持、各チームへの事務員配置、病棟への事務員、看護助手配置による医師や看護師の負担軽減

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：3回（定められた開催数：年3回 第1水曜日）

開催時間：17：00～18：00

平均参加率：80.3%

4. 研修会・勉強会の開催

なし

1. 目的

「労働安全衛生法」に基づき当院における労働環境について審議し労働災害の防止に関する総合的計画的な対策を推進することにより職員の安全と健康を確保するとともに、快適な職場環境の形成の促進を図ることを目的とする。

2. 平成 29 年度の活動

【カウンセリングルームの利用】

平成 29 年度の利用状況……173 件実施

【職員健診における職員の負担軽減】

職員健診で採血室が職員、患者対応のため混雑している為、中央検査部・看護部・総務課で分担し、会議室での採血を実施した。結果、採血室での患者さんの待ち時間が減り、採血室看護師の負担も軽減された。また、秋の健診では総務課でレントゲンの受付を行い、放射線技師の負担も軽減された。

【過重労働の防止】

対象者には産業医による面接を実施。時間外労働の多い職員に関しては、所属長へ改善を勧告。業務量調査等を含め時間外労働を減らす対策を依頼した。

【ストレスチェックの実施】

平成 29 年 11 月に実施。受検率は 75.5%。受検者数 603 名。集団分析結果について、全体の結果と該当部署の結果を質問項目ごとに分類して各所属長へ回覧した。所属長からの質問に対しては臨床心理士が対応した。平成 30 年 1 月に労働基準監督署へ結果報告書を提出した。

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：12 回（定められた開催数：毎月 第 2 金曜日 12 回）

開催時間：17：00～18：00

平均参加率：76.6%

4. 研修会・勉強会の開催

なし

福利厚生委員会

1. 目的

当院における職員の福利厚生に係る事項について審議し、適正な福利厚生の実施を図ることを目的とする。

2. 平成 29 年度の活動

- 4 月 24 日 2016 年度事業報告及び決算報告
職員旅行廃止の決定
- 5 月 29 日 福利厚生アウトソーシングサービス業者によるプレゼン
- 6 月 9 日 福利厚生アウトソーシングサービスの導入及び業者検討
- 9 月 28 日 福利厚生アウトソーシングサービス導入及び業者決定

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：4 回（適宜開催）
開催時間：16：00～18：00 の間で約 30 分～1 時間
平均参加率：81%

4. 研修会・勉強会の開催

11 月 1 日 福利厚生倶楽部の導入

院内保育園運営委員会

1. 目的

当院に勤務する職員の福利厚生として設置した保育園において、安心・安全な保育環境の整備と乳幼児の健やかな心身育成を促し、充実した保育が継続されるための必要な事項を検討することを目的とする。

2. 平成 29 年度の活動

- ・換気の問題があり、空気清浄機 2 台を設置した。
- ・防災訓練実施のため、防災頭巾を購入した。
- ・アレルギー食の導入について検討した。
- ・病児保育、土曜・日曜の保育の実施について検討した。

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：3 回（定められた開催数：4 カ月に 1 回）
開催時間：16：00～16：30
平均参加率：86%

4. 研修会・勉強会の開催

開催なし。

2. 医療チーム活動

糖尿病チーム

1. 目的

糖尿病対策を推進し、発症予防と治療の質の向上を図ることを目的とする。

2. 平成 29 年度の活動

- ・チーム会：毎月 1 回開催。症例検討、糖尿病教育に関する検討など。
- ・糖尿病教室開催：毎月 1 回開催。平均参加者数 13 名／月。
- ・世界糖尿病デーイベント開催
：11 月 14 日の世界糖尿病デーに来院者を対象に血糖測定、血圧測定、健康相談、栄養相談、糖尿病に関するポスターやフードモデルの展示、糖尿病啓発のティッシュ配布を行った。（血糖測定実施者 34 名、血圧測定実施者 36 名、ティッシュ配布数約 200 個）
- ・糖尿病教育用パンフレットの作成
- ・糖尿病患者会（千歩会）の活動支援

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：12 回（定められた開催数：毎月 第 1 月曜日）

開催時間：16：00～17：00

平均参加率：68%

4. 研修会・勉強会の開催

チーム会で勉強会を開催

4 月 3 日 糖尿病ミニレクチャー

10 月 2 日 DVD 勉強会「災害時の糖尿病患者に対する対策」

12 月 4 日 DVD 勉強会「災害時の糖尿病診療～熊本地震の経験より～」

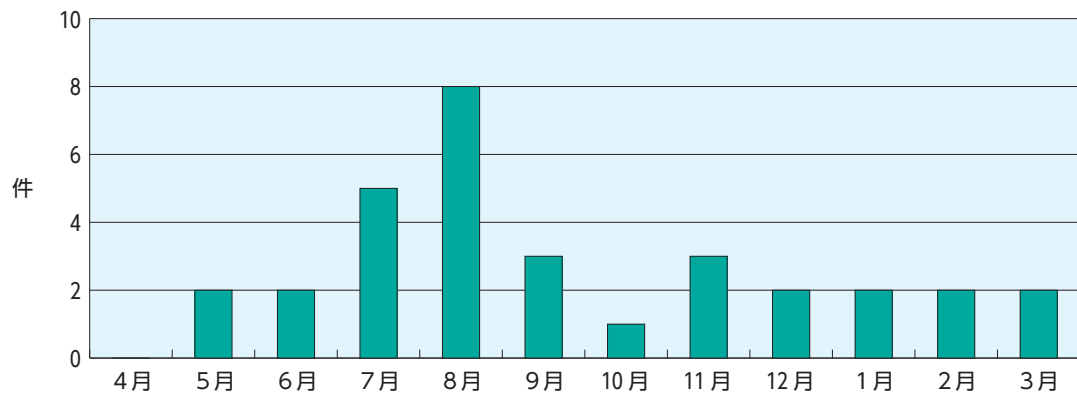
1. 目的

糖尿病腎症の予防を推進し、糖尿病腎症の指導（教育）、治療の質の向上を図ることを目的とする。

2. 平成 29 年度の活動

- ・糖尿病透析予防指導件数 32 件／年（月平均 3 件）

年間透析予防指導件数



- ・チーム会での症例検討数 47 件／年

3. 開催状況・平均参加率

開催回数： 12 回（定められた開催数：毎月 第 1 金曜日）

開催時間： 16：30 ～ 17：30

平均参加率： 81%

4. 研修会・勉強会の開催

研修会・勉強会の開催なし

1. 目的

化学療法チームは、化学療法において患者により質の高い医療を提供するために、スタッフの教育、各部門業務の安全性の向上と均質化・効率化を目的とする。

2. 平成 29 年度の活動

- 4 月：院内採用のポート針の把握、生理食塩水のフラッシング手順の作成
- 5 月：今年度の計画、開放式三方活栓キャップの再導入の検討
- 6 月：インシデント報告のみ（川南欠席のため）
- 7 月：医療安全カンファレンスの報告
- 8 月：安全な投与に関して川南のミニレクチャー、薬袋に「化学療法」の印字が決定
- 9 月：化学療法マニュアルの見直し
- 10 月：化学療法マニュアルの見直し、外来化学療法依頼用紙の廃止
- 11 月：CV ポート穿刺基準を静脈注射委員会へ依頼、吉岡医師より乳癌の術前術後化学療法についてミニレクチャー、肝動脈塞栓術パスの排尿管理について見直し
- 12 月：化学療法マニュアルの見直し、西塔薬剤師より乳癌術後補助化学療法で使う抗がん剤についてミニレクチャー、外科化学療法パスの見直しの必要性検討
- 1 月：CV ポート穿刺の返事待ち、CV ポートメーカーパンフレット導入検討
- 2 月：閉鎖式輸液セットの導入検討、化学療法指示書の確認方法を周知
- 3 月：閉鎖式輸液セット・化学療法マニュアル改訂の進捗状況、次年度の各部署の課題

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：12 回（定められた開催数：毎月 第 4 金曜日 12 回）

開催時間：15：00～16：00

平均参加率：6 割

4. 研修会・勉強会の開催

8 月、11 月、12 月 チーム内 勉強会開催

褥瘡対策チーム

1. 目的

当院の褥瘡リスクのある患者および、褥瘡を有する患者に対し、総合的な褥瘡対策を行い、医療の質の向上を図ることを目的とする。

2. 平成 29 年度の活動

- ・例年通り、週に 1 回の褥瘡回診を行った。
- ・院内全体のレベルアップを目標に、褥瘡対策チーム会場で月に 1 度ミニレクチャーをメンバーが持ち回りで行った。チーム会で行ったミニレクチャーを、各部署へリンクナースが広報することとしたが、リンクナースの熟練度に差があり、広報できない部署もあった。
- ・年間を通しての褥瘡推定発生率 1 %以下を目標としたが、1.09%であった。
- ・褥瘡対策マニュアルを全面改訂した。

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：12 回（定められた開催数：毎月 1 回 第 2 水曜日）

開催時間：16：00～17：00

平均参加率：88.46%

4. 研修会・勉強会の開催

10 月 11 日 全職員対象 院内研修会「褥瘡予防ポイントを見逃さない！」開催

4 月～翌年 2 月 毎月チーム会内ミニレクチャー開催（計 10 回）

アロマセラピーチーム

1. 目的

院内におけるアロマセラピーの推進を図ることを目的とする。

2. 平成 29 年度の活動

【目標】アロマセラピーの正しい方法を理解し、実践することが出来る。

行動目標：マニュアルを見直し、修正する。

各部署で使用中のアロマ物品を見直すとともに統一化する。

4 月：「アロマセラピーの基礎」について、チーム内で勉強会開催

5 月：アロマハンドマッサージについて説明と実践

各部署のアロマセラピー関連の物品を確認

6 月：アロマハンドマッサージの実践練習、七タイベントの準備

7 月：「七タイベント」：外来患者さん対象アロマハンドマッサージ

8 月：マニュアル見直し

9 月：マニュアル再検討

10 月：マニュアル修正

11 月：クリスマスイベントの準備

12 月：「クリスマスイベント」：外来患者さん対象アロマハンドマッサージ

1 月：スタッフ対象アロマハンドマッサージ体験会の準備

2 月：スタッフ対象アロマハンドマッサージ体験会を開催

3 月：マニュアル完成

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：12 回（定められた開催数：毎月 第 2 月曜日 12 回）

開催時間：15：00～16：00

平均参加率：79.2%

4. 研修会・勉強会の開催

4 月 13 日「アロマセラピーについて」勉強会開催（チーム内）

5 月 13 日「アロマハンドマッサージ」技術説明（チーム内）

2 月 8 日「アロマハンドマッサージ体験会」全職員対象

1. 目的

乳癌診療において、患者により質の高い医療を提供すると共に、患者の QOL を高め全人医療を提供していくこと。

2. 平成 29 年度の活動

○症例検討

○乳がん術後リハビリ患者報告

4 月：ミニレクチャー実施 「乳癌の診断について」

8 月：ミニレクチャー実施 「乳癌 術後出血」

9 月：ミニレクチャー実施 「ボディイメージ変容への看護」

10 月：Japan Mammography Sunday 実施

11 月：ミニレクチャー実施 「オンコタイプ DX の検査をした症例について」

12 月：ミニレクチャー実施 「乳癌の化学療法、過敏症について」

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：12 回（定められた開催数：毎月 第 1 金曜日）

開催時間：15：00～16：00

平均参加率：83.3%

4. 研修会・勉強会の開催

6 月：第 16 回乳腺疾患勉強会実施 「今話題のデンスブレストって何？」

「病理検査って何ですか？」

「乳がんの診断・治療+α」

10 月：第 17 回乳腺疾患勉強会実施 「乳がん術後の乳房再建について」

「医療費のお話」

11 月：院内勉強会実施

「がんの親を持つ子どもへのサポート」

「HER2 陰性進行再発乳がんの治療戦略」

2 月：第 18 回乳腺疾患勉強会実施 「化学・内分泌療法の新しい治療薬」

「補整下着の選び方&自分らしいおしゃれの仕方」

1. 目的

心臓リハビリテーションチーム会はすべての心疾患、血管疾患の再発予防と患者さんの生活の質の向上および社会復帰を図ること。

2. 平成 29 年度の活動

チーム会：毎月 1 回開催

●運動療法・CPX の実施状況について報告。

●心臓病教室実施状況についての報告。

●症例検討：1 症例／月カルテ回診をしながら、振り返りを行った。その他、ICU に入院中の患者について情報共有

●勉強会

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：12 回（定められた開催数：毎月 第 3 木曜日 12 回）

開催時間：17：20 ～ 18：00

平均参加率：85%

4. 研修会・勉強会の開催

・症例検討会

・心大血管疾患に関するガイドラインの勉強会

・学会発表の報告会

1. 目的

がん患者の生活機能と生活の質の改善を目的とする。がんとその治療による制限を受けた中で、患者に最大限の身体的・社会的・心理的・職業的活動を実現させること。

2. 平成 29 年度の活動

毎月第 1 月曜日 15 時からチーム会を開催。前月分の新患患者数や業務を進める中での問題点について共有し、対応策、解決策の議論を行っている。

年に一度がんリハビリテーションチーム主催勉強会を開催。

がんリハビリテーションマニュアルを作成し、各病棟に配置できるよう取り組む。

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：11 回（定められた開催数：毎月 第 1 月曜日 12 回）

開催時間：15：00～16：00

平均参加率：80.4%

4. 研修会・勉強会の開催

2月19日 がんリハチーム主催勉強会開催（がんリハ概論、症例報告）

1. 目的

入院患者の栄養状態を評価し、低栄養等の栄養改善が必要な患者に対し適切な栄養管理方法を検討し、提言、実施し、栄養状態を改善していくことを目的とする。

2. 平成 29 年度の活動

- ・毎月第 2・4 水曜日に NST 会議、第 1・3・5 水曜日に NST 回診を実施し、NST 会議では介入患者の症例カンファレンスを開催した。
- ・5 月より歯科医師連携加算の算定を開始し、栄養サポートチーム加算を 325 件／年算定した。
- ・NST 勉強会を 5 回／年開催、NST 通信を 4 回／年発行した。NST 通信は勉強会の内容を記載した。
- ・日本病態栄養学会 NST 臨床研修受入れ施設として、外部より 10 月に NST 研修生を 1 名受け入れた。
- ・褥瘡・創傷の治癒促進、栄養状態の改善を目的とした栄養補助食品について導入を検討した。

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：24 回（定められた開催数：毎月 第 2・4 水曜日 24 回）

開催時間：15：00～16：00

平均参加率：64%

4. 研修会・勉強会の開催

- | | | |
|-----------|-------|-----------------|
| 6 月 14 日 | 全職員対象 | 第 1 回 NST 勉強会開催 |
| 9 月 13 日 | 全職員対象 | 第 2 回 NST 勉強会開催 |
| 9 月 25 日 | 全職員対象 | 臨時 NST 勉強会開催 |
| 10 月 25 日 | チーム内 | 勉強会開催 |
| 12 月 13 日 | 全職員対象 | 第 3 回 NST 勉強会開催 |
| 2 月 14 日 | 全職員対象 | 第 4 回 NST 勉強会開催 |

1. 目的

実効ある NST 活動を実施するため、NST の中に設置するものであり、嚥下機能の改善が必要な患者に対し、適切な栄養管理方法を検討し、提言、実施し、栄養状態を改善していくことを目的とする。

2. 平成 29 年度の活動

摂食機能療法実施中の患者の状況確認と訓練内容の確認、食物による窒息のリスクが高い患者の NST 嚥下チーム介入依頼から早期に介入し訓練開始が出来るよう心がけた。

- ・摂食機能療法実施 243 名 2735 件 505975 点（前年度 420320 点）
- ・摂食嚥下訓練マニュアルの改訂
- ・内視鏡下嚥下機能検査の実施
- ・NST 回診時の歯科連携にて嚥下障害患者の口腔内の評価を実施

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：12 回（定められた開催数：毎月 第 4 水曜日 12 回）

開催時間：17：30～18：30

平均参加率：83%

4. 研修会・勉強会の開催

なし

1. 目的

病院感染の予防・拡大防止および感染発生の特定、制圧に向けた対策を検討し、実践することにより、感染を制御する。

2. 平成 29 年度の活動

- ・毎週月曜日（15：00-16：00）
耐性菌検出患者の感染対策評価、院内の環境についての評価のためのラウンド実施
- ・毎週水曜日（15：00-16：00）
抗菌薬ラウンド（広域抗菌薬使用、抗 MRSA 薬使用、血液培養陽性患者を対象に適正使用を推奨）
- ・サーベイランスより改善策に向けた取り組みを立案、実施
手指衛生、耐性菌、SSI、UTI、BSI、VAP、針刺し・切創 / 血液・体液曝露
- ・年 2 回、ICT 主催の勉強会を開催

会議では、①感染症報告、②手指衛生サーベイランス、③針刺し・切創 / 血液・体液曝露、④ ICT リンクナース会議について定例報告を行い、以下について検討を行った（会議議事録より抜粋）。

5 月：外科 SSI サーベイランス結果報告からの改善策立案

ノンアルコール手指衛生材料導入について

6 月：自己血糖測定中の廃棄容器の運用について

8 月：末梢静脈より持続投与する薬剤の管理

9 月：UTI サーベイランスフィードバック

12 月：抗菌薬適正使用指針 / マニュアルの整備

1 月：整形外科 SSI サーベイランス結果報告

3 月：手指衛生キャンペーン評価

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：12 回（定められた開催数：毎月 第 3 水曜日 12 回）

開催時間：16：00～17：00

平均参加率：57.5%

4. 研修会・勉強会の開催

第 1 回 ICT 勉強会（全職員対象）受講者 44 名

テーマ：抗菌薬の考え方

講師：シスメックス株式会社 竹井真一先生

第 2 回 ICT 勉強会（全職員対象）受講者 11 名

テーマ：耐性菌について（CRE、VRE を中心に）

講師：感染管理室 藤岡載三、西根昭吉

1. 目的

院内における全ての患者と家族に対して、身体的問題、心理社会的問題、スピリチュアル問題に関して対処することで、QOL の高い生活支援を行うことを目的とし設置する。(WHO 緩和ケアの基本的な考え方一部引用)

2. 平成 29 年度の活動

4 月	目標設定、症例検討
5 月	定期議題の検討 症例検討
6 月	定期議題の検討 症例検討
7 月	定期議題の検討 症例検討
8 月	定期議題の検討 症例検討
9 月	定期議題の検討 症例検討
10 月	定期議題の検討 症例検討
11 月	定期議題の検討 症例検討
12 月	定期議題の検討 症例検討
1 月	定期議題の検討 症例検討
2 月	定期議題の検討 症例検討
3 月	定期議題の検討 症例検討

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：12 回（定められた開催数：毎月 第 1 水曜日 12 回）

開催時間：14：30～16：00（多職種 14：30～15：00 症例検討 15：00～15：30 リンクナース会議 15：30～16：00）

平均参加率：多職種会議 70% リンクナース会議 83%

4. 研修会・勉強会の開催

7 月	全職員対象	骨転移勉強会開催
11 月	全職員対象	呼吸困難勉強会開催
2 月	全職員対象	腹水勉強会開催

1. 目的

人工呼吸器を装着している患者への管理方法の標準化と多職種間で連携を図り質の高い呼吸器ケアを提供することを目的として活動する。

2. 平成 29 年度の活動

➤ 今年度全職員対象のチーム会主催の勉強会

- 第 1 回 酸素療法 低・高流量システム
- 第 2 回 ネーザルハイフロー
- 第 3 回 NPPV 管理
- 第 4 回 人工呼吸器管理
- 第 5 回 気管内吸引

➤ チーム会内での勉強会の実施

- 5 月 古川副部長 「ARDS について」
- 6 月 臨床工学科 「加温加湿器 MR850 使用における対応事例」
- 7 月 リハビリテーション部 「コンディショニング入門」
- 8 月 ICU 「人工呼吸器装着患者の看護」
- 9 月 救急病棟 「ラセン入り気管切開チューブアジャストフィット」
- 10 月 4 階病棟 「症例検討 左大腿骨転子部骨折 誤嚥性肺炎」
- 11 月 5 階病棟 「胸腔ドレーン管理」
- 12 月 6 階病棟 「VF 蘇生後の人工呼吸管理について考える」
- 1 月 7 階病棟 「認知症患者の酸素療法について」
- 2 月 8 階病棟 「NPPV マスク装着中の終末期患者に起きた圧迫創の振り返り」
- 4 月 メンバー紹介 チーム会の活動内容の説明
- 3 月 1 年間のチーム会活動の振り返り 来年度の活動内容の検討
- 4 月と 3 月はチーム会内の勉強会はなし

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：12 回（定められた開催数：毎月 第 4 木曜日）

開催時間：17：30～18：30

平均参加率：90%

1. 目的

当院における ICLS (Immediate Cardiac Life Support) コースの円滑な運営や急変時対応の検証等を通し、心肺蘇生術の質の向上を図ることを目的とする。

2. 平成 29 年度の活動

- ①チーム会
- ②千里二次救命処置コース、指導者養成ワークショップの運営
- ③コースに使用する資機材チェックリストの整理、倉庫内の資機材の配置、故障品の修理や消耗品の発注に関する依頼
- ④ドクターハリーの検証症例について、チーム会での議論の要約、各部署に啓発すべき内容についての配信
- ⑤各部署の ICLS 受講状況や受講対象者数の把握、急変対応・心肺蘇生に関する教育方法 (DVD、レクチャー、マニュアル作成) の検討
- ⑥院内インストへの事前勉強会、院内認定インストの把握、新規院内認定インストの育成
- ⑦院外 BLS 講習会動員

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：12 回 (定められた開催数：毎月 第 2 木曜日 12 回)

開催時間：15:00～16:00

平均参加率：78%

4. 研修会・勉強会の開催

5/20 第 146 回千里二次救命処置コース、他 7 回

*各コースの前にインストラクター事前勉強会を開催

8/5 第 4 回千里二次救命処置指導者養成ワークショップ

4/13 ICLS チーム会 急変時対応事例検討、他 11 回

1. 目的

ERAS プロトコルによる周術期管理の推進及びプロトコルの改訂を行う。

2. 平成 29 年度の活動

7 月：平成 29 年度第 1 回 ERAS 勉強会の開催

- ・ ERAS チームの取り組みについて、それぞれの職種の役割を具体的に説明
- ・ ERAS パスに組み入れたエレンタール服用指導と服用率、栄養評価の検討

12 月：平成 29 年度第 2 回 ERAS 勉強会の開催

- ・ 当院 ERAS プロトコルにおける理学療法士介入の現状と今後の課題
介入開始から 5 年間の経過
- ・ エレンタールの有用性について

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：12 回（定められた開催数：第 1 月曜日）

開催時間：14：00～15：00

平均参加率：90%

1. 目的

災害拠点病院としての災害対応能力向上及び災害時における地域との医療連携強化の為、災害教育、訓練、啓蒙を専門的に計画、実施することを目的とする。

2. 平成 29 年度の活動

- ・チーム会立上げ
- ・平成 29 年度大規模地震時医療活動訓練計画・対応
- ・29 年度チーム会活動計画
- ・豊能医療圏災害時地域医療連携強化プロジェクト研修企画運営
- ・災害対策マニュアル改訂におけるエリア設定
- ・近畿ブロック訓練計画・対応
- ・来年度のチーム会活動計画
- ・新入職員向けチーム会紹介リーフレット作成

3. 開催状況・平均参加率

開催回数：13 回（定められた開催数：不定期開催・H30 年度より第 1 月 17：00）

開催時間：17：30～19：00

平均参加率：76.9%

4. 研修会・勉強会の開催

- | | | | |
|----------|--------|----------------|----|
| 7 月 1 日 | 選出職員対象 | 院内災害訓練に向けた机上研修 | 開催 |
| 7 月 19 日 | 選出職員対象 | 訓練参加者説明会 | 開催 |
| 7 月 28 日 | 選出職員対象 | 院内災害訓練 | 開催 |
| 12 月 2 日 | 選出職員対象 | 院内大規模災害時対応机上研修 | 開催 |